

熊谷市史料集4 近世道中記

熊谷市教育委員会

熊谷市史料集4

近世道中記

熊谷市教育委員会



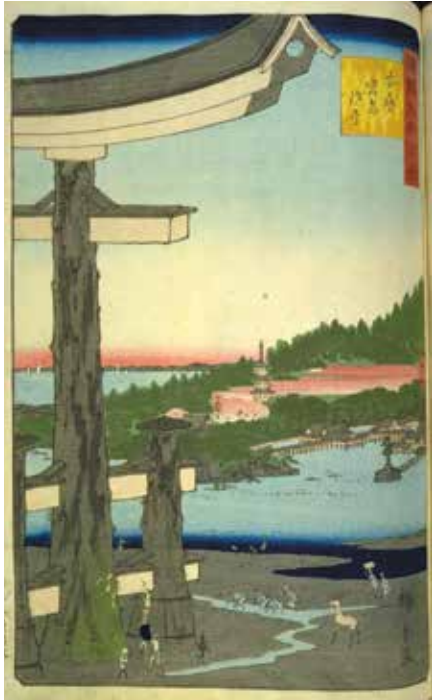
1 大嶋家文書の道中記（本巻収録文書）



3 田辺の旅籠屋（本書 47 頁）



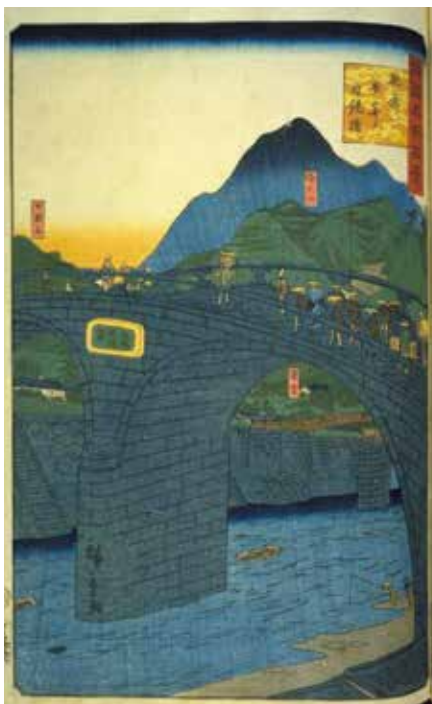
2 陸奥松島（本書 26 頁）



5 安芸宮島 (本書 64・65 頁)



4 泉州堺難波屋の松 (本書 51 頁)



7 長崎眼鏡橋 (本書 87 頁)



6 周防岩国錦帯橋 (本書 65 頁)

熊谷市史料集4

近世道中記

熊谷市教育委員会

発刊にあたって

熊谷市教育委員会教育長 野原 晃

この度、本市の市史編さん事業において『熊谷市史料集』の四冊目にあたる「近世道中記」を刊行いたします。

市史編さん事業では、平成一九年度から市内に遺されている古文書の調査を進めており、多くの方々から情報をお寄せいただくなどの御協力を賜りながら、少しずつではございますが、成果を上げてきております。しかしながら、古文書はいわゆる「くずし字」で書かれたものが多く、市民の方々からは読めないという声も多く聞かれ、本書のような現代の文字に翻刻された史料集の刊行も、市史編さん事業の中では必要なことと考えております。

本書では、熊谷市弁財の大嶋清和家文書の中の道中記を取り上げています。道中記とは旅日記のことで、江戸時代の庶民は、関所などによって通行を規制されていたと考えられてきましたが、江戸時代も後期になると、一生に一度は伊勢参宮を目指すといわれるように、多くの人々が旅に出たようです。熊谷の人々も旅に出ていました。本書で掲げた史料からは、その具体的な旅の様子をうかがうことができるでしょう。本書をひもとくことで、江戸時代の熊谷の人々がどのような旅路を巡り、何を見て、何を食べていたかなどを知っていただければと思います。

今回、古文書の解説・筆耕やデータ入力を妻沼古文書学習会の皆様にご協力いただきました。あわせて、解説も御執筆いただき、史料内容の理解を助けるものとなっております。

なお、本書に収録した史料の原文書を所蔵されている大嶋清和氏が、平成二十八年三月に御逝去されました。大嶋氏には、古文書の史料提供のみならず、自らも積極的に妻沼古文書学習会に参加され、古文書の解説においても中心的な役割を果されていたことがつております。これまでの御尽力に深く感謝申し上げますとともに、心より御冥福をお祈りいたします。

結びに、本書の刊行にあたり、御支援・御協力をいただきました関係者各位に厚く御礼申し上げます。

凡例

一、本書は、武蔵国幡羅郡弁財村（現、熊谷市弁財）の大嶋清和家文書から近世の道中記三冊を取り上げて、史料の翻刻をしたものである。

一、収録した史料の理解を深めるため、はじめに解説を付した。

一、収録した史料には、配列順に一連の番号を付し、史料の内容を示す表題を付した。

一、史料の収録にあたっては、原本の忠実な活字化を原則としたが、通読の便を考え、下記のように処理した。

1 漢字は原則として常用漢字を用いた。常用漢字のないものは原本のままとした。

2 史料を読みやすくするために、読点「、」や並列点「・」を付した。清濁・ふり仮名については原本のままとした。

3 史料本文の右脇に、誤字や意味の不明な時は（ママ）、脱字は（脱）、衍字は（衍）、解説に疑問が残る場合は（カ）と注記した。

4 変体仮名は、原則として現行の字体に改めた。ただし、者（は）・江（え）・而（て）・茂（も）・与（と）は右脇上

に小さく寄せて、そのまま表記した。

5 合字は、平仮名・片仮名に直したが、例外的に「ㇿ（より）」はそのまま表記した。

6 踊り字は、漢字を「々」、仮名を「ゝ」、片仮名を「ゝ」にて表し、「く」も使用した。

7 敬意を示す闕字は一字あけ、平出は二字あけ、抬頭は改行して本文より一字上げとした。

8 虫損・汚損などにより判読できない文字は、字数のわかるものを□□で示し、字数のわからないものを「」で示した。

9 削除・訂正箇所は、原文の左脇に見せ消し「」を付し、訂正文を右脇に記した。なお、原文が不明なときは■で示した。

10 異筆・加筆は、該当する文章・語句を「」で括って示し、右脇に（加筆）などと注記した。行間の加筆は、原則として本文に挿入した。

11 表紙・裏表紙・中扉・包紙・封紙などは、「」で括って右脇に（表紙）などと注記した。

12 貼紙・付札・下札・付箋、朱書・異筆などは、「」で示し、右脇に（ ）で注記した。

13 印判は、その形状に合わせて㊦・(角印)などと、花押・

軸印・爪印・拇印は(花押)などと、印影・花押影は(印影)などと記し、写して「印」「花押」などと記されたものはその文字をそのまま記した。

一、史料の典拠は、史料の末尾に()で示し、所蔵機関名・文書名・文書番号の順に記した。

一、史料集は、可能な限り原史料のまま収録した。史料のなかには、一部差別的な用語が含まれるが、歴史的用語としてそのまま用いた。これは、歴史的事実を正しく認識し、非人道的差別の解消に資するためである。

一、文書の筆耕・入力、解説の執筆、校正は、妻沼古文書学習会の井出英美子・大嶋清和・栗原健一・滝沢きよ子・望月潤一・山本喜久治が担当した。なお、巻末の旅程表は持田郁子(市史編さん室臨時職員)が作成した。校正には、細野健太郎(熊谷市史近世専門部会専門調査員)・藤井明広(熊谷市史近世専門部会特別調査員)のご助力を得た。

目次

発刊にあたって

凡 例

目 次

口絵解説

解 説

史 料

一 文政二〇年（一八二七）閏六月 湯殿山立山道中記

二 天保二年（一八四〇）正月 道中袖日記

三 嘉永二年（一八四九）四月 長崎順り道中記（写）

熊谷市史編さん関係者一覧

旅程表

1

17

33

83

92

口絵解説

- 1 大嶋家文書の道中記（本巻収録文書）
本書に収録した「湯殿山立山道中記」「道中袖日記」「長崎順り道中記」の表紙である。いずれも横半帳である。
- 2 陸奥松島（本書二六頁）
「六十余州名所図会」（国立国会図書館ウェブサイトから転載）
- 3 田辺の旅籠屋（本書四七頁）
林英夫編『日本名所風俗図会』一八巻諸国の巻Ⅲ（角川書店、一九八〇年）より転載。
- 4 泉州堺難波屋の松（本書五一頁）
「諸国名所百景」（国立国会図書館ウェブサイトから転載）
- 5 安芸宮島（本書六四・六五頁）
「諸国名所百景」（国立国会図書館ウェブサイトから転載）
- 6 周防岩国錦帯橋（本書六五頁）
「六十余州名所図会」（国立国会図書館ウェブサイトから転載）
- 7 長崎眼鏡橋（本書八七頁）
「諸国名所百景」（国立国会図書館ウェブサイトから転載）

解説

はじめに

本書は、『熊谷市史料集』第四巻として、武蔵国幡羅郡弁財村（熊谷市弁財）の大嶋清和家文書にある道中記三冊（市史編さん室寄託）を取り上げて、史料を活字化して刊行するものである。

近世の人々は、村人や町人たちのような庶民でも、時代を経るにしたがつて多くの者たちが旅に出た。彼らは、伊勢参宮を表向きの目的地とするが、その多くは諸国の名所・旧跡などを巡って見聞を広めていた。さらに、その旅の様子をさまざまなかたちで記録した。その記録の一部が現在に伝えられている。本書に収録した道中記は、そのような具体的な旅日記の一つで、江戸時代に現在の熊谷市域で暮らしていた人々が実際に旅をして記録したものである。それらをひもとくことで、私たちは近世の人々がどのような旅をしていたか、その具体像の一端を知ることができよう。

まず、史料を読むにあたって参考とするために、簡単な解説

を付しておきたい。収録した三冊の史料について概略を説明した上で、旅の交通をみて、続いて旅の諸相として、城・陣屋、神社仏閣、名所・旧跡、名木、特産品、名物というテーマを設定して詳述していこう。

一 道中記の旅行者と旅程

本書に収録した道中記は、前述した通り、いずれも弁財大嶋家文書である。大嶋家文書は、市史編さん室にて整理・調査をした後、平成二〇年度に市へ寄託された。文書群は、近世・近代文書を中心に六六八点からなるが、最古の文書が慶長五年（一六一〇）の年貢割付状であり、近世前期の文書も含まれている。文書の多くは、大嶋家が近世において弁財村の名主役を勤めたことから作成・保管されてきた文書が多いものと思われる。なお、文書群の詳細については、「寄託文書の紹介 弁財大嶋清和家文書について」（熊谷市教育委員会編『熊谷市史研究』二号）を参照されたい。

続いて、本書に収録した道中記について、それぞれみていこう（旅程の詳細は、巻末の「旅程表」を参照）。

1 文政一〇年（一八二七）閏六月「湯殿山立山道中記」

（弁財大嶋家文書一八）

〔縦八・〇cm×横一三・二cm、表紙共全四〇丁、墨付三七丁〕
 横半帳で表紙・裏表紙がある。表紙には、「文政十亥年閏六月吉日」という年月日とともに、表題が記されている。裏表紙には、「武州弁財村大嶋常七郎」という記名と「同行七人」とある。

筆者は、裏表紙によると、弁財村の大嶋常七郎とあるが、常七郎については、今回具体的に特定することができなかった。旅の同行者は、中奈良村（熊谷市中奈良）の六名（重蔵・勝蔵・勘次郎・市五郎・栄吉・勇吉）である。旅した翌年にあたる文政一一年「宗門人別帳」（埼玉県立文書館保管野中家文書五五六）から計算すると、栄吉が二五歳、勇吉が四九歳であったことが確認できる。また、庄蔵が三九歳で登場するが、道中記の勝蔵のことであろうか。さらに、文化七年（一八一〇）「宗門人別帳」（野中家文書五六一）をみると、栄吉と勇吉の年齢を確認することができる。とともに、重蔵が七一歳であったこともわかる。旅から帰った後、翌年の文政一一年「宗門人別帳」に重蔵が記載されていないことから、早々に亡くなってしまったのであろうか。これらのことから考えると、年齢幅のある一

行であったと考えられる。

この旅の記録は、文政一〇年閏六月一〇日から七月二七日にかけての四七日間で、信越・東北方面を旅したときのものである。湯殿山では、中奈良村の坊である「長学坊」に宿泊しており、講組織をうかがうことができよう。大まかな旅程は、下記のとおりである。

出立↓高崎↓伊香保↓榛名山↓妙義山↓浅間山↓小諸↓上田
 ↓善光寺↓戸隠↓関川↓二本木↓高田↓名立↓糸魚川↓市振↓
 魚津↓立山↓魚津↓入善↓泊↓能生↓黒井↓柏崎↓出雲崎↓新
 潟↓村上↓鶴岡↓羽黒山↓月山↓湯殿山↓大沼山↓山寺↓野尻
 ↓国分町↓塩釜↓松島↓石巻↓松島↓国分町↓岩沼↓白石↓越
 川↓桑折↓福島↓二本松↓郡山↓白河↓芦野↓大田原↓日光↓
 栃木↓赤岩↓帰村

2 天保一一年（一八四〇）正月「道中袖日記」

（弁財大嶋家文書一七）

〔縦七・〇cm×横一七・一cm、表紙共全六八丁、墨付六六丁〕
 横半帳で表紙・裏表紙がある。表紙には、「天保十一年正月吉日」という年月日とともに、表題が記されている。裏表紙には、「弁財村大嶋栄左衛門源正興」という記名と花押が記され

ている。

筆者は、裏表紙にあるように、弁財村の大嶋栄左衛門である。栄左衛門は、天保一二年「御領分弁財村百姓宗旨御改帳」（大嶋家文書三）に三七歳とあり、旅をした天保一年当時は三十六歳であったことになる。大嶋家文書をみると、年代不詳であるが、栄左衛門による伊勢参宮の願書がある（大嶋家文書九八）。それによると、栄左衛門は名主で、留守中は組頭が御用を勤めるとしている。栄左衛門は天保三年に庄右衛門から家事の相続を受け、その後弁財村の名主役となり慶応三年（一八六七）まで勤めた。この旅に同行したのは、葛和田村（熊谷市葛和田）の舞原千代松・江利川貞吉・大嶋鉄三郎の三名である。

道中記は、天保一二年正月九日から四月二八日にかけての一〇九日間で、伊勢参宮から高野山、大坂、京都、丸亀、宮島、岩国、杵築大社（出雲大社）、姫路、善光寺などを旅したときのものである。本書に掲載した道中記では、最も長文で情報量も多い。大まかな旅程は、下記の通りである。

出立↓桶川↓大宮↓江戸↓大師河原↓鎌倉↓藤沢↓小田原↓箱根↓沼津↓久能山↓府中↓藤枝↓掛川↓秋葉山↓鳳来寺↓新城↓岡崎↓名古屋↓桑名↓津↓宇治↓内宮↓朝熊↓外宮↓田丸↓尾鷲↓新宮↓那智山↓本宮（熊野大権現）↓田辺↓道成寺↓

和歌浦↓粉河↓高野山↓堺↓大坂↓藤井寺↓当麻↓土佐↓吉野
↓長谷寺↓法隆寺↓郡山↓南都↓宇治↓醍醐↓石山↓守山↓観音寺↓守山↓大津↓三井寺↓比叡山↓大原↓鞍馬↓貴船↓京都
↓龜山↓山崎↓船坂↓兵庫↓須磨↓明石↓高砂↓丸亀↓多度津
↓金毘羅↓宮島↓岩国↓宮島↓広島↓大森↓杵築↓松江↓米子
↓大山↓勝山↓金川↓岡山↓庭瀬↓姫路↓三草↓清水↓福知山
↓宮津↓田辺↓小浜↓熊川↓長浜↓関ヶ原↓垂井↓加納↓中津
↓馬籠↓福島↓贄川↓洗馬↓松本↓西條↓善光寺↓戸隠↓善光寺↓上田↓小諸↓坂本↓高崎↓本庄↓帰村

3 嘉永二年（一八四九）四月「長崎順り道中記」（写）

（弁財大嶋家文書一六）

〔縦二・五cm×横一七・五cm、表紙共全二二丁、墨付一五丁〕
横半帳で、表紙には表題とともに、「嘉永二年己酉四月日」という年月と「熊谷宿亀屋伊兵衛殿の借用写申候」と注記されている。書写した「大嶋栄左衛門清雄」という記名も確認できる。裏表紙に記述はない。

表紙に記載があるように、筆者（書写者）は大嶋栄左衛門（前述の「道中袖日記」と名は異なるが、同一人物であろう）であるが、先の二点とは異なり、嘉永二年四月に熊谷宿亀屋伊兵衛

から借用して写したものである。よって、この記録の旅をしたのは、亀屋伊兵衛らであったと考えられる。なお、表紙見返しには、周防国岩国までは「外帳に委しく記申候」とあるが、ここでいう「外帳」とは「道中袖日記」のことであろう。

この「長崎順り道中記」は、岩国錦帯橋の記述からはじめられているが、本文に年月の記載は全くないため、実際にいつの旅を記録したものであるかは判然としない。宿泊先なども記されていないため、何日間の旅であったかも不明である。

岩国から長府を経て、下関から九州へ入り、小倉、博多、大宰府天満宮、唐津、武雄を廻り、長崎へ入っている。その後、島原、熊本、柳川、久留米、宇佐八幡、中津などを旅している。中津の後は、「是乃末者外帳ニ有之候」と締め括っているが、この「外帳」も「道中袖日記」のことであろうか。大まかな旅程は、下記の通りである。

岩国↓長府↓下関↓小倉↓箱崎八幡宮↓博多↓大宰府天満宮
↓宇美八幡宮↓福岡↓唐津↓武雄↓浦上↓長崎↓島原↓熊本↓
柳川↓久留米↓宇佐八幡↓中津

二 交通

近世の旅であるため、徒歩による移動が基本となるが、本書

に所収した道中記では、度々船を利用している。川越しで用いることはもちろんであるが、船による海上の移動も数回行っている。

「湯殿山立山道中記」では、新潟周辺において船を乗り継いで旅している。内野から新潟まで（七人五〇〇文）、新潟から木崎まで（一人一二五文ずつ）、真野から新潟まで（六〇〇文くらい）である（二二〜二三頁）。さらには、渡波から鮎川まで（金二分二朱）などのように船で各地を周遊することもあった（二七頁）。

また、「道中袖日記」の小田原の記載では、「狐籠」が多くあることを注意している（三五頁）。「狐籠」とは、喧嘩口論を仕掛け、無理やり駕籠に乗せて、途中で下すという手口のものであった。対策として、駕籠に乗る場合には、宿屋の主人に斡旋してもらうのがよいとしている。それでも、酒代をねだられるので、用心するようにと追記しており興味深い。

（以上、栗原健二）

関所は幕府が設置したものであり、本書掲載の道中記でも、関川（新潟県関川村、一八頁）、市振（新潟県糸魚川市、一九頁）などを通行している。箱根（神奈川県箱根町、三六頁）や横川

(群馬県安中市、八〇頁)などもよく知られているよう。

一方で、仙台藩の野尻(宮城県仙台市、二五頁)・越河(宮城県白石市、二八頁)や、熊本藩の南関(熊本県南関町、八九頁)なども関所としている。通常、藩が設置したものは境目番所などと称されているが、本史料では関所とされているものが多い。

関所は「入鉄砲出女」を取り締り、男性は名主や寺が発行した往来手形で、寺社の参詣を目的とすれば、容易に関所を通過できたが、市振(新潟県糸魚川市)では、町を出てすぐに「榊原様御関所」(高田藩管理)があり、そこから越中国に入つて二〇町ほど(約二・二キロ)進むと、「加賀守様御関所」(加賀藩)があり、そこで改めを受けて御国(越中国)に入ったとある(一九頁)。大名領地間では、度々関所を通らなければならぬこともあった。

(滝沢きよ子)

三 旅の諸相

1 城・陣屋

本書収録の道中記には城や陣屋の記載が多く、その城下町な

どに宿泊することも多かったようである。史料に記されている城や陣屋については、巻末の旅程表にすべて掲げた。

城は原則大名の居所であり、収録した道中記には、その石高と城主名が記されている(「長崎順り道中記」には石高は記されていない)。城主名は、概ね旅をした当時(文政・天保期)のものようである。

大名以外の城としては、陸奥国岩沼(宮城県仙台市)に「御家老様御城」とあるが(二八頁)、これは仙台藩家老の城のことである。伊勢国田丸(三重県玉城町)にも「紀州様御家老御城」とあり(四二頁)、紀伊国田辺(和歌山県田辺市)にも「紀州様御家老三万五千石安藤帯刀様御城」(四七頁)とあるが、これらは紀伊藩家老の城であるように、一部の大藩家老の城も記されている。

また「道中袖日記」では、駿河国府中(静岡県静岡市)のところに「御番城」とあるが(三七頁)、これは元和五年(一六一九)以降、駿府は幕府領となり、駿府城代が置かれたためである。

次に、陣屋は城に準ずるものとされるが、本書で掲載した史料に出てくる陣屋は、主に五種類に分けることができるだろう。すなわち、①大名の飛地の役所、②無城の小大名の居所、③旗本交代寄合の居所、④大藩家老の居所、⑤幕府代官の役所であ

る。

①大名の飛地の役所としては、越後国柏崎（新潟県柏崎市）に「松平越中守様御陣屋」（二二頁）とあるが、これは久松松平家（桑名藩）の飛地の陣屋である。

②無城の小大名の居所としては、備中国庭瀬（岡山県岡山市）の板倉撰津守（庭瀬藩、六八頁）と播磨国三草（兵庫県加東市）の丹羽式部（三草藩、七一頁）はともに大名ではあるが、「御陣屋」と記述している。

③交代寄合の居所としては、下野国芦野（栃木県那須町）の芦野氏の陣屋が記されるが（二九頁）、那須衆四家の一つとされる交代寄合で、その在所であった。同じく三河国新城（愛知県新城市、三九頁）の菅沼氏は、土岐氏庶流の交代寄合で領地の新城に住んだ。道中記には八〇〇〇石とあるが、拝領高は七〇〇〇石である。

④大藩家老の居所としては、備前国金川（岡山県岡山市）に「松平内蔵頭様御家老御陣屋」とあり（六八頁）、これは岡山藩家老日置氏の陣屋で、その例である。

⑤幕府代官の役所としては、出雲崎（新潟県出雲崎町）に「代官野田栄吉様御陣屋」とあり（二二頁）、幕府の代官所である。桑折（福島県桑折町）には「寺西十次郎様御陣屋」とある

（二八頁）。寺西重次郎封元は幕府代官であったが、文政一〇年（二八二七）二月に現職のまま死去しており、この道中記で桑折を通った文政一〇年七月には、封元の子寺西蔵太元栄が幕府の桑折代官を勤めていた。

以上のように、陣屋といっても、さまざまな性格のものであったのである。

（滝沢きよ子）

2 神社仏閣

掲載した道中記三冊に登場する神社仏閣について、寺社名が記載されたものは、巻末の旅程表にすべて取り上げた。訪問地に寺社名の記載がなく札所や御堂名のみ場合は、「※札所〇〇番△△山□□寺」のように追記した。「湯殿山立山道中記」の例で、訪問地が高崎（群馬県）で「坂東札所」とのみ記載され寺院名がない場合は「※坂東札所第十五番金峯山長谷寺」と記した。

また訪問地が五智（新潟県上越市）では寺院名が記載なく本尊のみ記載されていたため「※安国山五智国分寺 釈迦如来ほか4軀」と、訪問地が柏崎（新潟県）で「円摩堂」と記載されている場合は「※金砂山円光寺 閻魔堂」とした。

なお、明治期に入り神仏分離によつて所在を遷したり、廃されたり、あるいは名称を変更した寺社もある。また、長い歴史の中で宗派の変遷があつた寺院もある。原本に記載された寺社名や本尊・祭神などが現在と変わっている寺社もあつたが、変遷の経過までは調査できなかったので、後の調査対象としたい。今回取り上げた道中記が書かれた時期は、江戸時代末期で、多くの道中記（現在のガイドブックなど）が広く普及しており、これらを参考に参詣・訪問したと思われる（ただし、現存する大嶋家文書の中には確認できていない）。大嶋家の道中記に登場する神社仏閣は現存するものが多く、今も多くの方々が参拝や観光で訪れている。

特に「道中袖日記」において、鎌倉では一日に一三カ所（三四頁）、大坂では九カ所（五一頁）、京都では一九カ所（五八頁）という多くの寺社が記載されている。寺社や名所旧跡の数の多さから、一日で徒歩によりすべてを参詣して廻ることは不可能と思われる。おそらく、他の道中記や聞き取りを参考にして記載したものもあると思われるが、一日での移動距離や参拝先の多さから彼らの健脚ぶりが覗える。

（山本喜久治）

3 名所・旧跡

名所には、自然的なものと同人的なものに分けられる。

自然的なものとして、風光明媚な所には「景地なり」と記述していることが多い。三保の松原（静岡県静岡市）からの富士山は絶景である（三七頁）。切戸（京都府宮津市）では、天橋立を舟から見ても、また高台からも見ており、名勝地は見逃さない（七二頁）。

よい所ばかりでなく難所などの注意喚起もしている。歌（新潟県糸魚川市）には「親知らず子知らず」という難所がある（一九頁）。また、波田須（三重県熊野市）では、大吹峠などの山越えの難所も記述する（四四頁）。ここには、鬼が子供をとつたという「鬼が岩屋」がある。このように奇岩・岩屋・石畳なども詳細に記述している。特に芥屋村（福岡県糸島市）の大門岩屋は、古今無双の岩屋で、残らず黒鉄のようであり、舟で一見したとある（八六頁）。

人為的なものとしては、岩国（山口県岩国市）の錦帯橋（六五・八三頁、巻頭写真6）、長崎（長崎県長崎市）の眼鏡橋・唐船・町屋（八七頁、巻頭写真7）なども記述している。石巻（宮城県石巻市、二七頁）や大津（滋賀県大津市、五七頁）などの大きな港には、廻船や諸大名の御蔵が立ち並んでいたことなど

を記録している。

旧跡としては、伝承・説話上の人物や歴史上の人物に関する石塔・石と古跡などを記述している（「湯殿山立山道中記」にはあまり記されていない）。

「道中袖日記」には、藤沢（神奈川県藤沢市）に小栗判官の石塔と横山屋敷跡を記し（三五頁）、垂井（岐阜県垂井町）では照手姫の清水をみている（七五頁）。小栗判官は説教浄瑠璃などで民衆に知られ、小栗は照手姫と結婚するが姫の一族に殺され、閻魔大王の命で元の体に戻る。姫は身売りされ各地を転々としたが小栗と再会する。横山大膳は姫の雇い主であった。藤沢には架空の人物の屋敷があるわけである。

また、大磯（神奈川県大磯町）では、鎌倉期の曾我兄弟の兄祐成の妻虎御前の石と御影が残っていると記載され（三五頁）、岡崎（愛知県岡崎市）では、源義経に恋した浄瑠璃御前の屋敷跡があり、義経と浄瑠璃御前の石塔もあるとしている（三九頁）。古市村（大阪府羽曳野市）には、平安中期の武将源頼義・義家父子の石塔ありという記述がある（五一頁）。父子は東北の反乱を平定し武名をあげ、通源寺跡に墓標が今も残る。

さらに、上太子（大阪府羽曳野市）・染寺（奈良県葛城市）・当麻（奈良県葛城市）では、当麻寺に遺る当麻曼荼羅を織った

とされる中将姫という伝説上の人物に関する古跡（腰掛石・染めの井戸・糸かけ桜など）をみている。あわせて上太子には聖徳太子の石塔があり、廻りの石垣は弘法大師（空海）の作という（五二頁）。弘法大師ということでは、宮原（和歌山県有田市）にも爪で彫ったという地藏尊阿弥陀が記されている（四八頁）。

続いて「長崎順り道中記」では、長府（山口県下関市）に明石（石井）与次兵衛の墓を記している（八三頁）。与次兵衛は瀬戸内海の家賊で、細川忠興配下として豊臣秀吉の中国大返しや四国・九州攻めに海運で貢献したが、朝鮮出兵の時に急ぎ帰阪した秀吉を遭難させて切腹した。後に忠興が供養と海の安全を願い、石塔を長府に建てた。今は門司の公園に残っている。

また、名島（福岡県福岡市）では、神功皇后が朝鮮より帰り、船の帆杭を捨てたといわれる帆杭石が記されている（八四頁）。領巾振山（佐賀県唐津市）では、寺沢志摩守広高の墓を記載している（八六頁）。志摩守は、関ヶ原戦いで大谷吉継を破り武勲をあげた武将である。

楨崎村には、長岡内膳の屋敷ありとある（八八頁）。細川忠興・ガラシャの長男長岡内膳（細川忠隆）は本能寺の変により廃嫡され遠慮して終生京都近辺に住んだ。内膳の子が熊本へ帰り一門となった屋敷である。

島原（長崎県島原市）では、板倉内膳重昌の石碑を取り上げている（八八頁）。島原の乱で幕府の上使として原城を総攻撃したが落とせず戦死した大名である。

以上、名所・旧跡を挙げてきたが、その歴史的な真偽はともかく、江戸時代後期にこのような名所・旧跡をめぐって記録していた点に注目しておきたい。

（滝沢きよ子）

4 名木

本文書の旅日記の中には、名木等についての記述が数多く見られる。当時の旅の行程が神社・仏閣への訪問を核として組み立てられていたことを考えると、訪問の際に神社の神木等に自然に関心が向いたと考えられるが、一方で当時の人々が自然物に対して、現代の人々よりも身近に親近感や尊崇の念を抱いていたとも思われ、感慨深い。

それらの名木についての記述を「表1」にまとめた。これを見ると「湯殿山立山道中記」で二件、「道中袖日記」で二三件、「長崎順り道中記」で五件と「道中袖日記」での記述が圧倒的に多い。また、その中でも関東以北に比べて関東以南地域での記述が多く見られるのが特徴である。また大阪堺では歌川広重が後

に浮世絵に描くことになる「難波屋の松」を鑑賞しているのが興味深い（五一頁、巻頭写真4）。

文書の中の名木等の記述を具体的に見てみると、松について記述したものが最も多く二二件、桜が六件、杉が一二件、梅が三件、蘇鉄が二件、楠が一件となっている。大貫茂氏著『名花・名木を訪ねる』によると、現在いわゆる名木として国或いは県指定の天然記念物として登録されているものは、桜が最も多く、三六件、次いで杉が一五件、楠が一件、梅が六件、蘇鉄が五件、松が四件となっている。

これらを見ると、現在の天然記念物としては松が極端に少なく、桜が逆に多くなっているのが注目される。桜を愛でる日本人の心情は昔からのものであるが、同時に当時の人々が松の木に対しても深い関心を抱いていたと思われ興味深い。

（望月潤一）

5 特産品

掲載した道中記に出てくる特産物は、現在も生産しているものが多い。葉がいくつか紹介されている。朝熊（三重県伊勢市）では万金丹を取り上げている（四二頁）。吉野（奈良県吉野町）では、陀羅尼助を買いに行き、ここで購入すべしと勧めている

(五三頁)。さらに、西大寺(奈良県奈良市)では豊心丹という菓があることを教えている(五四頁)。

織物関係では、鳴海(愛知県名古屋市の)には鳴海絞りという染物があり(四〇頁)、米子(鳥取県米子市)には緋・織織があり(六七頁)、宮津(京都府宮津市)では縮緬などを織る(七二頁)。博多(福岡県博多市)では博多帯が有名である(八四頁)。

その他、堺(大阪府堺市)では鉄砲・刃物等の鍛冶屋があり(五一頁) 現在も残る。三輪崎(和歌山県新宮市)では、那智黒碁石が多くとれる(四五頁)。宇治(京都府宇治市)や嬉野(佐賀県嬉野市)、では、お茶が有名である(五五・八六頁)。刃物や碁石は男性へ土産、それ以外は女性が喜びそうな品である。土産品選びの参考としている。

(滝沢きよ子)

6 名物

収録した道中記の中では、「道中袖日記」に名物がたくさん記されているが、それらは「食」に関するものが多い。そこで、「道中袖日記」の食に関する名物を中心に挙げてみた(表2)を参照)。

まず登場するのは、鎌倉の「大仏餅」である。江戸時代、京

都で売り出され、後に江戸でも流行し、歌舞伎の演目にもなったほどである。ここ鎌倉で餅というと、餅を餡でくるんだ「権五郎力餅」が有名である(三四頁)。そして、岩淵の「栗粉餅」は餅に栗の粉をかけたもので、江戸から三七里目の一里塚付近の茶店では一個一二文で売られていた(三六頁)。また、餅に黄粉をまぶした「安倍川餅」や、いろいろ餅と麦芽糖で作られた、小夜の中山の「飴の餅」は、どちらも將軍に喜ばれていたようだ(三七頁)。鞠子宿と岡部宿の間には、宇津谷峠という難所があり、茶店では、昔からの東海道名物として白い丸雪のような餅を一杓子で一〇個ずつすくって出す「十団子」というものがある(三七頁)。瀬戸の「染飯」はもち米をくちなしで染めて、すりつぶし、小判形に薄く伸ばして干し乾かしたものである(三七頁)。日坂の「蕨餅」は、葛粉を蒸し餅にし、黄粉に塩を加えたものを、蕨餅と称して旅人に売っていたといわれている(三八頁)。

本宮では「車餅」が出てくるが、正式名かどうか不明である(四六頁)。この辺りでは餅の種類が多く、二軒茶屋餅、へんば餅、長餅、太閤出世餅、みろく石の焼餅などがあった。「姥が餅」は、近江国の郷代官であった六角義賢に曾孫を託された乳母「福井との」が生計のために売り始めたもので、「乳母が餅」とも

てはやされるようになった。当時は、上に砂糖をのせた指頭大のあんころ餅であったが、砂糖から白餡に代わって現在でも草津の名物となっている（五七頁）。「ちいの餅」（知恵の餅）は、智恩寺（文殊堂）山門の前に四軒の茶店があり、「才学てんかく」（才覚田楽）や「しわん酒」（思案酒）と共に出されていた（七二頁）。

田辺では「山仕舞之祝ひ二餅ヲねる所」とあるが、東国からの巡礼者が、険しい熊野路を無事に通りぬけた祝いとして、旅籠屋で山祝いといって餅をつく習わしがあったとされる（四七頁、巻頭写真3）。

餅以外では、そばなど、麵の記述が多く見られる。敦盛塚で有名な「敦盛そば」や木曾の寢覚茶屋で出されていたそばは、大名も立ち寄ったとされている（六一・七七頁）。また、三輪の「そうめん」は腰のしつかりした煮くずれしにくい独特の歯ごたえと舌ざわりの良さが特徴である（五四頁）。本山宿は、そば切り発祥の地といわれ、「中山日録」によると、隣の贄川宿では、大根の絞り汁にたれ味噌を少々加え味を調え、鯉節の粉やねぎやニラを薬味として添え、その汁で食べたとある（七七頁）。

「その手はくわなの焼蛤」といわれる位、桑名の焼蛤は有名だが、揖斐、長良、木曾の木曾三川の栄養を吸収して育った蛤

は、肉厚で濃厚な味わいである。松ぼっくりを燃やして焼くのが美味しいといわれた（四一頁）。

その土地の茶や酒を味わうのも、道中の楽しみである。その中で、名酒「まんくわんじ」という記述があるが、池田に酒造業が始まるのは応仁年間、猪名川西岸の満願寺村から移ってきた、満願寺九郎右衛門が醸造し売り出した「満願寺屋」にはじまるといわれている（六一頁）。

この道中記では、様々な餅の記述が見られたが、やはり名所旧跡を巡り、難所の多い峠や道を歩く旅人にとって、餅は、疲れを取り腹持ちが良い一番のご馳走であったに違いない。旅の楽しみの一つは、土地の名物を食すること、それは現代でも同じである。

（井出英美子）

おわりに

以上、三冊の道中記について、さまざまな角度からみてきた。われわれ読み手の視点によって、いろいろなことがわかる史料であろう。道中記の著者は、いずれも旅行ガイドブックと意識して記していることが感じられる。宿泊先などに「よし」「あしく」などと評価を加えており、明らかに読者を想定して執筆

していることがわかるだろう。

最後に、次のような仮説を提示しておきたい。大嶋栄左衛門は、岩国錦帯橋（巻頭写真6）を屈指したのではないかということである。本書に掲載した史料でも、「道中袖日記」の旅路では西は岩国までという印象が残る。また「長崎順り道中記」も岩国から書写されている。たしかに錦帯橋は全国的な名所であるが、注目しておきたい。

それは、錦帯橋の再建にたずさわった岩国藩士長谷川十右衛門が妻沼聖天山の貴惣門を設計した人物だからである。「道中袖日記」を執筆した栄左衛門は、貴惣門の創建にあたり妻虹梁（建築部材）を寄付している（『熊谷市史』別編二妻沼聖天山の建築）。栄左衛門は長谷川十右衛門のことを知っていたのではないか。

熊谷市域に遺る道中記は、根岸茂夫監修・利根川歴史研究会編『名主伊兵衛絵入道中記』をはじめ、いくつか確認されている。それらの検討は、今後の課題としておきたい。

（栗原健一）

〔参考文献〕

*大貫茂『名花・名木を訪ねる』（保育社、一九九二年）

*小川恭一編著『寛政譜以降 旗本家百科事典』（東洋書林、一九九七年）

*熊谷市教育委員会編『熊谷市史研究』二号（二〇一〇年）

*熊谷市教育委員会編『熊谷市史』別編二妻沼聖天山の建築、二〇一六年）

*寺院総覧編纂局編『大日本寺院総覧』（名著刊行会、一九六六年）

*菅井靖雄『こんなに面白い江戸の旅 東海道五十三次ガイドブック』（東京美術、二〇〇一年）

*鈴木晋一『たべもの東海道』（小学館、二〇〇〇年）

*根岸茂夫監修・利根川歴史研究会編『武蔵国幡羅郡日向村船田家文書名主伊兵衛絵入道中記』へ利根川歴史研究報告第四集（二〇一〇年）

*林英夫編『日本名所風俗図会』一八巻諸国の巻Ⅲ（角川書店、一九八〇年）

*『日本社寺大観（寺院編）』（日出新聞社、一九三三年、名著刊行会、一九七〇年復刻）

*『日本社寺大観（神社編）』（日出新聞社、一九三三年、名著刊行会、一九七〇年復刻）

*『全国著名神社名鑑』（神社新報社、二〇〇五年）

- * 『奈良古社寺辞典』(吉川弘文館、二〇〇九年)
- * 『京都古社寺辞典』(吉川弘文館、二〇一〇年)
- * 『鎌倉古社寺辞典』(吉川弘文館、二〇一一年)
- * 『国史大辞典』(吉川弘文館、一九七九～一九九七年)
- * 『日本歴史大事典』(小学館、二〇〇〇年)
- * 『日本国語大辞典』(小学館、一九七二年)

〔表1〕名木

〔湯殿山立山道中記〕

番号	名木等	所在地	記載頁・段	現況等
1	名木松	新潟県胎内市乙 乙寶寺内	23頁上段	確認出来ず
2	よしつねこしかけ松	福島県伊達郡国見町	28頁中段	町指定天然記念物

〔道中袖日記〕

番号	名木等	所在地	記載頁	現況等
1	梅・蘇鉄	興津 清見寺内	36頁下段	確認出来ず
2	ふたん桜	三重県鈴鹿市白子 子安観音内	41頁中段	「白子の不断桜」として現存、国指定天然記念物
3	壺本松	二見	42頁中段	確認出来ず
4	名木12本、七いろ杉、子持杉、夫婦杉、ほらき杉、兄弟杉、榊、三杉、四杉、鳥居杉、ひやうふ杉、蓮利杉、飛杉	三重県度合郡大紀町野尻	43頁上段	確認出来ず
5	箒松	三重県熊野市新鹿	44頁中段	確認出来ず
6	龍燈松・布引松	和歌山県和歌山市紀三井寺附近	48頁中段	確認出来ず
7	日本一之そ鉄	大阪府堺市妙国寺	51頁上段	国指定天然記念物として現存
8	笠松・難波屋之松	大阪府堺市住吉	51頁上段	昭和20年頃迄あった。広重筆「諸国名所百景」にその姿を残している
9	吉野千本桜	奈良県吉野町	53頁上段	吉野山は世界遺産の一部、現存
10	采女宮八重桜	奈良県奈良市山町南部	54頁下段	確認出来ず
11	扇の芝	京都府宇治市平等院	55頁上段	源頼政自害の場所にある芝で現存
12	駒つなぎ松	京都府宇治市平等院	55頁上段	頼政の「駒」つなぎ松のことかと思われるが現存かは不明
13	日本一の名木松	滋賀県大津市唐崎	57頁中段	唐崎神社の霊松「唐崎の松」として現存、当時は2代目の松で東西72m、南北86m、高さ27m、幹の周囲111mもあった。現在の松は3代目
14	桜名木多数	京都府京都市御室御所	59頁下段	仁和寺の「御室桜」、日本桜名所100選に選定されている
15	糸ひら桜	兵庫県神戸市中央区生田神社内	62頁中段	生田神社内に「籠(え)びらの梅」がある
16	手枕松	兵庫県加古川市別府町別府住吉神社内	63頁上段	住吉神社の境内にある、現在のものは3代目
17	鶴巢こもりの松名木	見崎の天神社	63頁中段	確認出来ず
18	尾上松・相生の松	兵庫県加古川市尾上尾上神社内	63頁中段	現存している
19	松名木	兵庫県高砂市曾根曾根天満宮内	63頁下段	5代目のものが現存
20	松名木	兵庫県加東市平木播州清水寺内	71頁中段	確認出来ず
21	龍燈之松・片枝之松	京都府宮津市文殊	72頁下段	確認出来ず
22	不動松・三庄太夫首引之松	京都府宮津市由良	73頁中段	首挽松の石碑があるが松は現存していない
23	熊坂長半物見之松	岐阜県不破郡垂井町	75頁中段	現存していない、石碑がある

「長崎順り道中記」

番号	名木等	所在地	記載頁	現況等
1	松名木	福岡県宗像市赤間	84頁中段	確認出来ず
2	大杉老木	福岡県福岡市東区香椎、香椎宮内	84頁中段	香椎宮、御神木の綾杉として現存
3	飛梅・助梅	福岡県太宰府市太宰府天満宮内	85頁上段	「飛梅」は現存しているが、「助梅」は「皇后の梅」と名称が変わっている
4	楠大木	福岡県糟屋郡宇美町	85頁中段	宇美八幡宮の国指定天然記念物として現存
5	さかさ松	福岡県福岡市西区	85頁下段	神功皇后が新羅遠征の折、植えたとの伝説がある。「生（いき）の松原」として松林がある

〔表2〕「道中袖日記」にみる食の名物

番号	名物	所在地	記載頁・段	番号	名物	所在地	記載頁・段
1	大仏餅	神奈川県鎌倉市	34頁下段	12	宇治茶	京都府宇治市	55頁上段
2	富士国酒	静岡県富士市	36頁中段	13	うば餅 (姥が餅)	滋賀県草津市	57頁上段
3	栗粉餅	静岡県富士市	36頁下段	14	まんくわんじ (満願寺酒)	兵庫県神戸市	61頁下段
4	阿部川餅 (安倍川餅)	静岡県静岡市	37頁中段	15	そば (敦盛そば)	兵庫県神戸市	62頁下段
5	宇津の谷 十ヲ団子	静岡県静岡市	37頁中段	16	ちいの餅 (知恵の餅)	京都府宮津市	72頁下段
6	瀬戸染飯	静岡県藤枝市	37頁下段	17	才学てんかく (才覚田楽)	京都府宮津市	72頁下段
7	飴の餅	静岡県島田市	37頁下段	18	しわん酒 (思案酒)	京都府宮津市	72頁下段
8	蕨餅	静岡県掛川市	38頁上段	19	そば	長野県上松町	77頁中段
9	焼蛤	三重県桑名市	41頁上段	20	そば	長野県檜川村	78頁上段
10	車餅	和歌山県外宮町	46頁中段	21	柏餅	長野県麻績村	78頁下段
11	三輪そうめん	奈良県桜井市	54頁上段				

一 文政一〇年(一八二七)湯殿山立山道中記

〔表紙〕
文政十亥年

湯殿山立山道中記

閏六月吉日 ー

閏六月十日出立

一、深谷へ 三り

一、本庄へ 三り

一、新町へ 二り四丁

一、^(倉)くら賀^(野)のへ 壹り廿二丁

一、高崎へ 壹り十七丁

十日 大黒屋九兵衛泊り

坂東札所

一、白岩へ 貳り

坂東札所

一、水沢へ 三り廿八丁

一、伊加保^(香)へ 壹り

温泉あり

一、榛名山へ 二り半

十一日 山之坊泊り

一、松枝江^(井田) 六り

川あり

一、妙義山へ 壹り

白雲山

川あり、^(徒越)かちこし八文ツ、

壹り十八丁行

御関所手形を上ル

一、坂本へ 三り

十二日 清水屋源吾泊り

此間登り貳り大難所也

峠二熊野大権現参り、相休申候

一、^(輕井)かるい沢へ 三り半

一、^(香掛)くつかけへ 壹り五丁

一、追分ヶへ 三拾丁

町出口ヲ右へ壹り余、細道

一、塩野へ 壹り余

浅間山別当を登り、十三日泊り、十四

日朝登り、四ツ時二下り申候、案内者

貳百文、外二山役等ハ無御座候

別当 真楽寺

一、小諸へ 貳り廿五丁

牧野内膳正様御城下也

一、篠の井(出損) 壹り

十六日泊り、妙智院
此間御手洗池あり

一、田中へ 三り

一、丹波嶋へ 三り

一、野じり(尻)へ 六り

一、海野へ 拾八丁

一、善光寺へ 壹り十二丁

越後国御関所あり

一、上田へ 三り

一、あ(荒安)らやすへ 壹り

一、関川へ 壹り
能町也

十四日泊り、小松屋太助
五万石 松平伊賀守様

一、宝光院へ 三り余

一、た(田切)ぎり 壹り半

能町也

一、宝光院へ 三り余

一、ふ(二俣)たまたへ 壹り半

一、鼠へ 壹り半

一、中院へ 壹り

一、関山へ 壹り半

一、坂木(城)へ 壹り半

戸隠大権現あり

一、二本木へ 壹り半

一、下戸(倉)くらへ 壹り半

一、奥院へ 壹り

十七日、竹内与五右衛門泊り

一、矢代(屋)へ 壹り半

戸隠大権現
九頭龍大権現

一、あ(新井)らいへ 壹り半

増田ヤ久左衛門休

夫より中院へ返り

能町也

一、高田へ 式り

十五万石、榊原遠江守様
能町也、長サ式り余

一、五智へ 式り半

しやか如来(釈迦)

宝生如来

大日如来

薬師如来

ミだ如来(弥陀)

参詣仕、夫方浦ハ大海ニ御座候、是方
立山道ハ左りへ行、奥州道ハ右之方へ
行、今町へ十八丁也
立山道を印申候(通)

一、長はまへ(浜) 式り半

一、ありま川へ(有間) 式り

一、名立へ 式り

十八日、塚田屋又右衛門泊り

一、のううへ(能生) 三り半

一、かじや敷へ(榎屋) 式り

木しま屋四郎左衛門休

一、糸井川へ(魚) 式り廿五丁

一万石、松平日向守様

能町也、次ニひめ川(姫)、賃三拾式文ツ、

一、あふみへ(青海) 式り

こま帰りあり(駒)

一、うたへ(歌) 式り廿八丁

親不知子不知といふ難所あり

一、となみへ(外波) 八丁

一、市ぶりへ(振) 式り

十九日、車屋平兵衛泊り

町出て直ニ榊原様 御関所あり、夫
方越中国也、式拾町程行、加賀守様御
関所也、此所ニ而改を請、御国へ入也

一、とまりへ(泊) 式り廿九丁

一、にうぜんへ(入善) 式り半

此間式り八丁河原也、くろ瀬川也、水(黒)
まし候節ハあしく(増)

一、三日市へ 式り半

一、うお津へ(魚) 式り

廿日、古川屋作兵衛泊り

此所御陣屋あり、帰り之節之手形願仕、
又此所ニ泊り、手形ヲ御陣屋方貴候而
国を出る也

一、なめり川(滑)へ 式り

此町出て左之方、立山道也

一、上市へ 式り

一、岩(峠)くらへ 四り

廿一日泊り、明星坊

立山大権現あり

外廿三坊あり

此間道あしく

一、足(芦)くらへ 三り

立山大権現あり

坊中三拾六軒

此間ふじはし(藤橋)、大難所也

一、くわ谷(桑)へ 登り四り

大難所也

一、むろ堂(室)へ 登り四り半

廿二日籠り

立山へ 登り三り

浄土山へ同 壹り

別山へ 同 式り

夫(心)ろ八谷地(獄)ごく、扱(恐)てくおそろしき

事二御座候、夫(桑)ろくわ谷へ下り五り、

此所廿三日泊り申候、二夕夜共誠二大

難儀仕候

山役四百式拾文

わらじ五足

米壹斗六升

持人八百文

案内八百文

夫(峠)ろ岩くらへ帰り、四り余也

一、上市へ帰り 四り

一、なめり川(滑) 式り

一、うお津(魚)へ 式り

廿四日印田や七左衛門泊り

廿五日朝、手形ヲ御陣屋ニて貰、七人

二而五百六拾七文差上候、壹人前八拾

壹文ツ、手形代也

一、三日市へ 式り

一、に(入)うぜん(善)へ 式り半

廿五日泊り、竹内次郎三郎

勝蔵殿病氣二付、早泊り御座候

一、とまり(泊)へ 壹り半

御関所へ手形差上、御国を出申候

一、市(振)ぶりへ 式り廿九丁

一、と(外)なみ(波)へ 式り

一、うた(歌)へ 八丁

一、あぶみ^(青海)へ 壹り廿八丁

一、今町へ 拾八丁

能町也、広し

此所る荷物頼てよし、老人前廿四文ツ、

一、糸井川^(魚)へ 貳り

次二船渡し廿四文ツ、

一、米山へ 登り貳り

一、かじ屋敷^(梶)へ 壹り廿五丁

一、黒井へ 壹り

大難所也

廿七日、竹田太左衛門泊り

薬師如来御立あり

一、のう^(能生)うへ 貳り

此所喰物なし

廿六日、坪屋又右衛門泊り

一、片町^(湯)へ 貳り

壹り余り大難所也

能町也

一、名立へ 三り半

此間米山道ハ右へ行、十七・八丁行、

一、小すげ^(杉)へ 下り貳り

松山へ入、左へ行、池あり、此方へ行

廿八日泊り、庄左衛門

一、ありま川^(有間)へ 貳り

てよし、次二右之方蓮池あり、雨天之

能家御座候、御泊り可被成候、此間坂

節ハ米山参詣難儀二付無用也

あり

一、長はま^(浜)へ 壹り

是る又海端也

是る五智へ不寄、はま^(浜)通り、今町へ行

一、米山寺村へ 三り

てよし

薬師別当 米山寺

一、くじら^(鯨)波^(瓜)へ 三り

外二泊り家もあり

うり・すいくわ^(西瓜)殊外下直二御座候

一、五智へ 壹り半

此間塩焼多分あり

一、水野へ 壹り

一、柏崎へ 壹り

泊り家八・九軒あり

能町也、松平越中守様御陳屋^(陣)あり

此所かたひら沢山二御座候、此間道砂
二てあしく

町末二円摩堂あり、此向通り能茶やあ
り(園魔)

一、あらはま(荒浜)へ 壹り廿式丁

此間道砂二てあしく

一、宮川へ 壹り廿式丁

町入口也

廿九日、柳屋長右衛門泊り

一、しいや(椎谷)へ 廿四丁

能町也

一、石地へ 貳り

能町也

一、出雲崎へ 壹り

御代官野田栄吉様

御陳屋あり、能町也
此間塩焼あり(積)

一、山田へ 貳り

塩焼場あり、道あしく

一、寺泊りへ 貳り

能町也

一、野ぞみ(嶺)へ 壹り十五丁

此間少々行、右之山二登り

一、弘智法印へ 十丁

弘智へ参り、十式文ツ、此間いろく
ふしぎあり、夫々先二高石あり(不思議)

一、弥彦へ 貳り

弥彦大明神大社也

一、岩むろ(室)へ 壹り

七月朔日、小松や利右衛門泊り
此所女郎あり

一、あか塚(赤)へ 三り

一、内野へ 貳り

此所方にいかたへ船二乗り、七人二而
五百文也、白山へ上り申候(新潟)

一、にいかた(新潟)へ 三り八丁

白山大権現

扱テく能町也

此所方木崎迄舟二乗り、壹人百廿五文
ツ、也

一、松崎へ 三り八丁

此所家不足也

一、木崎へ 壹り廿八丁

二日泊り、渡辺新蔵

一、^(真野)まのへ

三り

家式軒あり、是乃川船にて(新潟)にかたへ

八り、何人二而も帰り舟御座候へ者、

六百文位也

一、^(桃)もゝ崎へ

拾八丁

入海舟賃三拾五文ツ、

道あしく

一、^(猿)ざる沢へ

三り

是乃上杉様御領分也

一、元町へ

拾八丁

泊り家あり

一、岩船へ

壹り余

此所能町也

三日泊り、柏屋久四郎

是迄海(端)ばたを参り申候

一、^(蒲萄)ぶどうへ

三り

町出て坂ニかゝり

次(矢葺)やぶき大明神景地也、二り程行、大

沢村泊屋三軒あり

一、^(築)築地へ

三り十二丁

赤塚屋安兵衛休

此間道砂山にて殊外あしく、上茶出来

候所也

一、村上へ

壹り半

五万七千石 内藤紀伊守様

山城にて景地也、能町也

夫を参り程行、川あり、大雨にて留り

申候、川端にて小川村

一、中村へ

三り

能町也

坂あり

一、^(荒)あら川へ

廿二丁

坂あり

御朱印百石也

名木松あり、三重(塔)とう

此間道あしく

四日、佐五右衛門泊り

五日、朝川四拾文ツ、にて(渡)わたり申

候

一、^(継)中次へ

廿八丁

坂あり

一、おまた(小俣)へ 壱り

坂あり

一、坂下へ 壱り

御本坊にて

吸物・酒・肴出

一、おな(小名部)べへ 壱り

一、町田川へ 壱り八丁

夕飯二膳付也

坂あり

一、湯田川へ 十三丁

夕飯後二餅出

入口二出羽国御関所あり

此所湯場あり、能所也

又酒・肴出又

手形代壱人五文ツ、

女郎あり、爰を道よし

朝飯 二膳付也

一、おく(小国)にへ 壱り半

一、鶴岡へ 壱り半

寺領千五百石

道よし

十五万石、酒井左衛門様

天台宗也

一、木の(野俣)またへ 壱り半

能町也、定芝居あり、外景地二御座候

一、月山へ 登り九り余

五日泊り、五十嵐日向守

次二川、舟(賃)ちん廿式文ツ、道よし

月山大権現参詣仕候、是迄九り之間茶

一、あ(温海)つみ川へ 壱り

一、羽黒町へ 三り

あり、高直也

坂あり

坊三百三拾坊也

大雨にて、かじ小屋二七日・八日弐夜

一、松(菅野力)の代へ 壱り三十丁

中奈良村之坊、長学坊へ付、酒・そう

泊り申候

坂あり

六日晩泊り

湯殿山大権現

六日晩泊り

荒神

め(馳走)ん、ち(馳走)そうあり、夫を御本坊へ参り

一、湯殿山へ 下り三り

金壱分差上、是ハ長学坊御本坊湯殿山

迄三山賄入用案内共也

下り三り

夫方帰り沓り程登りて、此所笹小屋三軒あり、爰二荷物預てよし

一、ぬくみ^(貫見)へ 式り

九日泊り 山伏 地藏院

此間坂式ツあり、難所也

入口二又坂あり

一、あてら沢町^(左)へ 式り

能町也、長休ニて餅・飯・そうめん喰申候、町出て川あり、十五文ツ、

一、しづ^(志津)へ 下り三り
此間泊り屋あり

一、大沼山へ 式り

大沼山大行院山伏也

一、山寺へ 拾八丁

十日、藤屋惣右衛門泊り

能所也、山寺へ参り候二者、案内沓人拾式文ツ、

能町也

正一位稲荷大明神

朝飯前参り申候、けい山^(景)ニ御座候御朱印千四百式拾石

湯殿山正別当

千石也 真言宗 本道寺

町之内坊中多分あり、本道寺出張あり

此所二而札守請申候、本道寺へ登り三

町計、扱テく景地の御寺也

次二廿町計行、右江

一、大谷へ 沓り半

是方能村々御座候

一、二夕口^(二口)へ 三り

少々下り茶屋あり

一、入ま村^(四)へ 式り半

此間坂あり

左り村也

一、中沢へ 拾八丁

一、野しり^(尻)へ 下り三り
仙台様御関所也

茶屋あり、此所二而御足軽久蔵様頼

七拾文差出し

廿日切手ヲ貰、画一見仕候、久藏様宅
ハ茶・泊り共いたし申候

一、馬場へ 式り
村出て左りへ行

一、白沢村へ 壹り半

十一日、左藤孫兵衛泊り
此所、茶（茶屋）や式軒あり、手前之茶屋よし

一、あいし（愛子）へ 壹り廿式丁

仙台入口左り方二八幡宮大社也

仙台御城下

一、国分町へ 三り

十二日九ツ時着、清水野屋甚右衛門泊
り

御大名・御旗本其外、町々三り四方広
太也

一、原ノ町へ 壹り

一、青麻様へ 式り半

青麻岩戸三光宮

御宮岩山へ作りかけ

中氣之御守出る也

御供十三文ツ、

神主 鈴木対馬頭

一、塩釜へ 式り半

左宮 別宮 三社也

右宮

何も大社也

御朱印 壹万石也

能町也、四・五十町を下り、左りへ行、

六尺計之

塩釜四ツあり

釜宮神主あり

明神様塩を焼始候釜也

此前二休、糸ひす藤藏よし

是る七人八百文にて景を二見仕候、松
嶋迄也

一、松嶋へ 式り半

天台宗

随願寺（瑞巖）

仙台様御菩提所と也

此寺へ参り候二者、案内十三文ツ、差
出し、結構成御座敷其外拝見仕候

茶屋ハ

松屋五郎左衛門よし

五大明王開張也

一、たかき（高城）へ 拾八丁

小野入口川あり、十八文ツ、

一、小野へ 三り

十三日、丁字屋忠七泊り

一、矢本へ 式り半

一、石巻へ 貳り半

大湊にて能町也、御蔵多分あり、大船付所也、次二川あり、ちん八文ツ、

一、わたわへ(渡波) 壹り半

阿部や次三郎

金花山(華)へ行、帰り廿里

相川(鮎)迄船七人にて、金壹分貳朱也

一、岩井田(祝田)へ 壹り半

一、はまぐり(蛤)へ 壹り

一、も(桃)の浦へ 壹り

一、沖のはま(荻浜)へ 壹り

一、小づみ(積)へ 壹り

一、小あくら(網倉)へ 壹り

一、大はら(原)へ 十一丁

一、久分(給)へ 貳丁

一、十八(くぶ成)なりへ 十三丁

一、相川(鮎)へ 拾丁

一、寫渡シへ 上り下り 十八丁

一、金花山(華)へ 海上廿四丁

十四日泊り

大金寺へ 登り八丁

十五日朝、弁才天奥院

龍蔵大権現、夫方東へぬけ、北へ廻り、

愛宕山(越)へぬけ、寺へ帰り、凡六り也

上下船(賃)ちん八十文

(荷カ) 落物貳百七拾文 惣々四百貳拾文也

金貳朱也、護摩料差上候へ八四百廿文 八御取不被成候、必(護摩)ごま願てよし

一、矢本へ帰り泊り

十五日、桜井利三太

一、松嶋 休

此所泊り二候ハ、下二能宿也、十四・五軒あり

一、国分町へ 八ツ時帰り

七月十六日・十七日泊り

清水野屋甚右衛門

一、長町へ 壹り

一、中田へ 三十二丁

一、^(増田)ましたへ 壹り廿九丁

一、岩沼へ 壹り廿五丁

御家老様御城あり

一、^(槻木)つきじへ 壹り十二丁

一、^(舟迫カ)ふなまわしへ 壹り十丁

一、^(河原)大かわらへ 三十丁

一、^(金ヶ瀬)かなかせへ 壹り十二丁

一、^(宮)みやへ 壹り十二丁

一、白石へ 壹り十二丁

十八日、最上屋市郎兵衛泊り

三万石、片倉小十郎様御城あり

一、^(齊)さい川へ 壹り十六丁

一、^(越河)こし川へ 壹り十六丁

此町出口ニ御関所あり

野尻ニて貫候御切手を此所へ差上申候
次ニ伊達之大木戸、^(義経腰掛)よしつねこしかけ
松あり

一、^(貝)かい田へ 廿六丁

一、^(藤)ふじ田へ 壹り七丁

一、^(桑)くわ折へ 壹り七丁

寺西十次郎様御陣屋有り、能町也

一、瀬上へ 壹り十二丁

木下宮内少輔御領分也

一、福嶋へ 壹り八丁

三万石、板倉甲斐守様御城下也、能町也

一、根子町へ 壹り廿五丁

一、八丁目へ 壹り十三丁

此間三十丁計行、二本柳と云間宿あり

一、二本松へ 壹り三十丁

拾万七百石、丹羽加賀守様御城下、能町也

十九日、油屋伊兵衛泊り

一、杉田へ 壹り十二丁

一、^(宮)本みやへ 壹り半

一、^(倉)高くらへ 壹り十丁

一、日和田へ 壹り壹丁

一、福原へ 廿三丁

- 一、郡山へ 能町也 廿五丁
- 一、小原田へ 泊り家なし 十五丁
- 一、日出山へ 泊り家なし 八丁
- 一、笹川へ 泊り家なし 十八丁
- 一、須賀川へ 能町也、女郎もあり 壱り半
- 一、笠石へ 泊り家なし 壱り半
- 一、くろし(久来石)へ 能町也 十三丁
- 泊り家なし
- 一、矢吹へ 廿三丁
- 廿日、冬木屋六右衛門泊り
- 一、新田へ 泊家なし 十二丁
- 一、大わく(和久)へ 泊家なし 十二丁
- 一、ふませ(踏瀬)へ 泊り家なし 廿三丁
- 一、大田川(天)へ 泊家四・五軒あり 廿丁
- 一、小田川へ 能町也 十三丁
- 一、ねだ(根世)へ 泊家なし 廿七丁
- 一、白川(河)へ 拾万石、阿部飛驒守様御城下、能町也 壱り
- 一、白坂へ 此間式り程行、国境あり、能泊り家あり 壱り三十丁
- 下野国
- 一、芦野へ 芦野様御陣屋あり、能町也 三り十丁
- 一、こいぼり(越堀)へ 能町也、女郎もあり、川あり 三り
- 一、なへかけ(鍋掛)へ 廿一日、吉野屋栄助泊り 六丁
- 能町也、女郎あり

一、大田原へ 三り十八丁

一万石、大田原下総守様御城あり

能町也、女郎もあり

是る那須ヶ原也、次二川あり

一、沢村へ 二り八丁

一、日光へ 三り
廿三日・廿四日泊り

鉢石町高野貞三郎

一、や^(矢板)糸田へ 三り半

諸々参詣、休足仕候

一、館林へ 三り

川三ツあり

一、今市へ帰り 三り

一、赤岩へ 三り

一、高うちへ 十八丁

廿六日、仙台屋長八泊り

川あり 一、大沢へ 三り

廿七日四ツ時、帰村仕候

一、玉^(生)にうへ 二り半

一、か^(鹿沼)ぬまへ 四り

弁財村

一、ふ^(船生)にうへ 三り廿八丁

一、か^(合戦場)せんばへ 三り

大嶋常七郎

渡川賃廿四文ツ、

中奈良村

一、栃木へ 三り

重蔵

一、大^(渡)わたりへ 三り八丁

廿五日、羽生や伊左衛門泊り

勝蔵

一 文政10年（1827）湯殿山立山道中記

勘次郎

市五郎

栄吉

勇吉

右同行

七人

文政十亥年

閏六月十日出宅二而

七月廿七日帰宿也

日数合四十七日也

（裏表紙）

一 武州弁財村

大嶋常七郎

同行七人

（弁財 大嶋家文書二八）

二 天保一二年(一八四〇)道中袖日記

〔表紙〕
天保十一年

道中袖日記

正月吉日 ー

目出度

〔朱書〕
正月九日出立天気よし、大風吹

〔休〕

一、行田迄 三り

一、鴻巣迄 三り

九日泊り

一、桶川迄 壹り三十丁

〔朱書〕
〇 穀屋幸三郎

あしく

一、上尾迄 三拾丁

一、大宮迄 貳里八丁

此所当国一ノ宮氷川大明神江参詣仕候

此間大森左へ入、羽田ノ渡し
船賃五文ツ、

一、浦和迄 壹り拾貳丁

一、大師河原迄 貳り半

〔朱書〕
〔休〕

一、わらび迄 壹り拾八丁

此所疫除大師参詣仕候

戸田川船賃三拾貳文ツ、

天気よし

十二日泊り 〔朱書〕
〇 朝日屋武左衛門

〔朱書〕
〔休〕

一、板橋迄 貳り八丁

一、川崎迄 貳拾丁

吉

天気よし

十日泊り 馬喰丁四丁目
〔朱書〕
〇 いせや久兵衛

一、神奈川迄 貳り半

一、江戸迄 貳り

一、保土ヶ谷迄 壹り九丁

十一日大雨にて逗留仕候

武蔵 国堺あり
相模

〔朱書〕
〔休〕

一、品川迄 貳り半

〔朱書〕
〔休〕

一、戸塚迄

式り半

杉ヶ屋津^(舎)

次二頼朝公御城跡・重忠殿屋敷跡あり

此宿二入、式丁程行、はし^(橋)あり、橋ヲ渡らす、川之端を左へ行、鎌倉道成り

弘法大師御作也

光明寺

龍宮を伝来ノ石仏

正観世音御立有り

皇井大仏

雲り夕方雨降

此所を海川除之守出ル也

十三日泊り

此仏之躰之内江入二者、耆人三文ツ、はいる也、門前二名物大仏餅あり

一、鎌倉迄

三り

寺領五百石

健長寺^(建)

日輪上人岩屋

弁才天

一〇^(宋書)八幡前

小池新太夫 吉

名所

寺領五百石

是ハ西明寺殿御菩提所也、此所二頼朝公富士の御かり^(狩)に御遣被成候楠ノ^(棚)どうの太鼓あり、差渡し五尺八寸と也

権五郎大明神

円覚寺

矢柄ノ地藏尊

荒井之いんま^(間魔)

長谷寺観音

権五郎殿守本尊也

是ハ日本最初之ゑんまと也^(間魔)

坂東四はん^(番)、御たげ式丈六尺^(丈)

爰ハ上杉関領殿屋敷跡と也^(舎)

太神宮春日様之御作と也

鶴岡八幡宮

長持寺^(尊)

此所頼朝公御影堂并白旗納置宮あり、前

あみ引地藏^(廟)

是ハ尊氏公御影堂并御菩提所也

二鶴亀石あり、左之方二女石あり、其外

岩不動尊

諸堂多し

此外宮寺名所数多御座候へ共、筆紙二及

かたし、能々見物可被成候

此間を七りヶ浜(里)といふ也

〔休(朱書)〕

一、江嶋迄

式り

此所茶屋・泊り屋多分御座候、諸色高直二御座候間、昼飯者出来合百文にて

御休ミ可被成候

三社弁才天

御本地女(如)意輪観音

奥院岩屋弁才天江参詣仕候

天気よし

十四日泊り

〔〇〕(朱書)煙草や庄右衛門吉

一、藤沢迄

壹り半

此所遊行上人寺あり

寺領三百石

藤沢寺

小栗殿石塔・十人殿原石塔あり、横山

殿屋敷跡あり、其外いろく、古跡あり

次高入川舟(貫)ちん拾五文ツ、

一、平塚迄

三り半

此間大(橋)はしあり

〔休(朱書)〕

一、大磯迄

式拾六丁

此宿中程左方虎御石あり、開帳者 壹人

十式文ツ、

宿出口ニ鴨立沢、爰ニ西行之御影并

つ(秋)い長サ五尺式寸一(分)ふ之成り、とらの

御(前)ぜん十八才御影、其外宝物あり、開

長(巻)者 壹人六文ツ、西之浜辺を夕(暮)くれ

とゆふ也

曇り

雪少々降

十五日泊り

〔〇〕(朱書)小清水伊兵衛 よし

一、小田原迄

四り

十一万石 大久保加賀守様御城あり

此町虎や藤右衛門八ツ(棟造)むね作り也、此

町ニ狐籠多分あり、喧嘩口論を仕かけ、

む(無理)りニか(駕籠)ごニ乗せ、と中(途)にておろし申

候、か(駕籠)ごニ乗るつもりならハ、宿之主

人江懸合頼ミてよし、左様ニ候ても酒

代多分ニねたり申候間、随分御用心可

被成候

間宿

たい迄 壹り半

〔休(朱書)〕 畑 迄 壹り半

畑村めうかや畑右衛門休泊共よし、泉

水築山座敷等迄結構也

夫(右)三十丁程行、右へ五・六丁入

一、箱根大権現御立あり

一ノ鳥居之脇ニ釜式ツあり、是ハ頼朝

公富士之御(狩)かりニ御遣被成候と也、次

二御(弓)たらせあり、別当之庭ニ五郎十郎

宮あり、宝物開帳一組百文ツ、也、夫
方程無く

御関所

同行何人ニ而も一同ニ相揃、御番所御
（縁側）
ゑんかわにて、往来手形差上、御下知
承り罷通可申候

〔休〕
〔宋書〕

一、箱根迄

四り八丁

相州 国堺
豆州

天氣よし

十六日泊り

〔宋書〕
〔〇〕金や義右衛門

一、三嶋迄

三り式拾八丁

此宿中程二三嶋大明神

社領千五百石宮立結構也

鳥居之内ニ池あり、鯉鮒多分ニ居申候

次ニ木瀬川、長サ四拾八間橋あり

此川 豆州 国堺
駿川

一、沼津迄

壹り半

三万石

水野出羽守様御城あり

此町入口ニ山王権現社あり

〔休〕
〔宋書〕

一、原迄

壹り半

此間右ハ浮嶋ヶ原、左ハ田子浦

次ニかわいはし、長サ廿七間
〔河合橋〕

新はし十三間、次ニ吹上浜、六本松
〔橋〕

よしつねもみじかへり松、今者かれ
〔義経〕〔紅葉〕

て無し

一、吉原迄

三り

此間富士白酒名物あり

次ふし川船賃十九文ツ、
〔富士〕

川上りて名物栗粉餅あり

〔休〕
〔宋書〕

一、岩淵 是八間之宿也

天氣よし

十七日泊り

〔宋書〕
〔〇〕木瓜や忠兵衛 吉

一、蒲原迄

三り

一、由井迄
〔比〕

壹り

此間少々坂あり、爰を親知らず子知ら

すといふ也

次ニ興津川、舟賃拾六文ツ、

〔休〕
〔宋書〕

一、興津迄

式り

此宿出口ニ清見寺と曰ふあり、寺領

三百石、庭ニ梅・そ鉄名木あり、景地
〔蘇〕

也、門前ニ名代のかうやく有り、求メ

てよし
〔菅葉〕

我等此所る三保の松原へ船二乗り申候

一、三保松原迄 海上せり

此所三保大明神御立あり、宮立結講也、清見寺富士山を見はらし景地也

〔休〕^{〔宋書〕}

一、久能山迄 式り半

東照大権現宮立結講也、五重之^{〔塔〕}とう、其外諸堂多し、登り拾八丁石段見事也、海表を見はらし景地也

御社領三千石也

此所祭りの間に参り候ハ、茶やを頼、早く候共昼飯仕度して、一組式百文ツ、御本坊へ差上参詣仕候、茶やハ^{〔豆腐〕}とうふや伊右衛門、役人ニて^{〔尋〕}たつねてよし

天気よし

十八日泊り

〔宋書〕^{〔休〕}「〇」万や清三郎 吉

一、府中迄 式り半

此町中程、右之方御番城有り、夫方少々行、浅間社あり、末社九十九社宮立結講也、石と^{〔灯笼〕}ろうろう多分あり

家康公様拾七才之時御召被成候鎧有

り、兜・御刀式尺寸金拵也、鞆ハ^{〔白檀〕}ひやくだんと也、町数九十六丁通之内

寺り余二御座候

次二阿部川、^{〔安倍〕}かち越ちん四拾文ツ、川

之前後二名物阿部川餅あり

一、丸子迄 寺り半

此間少々行、宇津の屋^{〔谷〕}十ヲた^{〔御団子〕}んご名物あり、小坂あり

一、岡部迄 式り

此間少々行、朝比奈川^{〔橋〕}はし、長サ三十二間

〔宋書〕^{〔休〕}

一、藤枝迄 寺り式拾六丁

四万石本多備中守様御城あり
次二瀬戸川^{〔徒〕}かち越ちん^{〔貫〕}十式文ツ、
次二瀬戸染飯名物あり

一、嶋田迄 式り半

此間大井川越賃水次第、宿ハ紀伊国屋藤兵衛よし、早く候而も中食いたし、書付をもらへ川端へ行候へハ差支なし、我等ハ藤枝を金谷迄馬二乗り通り申候

昼方小雨降

十九日泊り 〔宋書〕^{〔休〕}「〇」山田屋治三郎

一、金谷迄 寺り

此宿出て坂あり、夫方佐代^{〔夜〕}の中山江かゝり、名物飴の餅あり
次二夜^{〔逆〕}なき石あり、先年孕女^{〔殺〕}ころされ候処也、右之方高キ山ニ無見寺之鏡^{〔鏡〕}見へる、次二八かうかねうち、夫方子

そだて寺、はらみ女石塔あり

り

鳳来寺道八寺之浦を下る成り

一、新坂迄 三り

同

此処名物わらび餅あり

一、市の瀬迄 三里

下り

社領百石

此間山道にて難所也、次二いぬへ川、
舟賃十五文ツ、

一、とくら迄 五拾丁

八幡宮御立あり

舟賃十五文ツ、

此間天龍川、船賃十六文ツ、
次二坂あり

〔休〕

同

一、掛ヶ川迄 三り

一、いぬい迄 三り式拾六丁

天氣よし 一〇山形屋八左衛門

五万石、太田備中守様御城有り

廿一日泊り 同

町過テ六丁行土橋あり、爰二秋葉山大

〔休〕

一、石打迄 三り

鳥居あり、此方へ行なり

一、ふもと迄 拾式丁

此間坂あり

同

天氣よし

登り

一、熊村迄 壹り式拾丁

大風吹 一〇江戸和泉や喜右衛門

一、秋葉山迄 五拾丁

此間坂あり

廿日泊り 是る五十丁道也

正面正観音、何茂宮立結構也

一、森町迄 三り

左方

秋葉大権現

遠江 国堺あり
三河

道あしく

別当禪宗

此間ミくらといふ宿あり、泊り屋もあ

社領三拾石、大登山秋葉寺

同

一、大平迄 壹り式拾五丁

此間坂あり

同

一、須山迄 壹り式拾五丁

此間登り、少し下り多し、道よし

〔休〕^{〔朱書〕} 同

一、大野迄 壹り式拾五丁

是乃廿五丁ハ平地也、其乃式十五丁ハ

登り也、右之内小寺丁行者もとしとい

ふ難所有り

一、鳳来寺迄 五十丁

東照大権現

薬師如来

三社明神

御朱印千五百石

烧岩山鳳来寺

夫乃少々下り 岩本院ニ宝物あり、壹

人六文ツ、ニて開帳也

よし 〔休〕^{〔朱書〕} 柏屋与七

廿二日泊り

一、門谷迄 下り拾八丁

此間ふうふまん中あり

次ニ瀧川、舟ちん五文ツ、

是乃段々道よし 五拾町道也

一、信玄村迄 貳り

此間甲斐信玄・家康公戦之節、陣取被

成候所と也

此村末ニ信玄太刀洗候池あり

〔休〕^{〔朱書〕} 同

一、新城迄 三里

八千石、菅沼亀丸様御陣屋あり

能町也

〔休〕^{〔朱書〕} 同

一、御油迄 貳り廿五丁

是乃東海道也

一、赤坂迄 拾六丁

此間ニ宝蔵寺と云寺あり、是ハ家康公御手習被遊候寺也

一、藤河迄 貳り九丁

此間大平川、長サ四拾貳間はし

次大岡越前守様御陣屋有り

天氣よし

廿三日泊り 〔休〕^{〔朱書〕} 大津や勘助 吉

一、岡崎迄 壹り式拾七丁

五万石

本多中務少輔様御城あり

此処能町也、町長サ五拾三丁也

町出て矢蔵橋、長式百八間

次二浄瑠璃御前屋敷跡あり

よし恒(義経)

浄瑠璃御せん石塔あり(前)

次二成平之作観音あり(巻)

一、池鯉鮒迄 三り半

此所糸川茶屋とて(カ)

公方様御茶やあり

三河 尾張 国堺あり

〔休〕(朱書)

一、鳴海迄 式り半

此宿八丁前二名物染物あり、本宿二者なし、次二笠寺観音参詣してよし

一、宮迄 壹り半

此宿上二阿津多大明神(熱田)

屋津留木明神(八剣)

社領壹万石 大社なり

宮名古屋迄町続也

よし

廿四日泊り

一、名古屋迄 壹り半

〔〇〕丸屋治兵衛(朱書)

大あしく

此所尾張様御城あり、四方三り町続二て能所也

一、甚目寺迄 壹り半

御朱印 真言宗

三百石 甚目寺

日本三尊之観音御立あり、御堂十四間二八間、三重之とう、其外七堂伽らん(塔)

也、夫名少々行、田中二小森あり、是

ハむかし左大将狐かり被成候節、狐逃

込候森と也、今しの田の森と云也、和

泉国二も御座候へ共元ハ此森と也

〔休〕(朱書)

一、津嶋迄 三り

午頭天王御立あり(牛)

宮立結構也

〔休〕(朱書)

一、佐屋迄 拾八丁

此所名桑名迄川船三り渡る也、船賃ハ御定メ壹人式拾八文ツ、也、宿ハ柳屋

源八殿宿役人にてよし、船中にて年玉・

酒手等ねたり候へとも、沢山二遣ス二

ハ不及、壹人二付十式文包五ツの七ツ

のと申候得共、我等組ハ何人にて此く

らいと御懸合可被成候、我等ハ廿八人

にて船壹そう買きり申候(艘)

天気よし

廿五日泊り 船道

一、桑名迄

三り半

〔一〇〕^{〔朱書〕}堺や三右衛門 よし

十一万石

松平越中守様御城あり

此町能町也、町中程右かわ^{〔側〕}二春日大明

神御立あり、町過て名物焼蛤多分あり

〔休〕^{〔朱書〕}

一、四日市迄

三り八丁

一、追分迄

壹り拾四丁

此処右者京道、左ハ伊^{〔勢〕}七道

次二川あり、はし^{〔橋〕}代六文ツ、

次二川あり、はし^{〔橋〕}代六文ツ、

一、神戸迄

貳り

一、白子迄

壹り

此町出口二子安観音御立あり、此庭二

年中咲候^{〔不断〕}ふたん桜あり

御朱印三拾石

天気あしく

度々雪降

〔一〇〕^{〔朱書〕}万や源四郎あしく

一、上野迄

壹り半

一、津迄

貳り

三拾五万石、藤堂和泉守様御城あり、

此処能町也、入口ニ船付あり、町中程

左方、からの阿^{〔弥陀〕}ミだ御立あり、是ハ太

神宮の御本地仏と也、正面ニ観音、左

方ニ阿^{〔弥陀〕}ミた堂、何茂結構也、開帳ハ何

人ニても百文ツ、也、御手之珠数請候

ニハ三拾貳文ツ、也

〔休〕^{〔朱書〕}

一、雲津迄

貳り

此間くも^{〔雲出〕}つ川、はし^{〔橋〕}代三文ツ、

一、六間迄

壹り

一、松坂迄

壹り

此所能町也

天気よし

廿七日泊り

〔一〇〕^{〔朱書〕}紅葉や九兵衛

一、櫛田迄

壹り半

此間くし^{〔櫛〕}田川、船賃八文ツ、

一、明星迄

拾八丁

次ニは^{〔祓〕}らい川、はし^{〔橋〕}代三文ツ、次ニ

明野^{〔ケ〕}之原也

一、尾畑迄

壹り

町過^{〔小俣〕}而宮川船渡し、無賃、川上りて茶
やあり、此所筑前や、手代荷物約束仕
候、二見ヶ浦江ハ此所左へ行へし、
我等ハ御師を参り申候

一、山田迄

壹り

天気あしく

前昼を雨降

正月廿八日八ツ時着

一、宇治迄

五拾町

御師

〔〇〕上野館太夫

一、内宮

外二八拾末社

一、朝熊迄

七拾弐丁

本尊(虚空)こくう蔵、其外諸堂多し

宝物数々あり

門前二万金丹妙薬あり、少々ツ、調べて

よし

一、二見

建石大明神、海中二行場あり、是へ

六文ツ、にて買納候、此浦山(奥)二二見

壱本松、伊勢三郎屋敷跡あり

晦日泊り

御師

〔〇〕三日市太夫次郎

一、外宮 外二四拾末社

御山之浦(奥)へ登り、天の岩戸、高(天)まか原、

夫(間)あいの山へ出ル也

志州

一、磯部

磯部太神宮御立あり

正月廿八日八ツ時着

廿九日、晦日、二月朔日迄逗留仕、二

月二日朝出立仕候

〔休〕

山田方

一、田丸迄

百町

此所たはこ入多分あり

紀州様御家老御城あり

次二牧野々原也

一、原ノ大辻迄

壱り半

此間(女鬼)ねき峠あり

此所右ハ高野道也

左ハ(八鬼)やき山道也、此方へ行てよし

一、大加瀬迄

壱り

天氣よし

二月二日泊り

〔〇〕神坂や平蔵

一、栃原迄

壱り半

一、あを迄

壱り半

一、見瀬迄

壱り

此間(三瀬)ミセ川、船賃八文ツ、是ハ宮川

之つ(統)、きと也、次ニ(三瀬)ミセ坂難所也

〔休〕

一、野尻迄

壱り

此所 笄(ツバ)太神宮
瀧原太神宮
猿田彦太神
長生宮

何茂茅吹にて古跡也

此地内二名木拾貳本あり

七(色)いろ杉 子持杉

夫婦杉 ほうき杉(帚)

兄弟杉 榊

三杉 四杉

鳥居杉 ひやうふ杉(屏風)

蓮利柳 飛杉(供)

右名木也、案内ハ子共出申候、随分頼

てよし、賃ハ壺人式文くらい也

此所休泊共参詣して、先二能き宿屋あり

次二長者野あり、はふ坂といふ坂あり

一、あそ迄(阿曾) 壱(一)

此間川二瀬あり、はるハはし(橋)なり

天氣よし

三日泊り

一、駒村迄

此間川あり、はし(橋)也

一、間弓迄

拾八丁

一、梅ヶ谷迄

拾八丁

伊勢

紀伊 国堺

次二川あり、舟ちん(賃)六文ツ、

間之村々ニ泊屋有り

一、長嶋迄

弐(二)

此処能町也、十八丁程行、壱石坂あり、
次馬坂、次二坂あり

「休」(宋書)

一、三浦迄

弐(二)

此間(始神)はじか三坂といふあり

一、馬瀬迄

壱(一)り半

此間道よし

一、木(引本)の元迄

壱(一)り半

此間川あり、はし(橋)也

次二馬(越)ごせ坂、石山にて難所也

昼後る雨降

四日泊り

「〇」(宋書)新宮や仁右衛門

一、尾(鷲)わし迄

壱(一)り半

此所海端ニ船付にて能町也

次二川あり、舟賃五文ツ、次二八鬼

山登り五拾丁也、四十六丁目二八鬼山

日輪寺あり

本尊荒神 別当 修(修)現也

夫(夫)る下り三拾八丁也

一、^(三木里)美幾迄

三丁

此所海端ニテ家多シ、爰方曾根迄舟あり、内海ニテ心安し、陸ハ式り也、船道ハ壹り也、舟ちんハ乗合次第、船壹^(艘)そう五百文位也、行道ニ神楽岩あり、船頭ニ尋へし

〔休〕^(宋書)

陸式り

一、曾根迄

舟道壹り

此間曾根治郎・曾根太郎坂あり、むかし^(昔)兄弟おいはきせし故名付ると也、登り坂そね次郎、下り坂そね太郎也^(曾根)

一、二木嶋迄

壹り八丁

此間あい川といふあり、次ニ大亀坂^(逢神)岩山ニテ難所也

一、あたしか迄^(新鹿)

壹り

此間坂あり、難所なり、峠ニ名木ほつき^(帚)松あり

一、はたす迄^(波田須)

壹り

此間大吹峠難所也、少々登り、十二面観音御立あり、梅の名木あり、夫方十六丁登り茶やあり、夫方七丁下り、田村將軍守本尊千手観音御立あり、北当^(烏帽子)テ糸ほし山、南当テ大戸山見へる、爰^(昔)ハむかし鬼人こもり候所と也、南当テ

鬼か岩屋、上段下段千疊敷と也、東二^(魔見ヶ島)当テま見るかしま、是ハ鬼右之岩屋へ

こもり候節、観世音舞を被成候所と也、夫方七丁下り、清瀧といふ瀧あり、高サ四丈也

天気よし

五日泊り

一、大泊り迄

壹り

此所海端也、川あり、はし也、少々坂あり

一、木ノ本迄

拾八丁

此間海端也、道あしく、通方右之方^(要害)よふかへ山、次ニ親知らすといふあり、次ニ有馬入口ニ岩山ニ大はん若経納候^(般)岩山あり

一、有馬迄

拾八丁

此間出て右ハ本宮道、左ハ新宮道也、是る段々海辺を行也、次ニ川あり、船賃五文ツ、次ニ松原を行、道よし、此所をいけべ^(池辺)松原と言也

一、一木迄

壹り

次ニ木川舟ちん三文ツ、

〔休〕^(宋書)

一、あたわ迄^(阿田和)

式り

此間石砂ニテ道あしく、小坂あり

一、井田迄

壹り

此間川あり、舟(賃)ちん定り廿五文ツ、川前二役所あり、船賃相渡し、手札請取川江行也

二月六日泊り

(宋書)「〇」角や慶助

一、三輪崎迄

壹り

此所海端能町也、爰者熊野鯨取所也、毎日明ケ七ツ時を船拾八双ツ、出ず也、我等通り候節者鯨あかり、七日八ツ時迄見物仕候、誠二三国一之珍敷見物仕候、夫を行、浜辺二那智黒(巻)ご石多分あり、次二こいの尼石塔あり、次二

小雨降

七日泊り

(宋書)「〇」仙瀧院

一、那智山迄

五拾丁

西国第壹番

(如)女意輪観音、龍宮を出現也

本堂五間四面、辰巳向

那智山

寺領三百三十石

(青岸渡)清岩寺

本堂ノ右ノ方、熊野社・十式社、仙瀧院之浦(巻)四丁下り、日本一瀧あり、妙

法山へハ式十五丁登り、是をすぐ二大

(雲取)くもとり坂なり、登り五拾丁難所也、

峠二茶屋あり、下り七拾五丁也、其外

小坂あり、小口迄山坂ニて難所なり

(宋書)「休」

一、小口迄

四り

此間小口川、船賃五文ツ、夫を段々

(雲取)小ぐもとり坂也、大ぐもも大難所也

三万七千石

水野下野守様御城あり

町末二神之蔵社あり、登り三町、本堂六間二十壹間、岩へ作りかけ、本尊立像大権現御立あり、此御山へハ七ツ時を過候てハ參詣無用也、新宮を半道行(御手洗)見たらいの浜、見たらいの坂あり

一、(宇久井)うくひ迄

壹り

此間小くし峠(狗子)・大くし峠(狗子)とて小坂式ツあり

一、(浜)はまの宮迄

五拾丁

此所浜宮太明神、三社也

千手観音御立あり

別当

社領九石 天台宗 (補陀洛)ふたらく寺

此間村里多し、左二金山見へる也

天気よし

(宋書)「休共」

天気よし

二月八日泊り

〔宋書〕小渕や常蔵

一、受川迄

三り

此村之中二川あり、はし也

是る音無し川の端を行也

一、本宮迄

拾八丁

熊野大権現 拾式社

御門東二弁才天・大黒天、奥院者地主

権現・音無天神・白川〔河〕法皇之石塔あり、

和泉式部石塔あり、町中程武蔵・相模

之御師尾崎太夫あり、札守牛王ハ此所

二て受へし

爰二宝物数々あり、開帳ハ何人二ても

百式十文ツ、也

是る十三丁登り峠二小栗殿被召候車塚

あり、爰二名物車餅あり

一、湯峯迄

式拾五丁

此所薬師如来御立あり、湯花二て自然

と出来候仏也、二重之塔あり、薬師法

便〔マ〕之湯あり、我等ハ休て湯入申候、夫

る湯川へ山越成り、塔〔際〕之きわる左へ登

り難所也、湯峰峠といふ也

一、湯川迄

式り半

此間二なへわり坂、次二〔夫婦〕ふうふ坂難所

也、次二小宝坂あり

一、野中迄

式り

天気よし

九日泊り

〔宋書〕丸や藤次郎

一、近露迄

式拾五丁

此宿出て川あり、船賃式文ツ、次二

大坂峠、次二拾丈峠、何も難所也、拾

丈村迄山坂也

一、拾丈村迄

式り

一、高原迄

拾丁

一、芝村迄

拾丁

此村中二川あり、船〔賃〕ちん五文ツ、次

二広野坂登り三拾四丁、爰を塩見峠と

いふ、茶や有、泊りてもよし、爰る田

辺其外見はらし皆々よろこび申候、夫

る下り計也

〔宋書〕休

一、上みす迄

式り半

此間川あり、上みす・中みす・下みす、

扱てく長き村也、中みす村二地藏堂

あり、次二善光寺女〔如〕来并〔鏡〕覚はん上人石

塔あり、是る段々平地也、次二中丸村

二右之方ほう来山牛頭天王あり、左二

池あり

〔宋書〕休

休

伊勢や又三郎

天氣よし

夕方方曇り

二月十日泊り

〔宋書〕〇「曾きや角右衛門

よし

一、田辺迄

壹り余

此所能町也、紀州様御家老

三万五千石

安藤帯刀様御城也

此町にて山仕舞之悦(祝)ひ二餅ヲねる所也、

我等ねり不申候、町之内弁慶之産湯あ

り、大(橋)はし長サ五拾五間(橋)はしあり、町

過(南部)てみなべの前迄船あり、我等三十式

文ツ、にて乗り申候、陸道ハ石砂にて

道あしく、海端二牛かはなといふ岩あ

り

一、みなべ迄(南部)

貳り

此間(南部)みなへ坂、かた(片倉)くら峠とて坂貳ツ

あり、次二川あり、は(橋)し代三文ツ、

一、岩代迄

壹り

〔宋書〕

休

一、切辺迄(目)

壹り

此村之内川あり、舟(貫)ちん五文ツ、村

末二切目王子社あり

一、いな美迄(印南)

拾八丁

此間野嶋村之内、右之方二清姫(草履)ぞうり

塚あり

一、塩屋迄

貳り半

此村末二日高川、舟(貫)ちん拾文ツ、川

上りて堤をまつすく道成寺へ行てよ

し、左へ入案内御座候へ共、小松原へ

掛りてハ、拾八丁之積と也

寺領百石

一、道成寺迄

半道余

三重之塔其外古跡あり、延長六年子ノ

八月清姫此寺にて鏡(鐘)卷候と也、庭二

つり鏡塚、あ(安珍)んちん塚あり、く(詳)わしく

ハ由来書二あり、其外宝物ハ何人にて

も百文ツ、也、夫方出テ田ノ中ニ蛇塚

あり、次二八幡宮社あり、道成寺二者

茶や計、泊り屋ハなし

天氣よし

二月十一日泊り

〔宋書〕〇「中や新吉

一、原谷迄(鹿ヶ)

貳り

此間(鹿ヶ)し、加瀬峠登り下り五拾丁、峠二

茶やあり

一、井関迄

貳り

一、湯浅迄

三拾町

此所浜辺にて能町也、町出て坊主峠・

いと(糸我)か峠(雀)貳ツあり、峠二茶やあり、爰

方(雀)ひはり山行てよし、下りて左方二寺

あり、爰二中将姫由来宝物あり、開帳

ハ耆人八文ツ、次有田川、舟(賃)ちん八文ツ、

「休(朱書)」

一、宮原迄

耆り半

此間(蕪)かふら坂あり、峠(蕪)ニ弘法大師岩へ爪(彫)ニてほり候地藏尊・阿(弥陀)ミだあり、登り下り五拾町也

一、加茂谷迄

耆り半

此間藤代峠(白)登り十五町、下り貳拾町、峠(白)ニ地藏堂、開山石塔あり
茶やあり、少々下り、金岡筆捨松・同硯石あり、下りて藤代権現(白)之社あり

一、藤代迄

耆り

此辺能所也

一、ひかた迄(日方)

拾八丁

此辺紀州わん(梶)出来る所也

風吹て寒し

二月十二日泊り

「〇」(朱書)兵庫屋弥四郎

一、紀三井寺

耆り

西国第(番)式はん

十一面観音、龍宮(出)る出現

本堂十(間)間四面、南向

此寺二龍宮(釣鐘)方上り候つり鏡あり、紀州

様御茶やあり、扱(釣鐘)く、景地也、爰方和

歌浦迄本道ハ耆り、船道ハ十八丁也、

船賃ハ何人ニても耆(艘)双(艘)貳百文位也、我

等四人ニて百五拾文ニて乗り申候、随

分船場へ行て(値切)ねきりて乗へし

行道二龍(燈)とう松・布引松あり、船頭ニ

尋へし

一、和歌浦迄

拾八丁

船(妹背)方(妹背)いもせ山へ上り、家康公様御袋様

御玉屋(靈)あり、二重塔、次玉津嶋明神、

ねんねこ山、天狗山(奠供)、片尾浪(男波)、次二天

満宮、東照宮、三重之塔、さ(下)かり松あり、(案)あん内頼てよし、賃ハ(案)貳十四文くら(案)い也

夫方行先二根上り松あり

一、和歌山迄

耆り半

此所紀伊守様御在城也、能町也、爰方粟嶋明神へ行道あり

「休(朱書)」

一、八軒迄

耆り

此所右八岩手道(出)、左八根来山、我等八根来山へ行申候、次二川あり、舟(賃)ちん拾六文ツ、

一、川(辺)なへ迄

耆り半

一、坂本迄

耆り三拾町

此所宿屋多し

一、根来山迄 五・六町

不動尊御立あり
大塔、其外諸堂多し

此所出て右之方、和佐山見へる

天氣よし

二月十三日泊り 「○」^(朱書)金や茂兵衛

一、粉川^(河)迄 式り半

西国第三^(番)はん

千手觀音井戸^(童)方上り候と也、御堂方
少し歸り、とう男觀音御堂あり、是
ハ池方上り候と也、池二印あり、堂
前二井戸あり

御朱印 天台

三百石 粉川^(河)寺

一、^(麻生)大津迄 壹り

此所入口二紀ノ川あり、此川前々ハ無
賃^(賃)と也、今ハ船^(賃)ちん拾文ツ、町出て大^(麻)
つ峠^(生)登り式拾八丁、峠之茶や二弘法大

師御作之くわん^(観)音あり、夫方横手二下
り

一、花坂迄 四り

大楽院茶屋

門屋重左衛門

當時兼帯

「休」^(朱書) 山田屋与七郎也

此茶や坊中^(童)方付届ケあり、茶や二て酒
ヲ出ス也、夫方五拾丁案内いたす也、
酒手案内ちん入不申候、是ハ寺方二組
二付白米壹升ツ、出ルと也
登^(袈裟掛)る道筋二けさかけ石、次二ほし上^(押)ケ
石、ねじり岩、鏡石、いろく名所あ
り

天氣あしく

十一月十四日八ツ半時着

一、高野山迄 登り五拾町

「○」^(朱書)宿坊大楽院

当山弘法大師御開^(基)記

三国一の靈^(場)常之地也、名所・古跡多し
大御堂

大塔高サ拾六丈也

御影堂

式社明神

其外諸堂多シ、寺数千軒余と也、町
家も多し

夫方奥院迄壹り也、一ノ橋・中ノはし^(橋)、
無名のはし、段々行道筋二天主様石塔^(子)、
將軍様、其外大名・旗本様方石塔あり、
曾我兄弟、熊谷、あつ盛^(敦)、四拾七騎、
か^(刈)るかや殿石塔あり、あけ智殿の石塔^(明)
ハわ^(削)れてあり、蛇柳姿見の井戸、あ^(汗)セ
かき地藏、夫方無名ノ橋

奥院

大師御入定所也

承和二年三月廿一日也

ひん^(貧)の一燈、長者の万燈、扱テく難有
事二候、御堂方少々歸り、木食上人寺あ

り、此所にて十念出る也、夫を寺へ帰り、

二月十六日朝出立

寺町通り行、松山二かゝり女人堂あり、

夫を拾町計下り不動堂あり、爰を四拾八

まかり、次二四寸岩なととて難所也

次二坂あり難所也

西国第四番

十一面観音 弘法大師作也

天台

槇尾山施福寺

宿坊七十三ヶ寺

下り

一、神谷迄

五拾町

此宿出て右八大坂道、左者槇尾道也

夫を横手二長下り、難所小坂あり

一、大畑迄

五十丁道

此村之内大師加持水あり、大師御作之

観音あり、次二蛇尾峠、紀州・泉州之

堺あり、夫を山道横下り也、次二から

の瀧とて四はん(番)槇尾山奥院あり、此寺

二宝物あり、開帳ハ壹人八文ツ、二

重之塔あり

夫を又山道を行也

五拾丁道也

一、横山迄

四拾町

此間上の(野)原、広キ原也

一、山田迄

一、山田迄

一、山田迄

一、大鳥迄

一、大鳥迄

此所右之方大鳥大明神、和泉国ノ一ノ

宮也、五重之塔有

〔休〕(宋書)

一、慈尊院迄

一、慈尊院迄

此所大師御母公(彌勒仏)ミろくほつと祭りてあ

り、大師直筆之御影あり、仏具其外い

ろく、開帳あり、二重塔あり、高野明

神五社結構也

次二紀の川無(貫)ちん渡し也

天気よし

二月十六日泊り

一、槇尾迄

一〇(宋書)梅中坊

三拾町

〔休〕(宋書)

一、堺迄

一、堺迄

此所紗綾・縮緬織出入所也、住吉三社

明神御立あり

此所和泉・河内・摂津三ヶ国之堺也、

次二三村明神御立あり

次二妙国寺、此寺二日本一之ぞ鉄あり、

そ鉄領五拾石

寺領 七拾石と也

次鉄砲・刃物等打出スかじや多分あり

次二鷹居屋二名木笠松あり

次二大和川、百三拾間はしあり

次二右かわ二難波屋之松とて名木あり

次二天下茶屋あり

二月十八日参詣仕候

難波はしを渡り

生玉社 高津宮

東照宮 御城

天満宮 津村社

天満はし 東本願寺

西本願寺 さま宮

阿弥陀ヶ池 とうとん堀

右之通り参詣見物仕候、夫方十九日出か

け

一、天王寺迄 拾式町

正徳太子御健立大伽らん也

西門二石鳥居之がくハ壹丈余と也、道

風筆也

天より下り給し仏と也

摂津 国堺あり

河内

次二大和川、はし也、夫方堤ヲ行也

次二大和川、はし也、夫方堤ヲ行也

一、藤井寺迄 式り半

西国第五番

千手観音、春日御作也

本堂五間四面南向

真言宗

寺領五百石 藤井山剛林寺

次二道明寺へ十八丁行参詣仕、次二

こん田八幡宮大社也

天気よし

十九日泊り 一〇「酢や定七 あしく

一、古市村迄 壹り余

此間坪井村二八幡宮あり、次二源頼義・

八ツ半方雨降 長堀はし

二月十七日着 一〇「平野屋佐吉

一、大坂迄 式り

一、平野迄 壹り拾四町

此所念仏寺といふ大寺あり、本尊あミ

た女来、是ハ天王寺之石ノ鳥居之上江

義家之石塔あり

一、上太子迄 式り

此所正徳太子石塔あり、廻り石之（聖）いか（齋垣）き八百本、弘法大師之作と也、次二御影堂、九社明神、其外參詣所多し、夫（当麻）たへまへ行道ハ此寺庭（当麻）たすぐ小懸越二行てよし、三十町計行、追分地藏尊あり、是（腰掛）た左江入少々登り岩屋あり、中将姫糸とり候所と也、わく石（腰掛）こしかけ石あり、岩屋（割目）ニわれめあり、是ハ河内・大和国堺也

一、染寺迄 壹り半

此所者 中将姫蓮糸を取染候処也、庭二染ノ井戸、糸掛ケ桜、古跡いろくあり

〔休〕（宋書）

一、たいま迄 八町

寺領三百石 当摩寺（麻）

御庭ハ全砂子也、能々一見すへし、中将姫之古跡、其外諸堂・名所多し

一、新庄迄 壹り半

此間八幡宮あり

一、御所迄 壹り

雨降

廿日泊り 〔〇〕（宋書）紙屋佐兵衛

一、土佐迄 壹り半

貳万五千石

植村駿河守様御城也

能町也、城を高鳥（池）と云也

一、坪坂迄 貳拾町

西国第六（番）はん 浄土宗

寺領五拾石 法花寺

奥院へ參詣してよし

爰（麻）る吉野へハ山越二行へし、本道ハ三拾町廻りと也

一、越部迄 壹り八丁

此宿ニ（陀羅尼助）だらにすあり、買へからす

次吉野川、舟（貫）ちん拾五文ツ、

一、むた迄 拾町

此所能町也、夫（並）た吉野迄五拾町之間桜并木也、十五丁目一ノ行場とて権現様あり、貳拾五丁目峯ノ薬師あり

〔休〕（宋書）

一、吉野迄 五拾町

此所能町也、鳥居ノ内泊り屋よし

藏王大権現 三躰也

開帳ハ何人ニても百文ツ、也

本社十八間、四面立居式丈五尺、柱数

七十式本色々取集之柱也

次二吉水院へ行、此寺二名所・古跡・

宝物数多あり、能々見物致へし、たら(陀羅尼助)にすけ買候ハ、爰ニて求ムへし、夫(多武)なとうの峰へ者少し歸りて、右へ下り、爰を吉野千本桜といふ也

重之塔あり

天台

終日

寺領三千石

妙樂寺

雨降続

外四拾ヶ寺

二月廿二日泊り(朱書)「〇」上田や吉右衛門

上々吉

一、飯(貝)かい迄 壹り

「休」(朱書)

一、長谷寺迄 壹り拾町

此所吉野川舟(貫)ちん拾式文ツ、川上りて

一、岡寺迄

五拾町

西国第八番

下り急也

十一面観音 御(丈)たけ二丈六尺

一、上市能町也、宿多し

西国第七番

太神宮 御作也

此処ニて(妹背)いもせ山見へる也

女意輪観音、弘法大師作也
奥院へ参詣スへし

春日 真言

次ニそとは(卒塔婆)峠難所也

一、阿部迄

壹り

寺領三百石 長谷寺
二王門(回廊)の本堂迄九十九間くわいろう作り也

終日雨降続

此所日本三文殊と也

二月廿一日泊り(朱書)「〇」森川や儀兵衛 吉

一、瀧畑迄 壹り半

一、桜井迄

壹り

一、追分江戻る 壹り十町

此間坂あり、峠ニ泊り屋あり

一、追分迄

拾町

此間金谷村(朱書)を右へ入、近道也

一、(多武峰)とう峯迄 五拾町

此処へ参詣して戻る也、荷物預けてよし、此処江五年前(鍛冶屋)なかじや出来候と也

「休」(朱書)

此所藤原氏之曾祖也、宮数七社、十三

一、三輪迄 壹り拾町

御む(無)そふ(双)ほふ(豊)しん丹といふ薬あり

昼方よし

三輪明神参詣して町へ出ル也、名物
そふ(素)麵あり、爰方法隆寺江者細道にて

廿三日泊り
「〇」(宋書)花内や忠兵衛

左へ行也、茶やにて能々承るへし

一、郡山迄
壹り

天気よし

十五万石、松平甲斐守様御城也

二月廿四日泊り
「〇」(宋書)小刀や善助よし

一、(田原)たわら本迄
貳り

一、南都迄
壹り

一、西京迄
拾三丁

龍田川(橋)はし也

八幡宮社あり

南縁堂(巴) 興福寺

一、法隆寺迄
式り半

薬師大伽(藍)らん也

諸堂多し、名所者さる沢池、絹かけ柳、
采女宮、八重桜、文殊四郎かじや也、
(殿治屋)

此所七堂大がらん也、五重之塔、其外

六重之塔、し(釈迦如)やか女来足跡あり

諸堂多し、峯の薬師御立あり

つり鏡・薬師八百済国を渡りと也

ほ(法相)つ宗宗

寺領千石
法隆寺

一、(唐招提)正大寺迄
五町

寺領三百石、此所大門之跡と也

一、龍田迄
八町

夫方右へ出、ほ(宝)ふ来山池之端ヲ通

龍田太神御立あり

一、菅原迄
八町

二尋へし

一、小和泉迄
壹り

天満宮御立あり

廿五日大雨にて逗留仕候

壹万石、片桐市正様御城あり

一、西大寺迄
拾町

一、木津迄
壹り半

曇り

寺領三百石

次二木津川、船(賃)ちん拾六文ツ、

一、玉水迄

貳り

一、六地藏迄

壹り近し

一、長池迄

壹り半

曇り

〔宋書〕
一〇「八幡や平四郎

一、笠取迄

下り
貳拾五町

〔宋書〕
「休」

一、宇治迄

貳り

一、下醍醐迄

拾町

一、岩間寺迄

貳拾五町

此所茶之名物也、調てよし、町入口方

領三千石

三寶院宮様

千手観音

正法寺

右へ行、平等院江参詣してよし、宝物

五重塔、其外諸堂多し、夫方登り、難

是方貳拾町計下り、水海瀨田見へけい

数々あり、頼政扇の芝・駒つなぎ松あり、次宇治川渡り右へ四町行、興正寺

所也、都の熊野路といふ也

地也

二日本一の坪木あり

是方山城国也

一、石山迄

五拾町

一、三寶戸迄

拾五町

西国第十はん

一、上醍醐迄

登り
五拾町

西国第十三はん

石山寺

本尊千手観音

西国第十一はん

醍醐寺

御庭二よふかう石いろく、名石あり

一、おうばく山迄

三面八ひの観音

爰方百足山・瀨田橋・瀨々城見へて景

寺領四百石 万福寺

此寺大からん也、古跡多し

山城・近江国堺也

〔宋書〕
「休」

一、瀬田迄 八町

此所能町也、橋式ツあり、中に表藤太之宮あり、橋渡りて能町也

一、むさ迄 (武佐) 壹り半

此所を壹り行、左へ入也

一、長命寺迄 壹り半

西国三拾壹はん (番) 登り九町也

一、草津迄 貳り

此町下二右八東海道、左八中仙道追分あり

一、観音寺迄 (正脱カ) 壹り半

登り 拾貳丁也

此所を大津迄船あり、我等八守山へ荷物預け置候故ニ、牧村迄船ニて戻申候

一、守山迄 壹り半

小雪降続難義仕候 (朱書) 山田や徳右衛門 二月廿七日泊り よし

千手観音

一、八幡迄 壹り半

一、牧村迄 壹り

此所へ船の上り

我等此所へ荷物預け置、長命寺・観音寺へ行、戻りて泊り申候へとも、長命寺を大津迄船あり、乗り候へ者一日之徳なり、かならず荷物者預けべからず

一、常楽寺迄 壹り

此所を長命寺迄船あり、小舟壹双貳百文也、乗てよし

一、田中迄 拾八丁

此間川あり、はし代六文ツ、

此間川あり、はし代六文ツ、

天氣よし

一、かがみ迄 (鏡) 貳り半

此間百足山のふもとを通る川あり、はし代六文ツ、

一、八幡迄 (朱書) 壹り

此所能町也、八幡宮社あり

一、守山迄 (朱書) 貳り余

此間川あり、はし代六文ツ、

二月廿八日 (朱書) 山田屋江帰りて泊り

〔休〕^(宋書)

一、草津迄

壹り半

此町上二名物うば餅あり、爰方^(矢橋)やばせ

へ行也

一、^(矢橋)やばせ迄

貳拾五町

此所方大津迄船乘なり、天気あしく
^(散)ゑひ山おろし風吹時者、草津方瀬田・
^(膳所)瀬々へ廻るへし、船賃四拾八文ツ、二
て我等ハ乗り申候

船道

一、大津迄

五拾町

此所日本三津と也、能町也、諸大名方
之御蔵あり

一、三井寺迄

八町

西国第拾四^(番)はん

女意輪観音^(如)

寺領五百石

奥院へ四丁、此所二三井之鏡^(鐘)あり、三

井之井戸あり

〔休〕^(宋書)

一、唐崎迄

壹り

日本一の名木松あり

一、坂本迄

壹り

此所少々登り、東照宮社あり、夫方左
へ下り、日本一石は^(橋)しあり

夫方日吉山王二十一社・八王子社、何
茂宮立結構也、亀井之井・ゆめ石あり

登り

一、^(比叡)ひゑい山迄

五拾町

本尊薬師、根本中堂、^(釈迦)しやか堂、次
二弁慶行致候所あり、伝きやう大師御
^(廟)ひやう所、次二金の惣輪塔^(様)あり
坊百三拾坊あり

下り

一、黒谷迄

拾八町

此所^(法然)ほう念上人開記念仏堂あり、寺計
壹軒也

天気よし

二月廿九日

〔〇〕^(宋書)とうふや^(豆腐屋)長左衛門

下り

よし

一、^(八)屋瀬迄

三拾式丁

一、^(大)尾原迄

拾八丁

此間小坂式ツあり

一、^(鞍馬)くら馬迄

式り

此所能町也

当山ハやけて何も無之、焼跡計也、宝
物有之候へとも焼物也
夫方僧正か谷へ行、道^(義経)二よしつね^(背)せい
^(比)くらべ石、次二不動堂、夫方義経兵法
習候所あり

一、木船迄 (貴) 八町

此所木船大明神社あり

〔此間梶本村二而休〕
(朱書)

二月晦日七ツ前着

三月朔日 昼方大雨降

同 二日 大雨降続、休

同 三日 御鶏合拝見

参詣次第

黒谷極楽寺

三重之塔

次二堂あり

此所熊谷殿御影あり

敦盛公御影あり

本山黒谷寺

本尊円光大師

次二妙見井 (註釋)

次大本山知恩院

此所景地也、山の上日本一(釣鐘)つりかねあり

祇園牛頭天王

此所遊女町多分あり

八坂塔、爰ハ(塔)とう計也

次

音羽山清水寺

西国第拾六(番)はん

田村將軍守本尊と也

三重之塔、其外諸堂名所多し

次

一、野中迄 壹り

一、市原迄 拾八町

此所小野小町古跡あり

(深泥)みそろ池・(糺)たゝすの明神

一、上賀茂迄 拾八町

御普請結構也

一、下賀茂迄 拾八町

御普請白木作也

一、京都

六角堂前迄 貳拾町

天氣よし 一〇(朱書)「筑前や治郎左衛門

六角堂

西国第拾八(番)はん

一条革堂

西国第拾九(番)はん

御龍八社明神

白川殿江入

三拾六文出し御盃・年取豆御供等い
たゝき申候

吉田殿江入

錢百拾五文出し宗源殿へ参詣仕、帰
りて御盃被下、御供いたゝき申候、
夫方少行日本神々御帳面納置と所
也、廻二六拾六ヶ国一ノ宮社あり

稻荷社

是ハ日本始り稻荷と也

補陀落山六破羅寺(渡(蚤脱))

西国第拾七はん(番)

十一面観音かうや上人開記(基)

次

東山今熊寺

西国第拾五はん(番)

十一面観音弘法大師作也

次、三拾三間堂

次、大仏の釣鏡(鐘)

次、大仏焼跡也

次、東本願寺

此所ハ日本一之大寺也、殊ニ御普請あ
たらしく候故結構也

西本願寺

東寺・東福寺へ

夫々京都町々一見仕候

三月節句、早昼飯にて大内御鶏合拝見

ニ参り、西ノ御門外ニ八ッ過居誠ニ退

屈仕候、八ッ過ニ御門明キ大内江入

御鶏合之場江行拜見仕、夫々紫しい(寝)

殿・清龍殿ヲ拝し、朝日御門江出ル也、

鶏合拜見被成候ハ、七ッ前行てよし、

おそぎ程能拜見出来ル也

三月五日出かけ参詣

じん泉院池(神)

二条御城

北野天神

平野明神

金角寺(園)

妙心寺

大寺なり

〔休〕(朱書)

おむろ御所(御室)

此所五重之塔、其外諸堂多し、桜名木

数多あり、夫々行道ニ硯石多分あり

嵯峨しやか参詣仕候(釈迦)

次ニ清瀧町茶や多分あり、是々あたご(愛宕)

へ五拾丁登り

一、愛宕山迄

京宿を三り

本地將軍地蔵也、壹丁計下りて左りへ

下る也

山城・丹波国堺也

天氣よし

三月五日泊り

一、保津迄

此間川あり、舟(ち脱)拾貳文ツ、

丹波

一、龜山迄

五万石、松平紀伊守様御城也

能町也、山城にて見事也

一、穴太寺迄

西国第貳拾壹はん(番)

正観音

此間ハ谷間計四拾八瀬渡り、小坂式ッ

あり、至而淋しき道也

一、(化野カ) あたはだ迄 三り

此間淋しき所也、都の熊野路也

次ニ八幡宮、社領千石

二重之塔あり

次ニ川あり、船賃拾六文ツ、

川上りて橋本也

此所河内・山城・摂津、三ヶ国之堺也
是る摂津国也、宿出て左り方ニ高付御
城見へる也

(朱書)
「休」

一、善峯迄 壹り半

西国第二十(番)はん

千手観音、弘法大師作也

二重之(塔)とう、六角堂

から松名木あり、此所々京都見へ景地

也、夫方行道ニ

長岡天神社あり

一、橋本迄 拾八町

此所能町也、八幡江参詣して爰迄返る
也

一、八幡迄 拾八町

八幡宮御普請結構也

社領八千石と也

御拝之内ニ(黄)お(種)う(種)金之といあり

一、(并) 悪田川迄 壹り半
此所能町也

一、(総) 惣持寺迄 壹り

西国第式拾式(番)はん

千手観音

御朱印三十石

一、(朱書)「休」
一、郡山迄 壹り

此所能町、西海道也、爰方大坂迄四り
と也

一、山崎迄 貳り半

此所観音寺と云木食寺あり

東照宮

薬師堂 御普請結構也

夫方宝寺江かけ越也、爰ニ延命小袋、

打手小槌、其外宝物あり、開帳者何人

ニても百文ツ、

天気よし

三月六日泊り (朱書)「〇」木綿屋利右衛門

一、橋本迄帰り 拾八町

又川を渡り、左へ行

一、(楠葉) くつわ迄 拾八町余

一、勝尾寺迄 五拾丁道也
壹り半

御前坂七丁登難所也

西国第二十三(番)はん

千手観音

爰(箕面)方ミの尾山へ山越二行也、小坂式ツ

あり、箕尾(道)の瀧之元へ下る也

一、箕尾(面)迄

壹り

此所日本式(番)はんの瀧と也 夫方六町

行、弁才天宮立結構也

一、(新編)にいな村迄

三拾町

〔休(宋書)〕

一、池田宿迄

式拾五町

〔(虫掛)〕立出

名まり沢

次、黒岩山・白岩山景地也

川越事廿一度也、此辺山多シ

船坂

此辺山坂多シ、山中二男女わからぬ姿

之所有

有馬入口也、左り方立石有

円通寺、ひくらの庭(し脱)

夫方三十丁行て立石有

表二 日本第一神靈泉

脇二 山の名に馬ハあれとも湯のしる

し、みさ(壁)りも立(り脱)て歩行よりてにぬ(ぞい)

三日房難丸

夫方少々下り川を越、五十丁行

入口 一の湯

有馬湯場

夫鼓(ケ)之瀧、名所・古跡あり

仏母摩那山江山越、大難所也

此所者 諸白名酒本元也、ま(満願寺)んくわんじ(等)

など格別之品也、此辺在々ニも酒屋多

分有

天氣よし

〔(宋書)〕〇〕大國や六右衛門

三月七日泊り

あしく

一、中山寺迄

壹り半

西国第二拾四(番)はん

千手観音

一、小はま(浜)迄

拾八町

此所能町也、次二川あり、舟(賃)ちん拾式

文ツ、

昼方大雨二付早泊り

八日

〔(宋書)〕〇〕十文字屋勘兵衛

一、西ノ宮迄

三り よし

此所西ノ宮大神御立あり

我等参詣之節者、開帳ニて(賑)にきやかな

り、別当延福寺

一、住吉迄

式り

住吉大明神四社あり

〔(宋書)〕休

一、摩那山迄

式り

御前坂拾八町登り

楠殿打死被成候川也、水ハなし

一、塩屋迄

壹り

寺領千石 天上寺

一、兵庫迄 拾八町

十一面観音

此所能町也、清盛公大海ヲ築立候節、

撰津^(磨)国堺あり
播摩

夫人堂

人柱立てんと致候時、松王小児と言人、

此所登口ニ茶やあり、荷物預ケてよし、

太勢之身代り立候、つき嶋寺ニ御影石

一、たる見迄^(垂水)

壹り半

布引江かけ越道あれ共、道あしく遠し
と也

塔あり、其外宝物あり、開帳者何人ニ
ても百文ツ、

此辺ニ船あれ共乗へからす
左方海中ニ淡路嶋、四国見へる、是乃

一、布引迄

町浦ニ清盛石塔あり、是乃明石迄五り
半之間、泊り屋なし

明石迄海辺、松原を舞子浜といふけい^(景)
地なり

一、上男瀧六段ニ落る、下ニ女瀧、三段ニ
落る也

一、須磨寺迄

雲り

一、生田森迄

本尊正観音

大倉谷町

生田大明神御庭ニ梶原の井戸・糸ひら^(瓶)

宝物数々あり、開帳者何人ニても百文

一、明石迄

壹り半

梅・神功皇宮の釣さを・かう来竹、敦^(竿)
盛之萩あり^(高麗)

ツ、御門外若木桜あり、神宮功皇釣^(功皇后)
さを、篠竹、義経公腰かけ松あり、夫^(竿)
乃一谷へかけ越、ひよどりこへ、て^(二ノ谷)
つかへか峰、鏡かけ松あり、夫乃少々

三月九日泊り「〇」石屋文四郎 上々吉^(朱書)
此所能町也、長サ七拾式丁と也、入口^(度)
乃四・五町行、右へ入忠のり石塔あり、
次二人丸社あり、御庭ニ名木もうしやう^(盲杖)
桜あり

一、かうへ迄^(神戸)

一、休^(朱書)

壹り

此間右之方ニ楠殿石塔あり、次ニ湊川

下り城跡大内跡あり、夫乃二谷・三ノ
谷、此所敦盛石塔あり、名物そばあり

桜あり

一、大久保迄 壹り半

三月十日、天気よし

一、高砂迄 拾八町

一、長池迄 壹り

つり屋

此所右ハ加古川道、左ハ播摩(巻)、名所道也

此所能町也

(朱書)「〇」伊七郎

也

我等ハ此所ニ荷物預ケ置、石ほう(宝)殿へ行、歸りて爰(左)船乗り申候、此間川あり、船賃八文ツ、

一、あほ(網千)しの浦迄 九り

一、二子迄 壹り

一、石宝殿迄 壹り

三月十一日九ツ時、此所ニ着仕、風無故夕方迄休、夕方(左)夜中乗り

此川あり、船賃四文ツ、

一、大石大明神、石宮横ニ成てあり、是ハ段々由来あり

一、神崎浦迄 拾り計

一、へ(別府)ふ迄 壹り

此所大石大明神、石宮横ニ成てあり、是ハ段々由来あり

十二日朝四ツ時、此所エ着、い(礎)かりを(礎)おろし、七ツ半頃順風ニて出帆仕候

此所住吉社あり、名木手枕松あり、夫

を(礎)出(礎)て松原ヲ行、見崎の天神社あり、

一、曾根迄 拾八町

此所天神社あり、庭ニ松名木あり、今ハ(礎)かれて雨をいして有り、外ニ松あり

爰ニ鶴巢(籠)こもりの松名木あり

一、曾根迄 拾八町

(朱書)「〇」佃屋(ツクタ)

「休(朱書)」

一、曾根迄 拾八町

金十郎

一、尾上迄 三拾町

三月十日泊り

一、丸亀迄 九り計

尾上鏡住吉社あり

一、高砂迄歸り 壹り

五万三千石、京極長門守御城あり

尾上松・相生の松、何れも今ハ若木也

我等ハ此処方四国金比羅・芸州宮嶋迄

此所能町也、御本陳見付(礎)や勘左衛門殿

次ニ川あり、舟賃四文ツ、

片道船乗り申候、船賃老人分金壹分三

の庭立寄見物してよし

朱ツ、ふとん壹枚三匁五分ツ、也、

一、加茂迄(鴨) 四拾町

薬師女来(如)

十七日参詣(宋書)「〇」伊与や久兵衛
弁才天 よし

四国第七拾七(番)はん

薬師女来(如) 道隆寺

「休」(宋書)

一、金毘羅迄 壹り

此所惣廻(廊)ろう作りなり、五重之塔其外
諸堂多し、日本式(番)はんの景地と也

一、多度津迄 式拾町

金比羅大権現宮立結構也、御守ハ小札

奥院へ拾八町登り、三町計登りて白糸

此所能町也、京極様御分家壹万石之御
城あり

壹刃式分、次ハ六刃也、此所能町也

奥院

十三日泊り(宋書)「〇」佃屋金十郎

(虚空)こくう蔵、弥山三鬼神末社三拾八末社、
其外名所多し

一、弥谷迄 五拾町

一、丸亀迄 百五拾町

九丁下りて

登十八丁

十四日風無故、夕方出船仕候

弘法大師

四国第七拾壹番 弥谷寺

此山者神仏数多、石二切付有り、皆大

十五日夕方着

飛不動 御立あり

師之御作也

一、かまかりの嶋(蒲刈)

十八日 岩国へ参り申候

一、ま(曼茶羅)んたら寺迄 式拾八町

十六日朝五ツ時着 八ツ時ろ小雨降

四国第七拾式(番)はん

一、を(音戸)んとの瀬戸

一、ま(麻里布)りふ湊迄 海上五り

大日女来(如)

三月十六日夜二入着

「休」(宋書)

一、善通寺迄 式拾八町

一、宮嶋迄 海上五拾里

一、岩国町迄 陸五拾町

四国第七拾五(番)はん

此所吉川様御城あり

日本一ノ錦帯橋あり 式拾五間ツ、橋五ツあり、中三ツ柱なし、川へ下りて能々一見すへし

一、まりふ迄帰り(麻里布)

此辺塩焼多分あり

十八夜入

一、宮嶋迄(宋書)「〇」帰り

十九日大雨降、出船無之休ミ

一、広嶋迄 海上五り

四十式万六千石

松平安芸守様御城あり

此所能町也、船付之辺御船蔵之場并木

松扱てく(景)けい地也

次二(可部)かべ町入口ニ太田川、舟ちん(賃)五文ツ、

天気よし

三月廿日泊り(宋書)「〇」とのや栄次

一、可部迄 四り

此式り余行小坂あり、此間岩山にて道あしく

一、本地迄 四り

(宋書)「休」

一、中山迄 三り

此間者山間之道行也、式拾丁計行、左

ハ(浜田)はまた道、右ハ銀山道、右へ行てよ

し、次岩戸村末ニ亀谷坂登り七町、高

石にて道あしく、峠ニ芸州・石州国堺

あり、夫方下りて上亀谷村也

天気よし

夜ニ入雷雨降

三月廿一日泊り(宋書)「〇」山根勝平

一、下亀谷迄 三り半

一、出羽迄(イッハ) 拾八町

一、高見迄 壹り半

此間小坂あり、高石にて道あしく

一、八色石迄(ヤイロシ) 壹り余

此間下り坂あり、高石にて道殊之外あしく四拾八瀬飛石にて渡る也、水まし(尊)

二者渡り難シ

(宋書)「休」

一、川本迄 式り半余

此所能町也、出口ニ川あり、船賃拾式

文ツ、次ニ小坂あり、高石にて難所也

一、諸敷迄(組式) 三り

此間小坂あり、高石にて道あしく、大

森る半道前左方、石見銀山を見て麓ヲ

通る也、大森入口二岩山二五百羅(漢)あり、けい(景)地也

小雨終日降
一〇「駒足町角」(朱書)

三月廿二日泊り
たまる屋泰助

一、大森迄
此所能町也、金堀役所有り
式り余

一、久利迄
壹り半

一、太田迄
壹り半
此所能町也、是方段々道よし

「休」(朱書)

一、波根迄
式り

此所海端ニて能町也、泊り屋八町之末
二あり、次二小坂あり

石州 雲州 堺あり

一、たぎぬ迄(多伎)
壹り半

此海辺也、次小坂あり

一、くむら迄(久村)
式り

此宿出て海端を式り計行、右へ入十五町計行、こし川(越)船(貫)ちん拾八文ツ、次二川あり、はし(橋)代壹文ツ、

大鳥居町
天氣よし
「〇」大嶋屋幸兵衛(朱書)

三月廿三日
一、杵築町迄
三り
廿四日参詣仕、大雨ニて逗留仕候

大社大国主太神宮

御宮立結構也、御本社南向九尺間六間
四面

御本浦八雲山、右八鶴山、左八亀山也
国祖様式軒あり、御家老之類拾軒ツ、

外二坊中三百軒と也

御知行三千石

参詣之義者、壹組百式拾銅ツ、御役所へ差出候へ者、ろう門(楼)へ登拜礼いたす也、外三十八末社中二龍蛇様ハ毎年十月十一日(乃)十七日迄之間、龍宮(乃)御遣へと也、能々拜スへし
平地也

一、平田迄
四り

此所能町也、夫(乃)壹り計行、布崎川壹文渡しあり、此所(乃)松江迄五り、船あり、内海ニて心安し、我等四人ニて式百四拾文にて乗り申候

一、松江迄
海陸六り

十八万六千石

松平出羽守様御城あり
此所好町也

終日小雨降

三月廿五日泊り

〔^(宋書)〇〕中屋彦市

一、あだかい迄

式り七町

り

次川あり、はし^(橋)代四文ツ、

一、水く^(御机)い迄

同三り

一、いや^(掛屋)町迄

拾八町

終日小雨降

〔^(宋書)〇〕

此所能町也、殺生場なり

三月廿六日

角や藤蔵

〔^(宋書)休〕

一、伊藤^(意東)迄

式拾町

一、尾高迄

式り

一、^(サカ)下り蚊屋迄

五拾町

此所^(意東)る米子迄五り、船あり、我等四人

廿七日大雨降、昼立にて登申候、此所

此間小坂あり、高石にて道あしく

二、式百式拾文にて乗り申候

出口を右江行、芝原ヲ登申候、式り計

一、のぶ^(延助)すけ迄

式り

一、安来迄

陸式り

風雨にて難義仕候

一、郷^(郷原)ノ原迄

式拾町

此所^(宋書)る米子迄三り、船あり乗てよし

三月廿七日泊り「〇」とうふ屋源太郎

此間小坂あり

出雲

伯耆 国堺あり

一、大仙^(山)大智明大権現迄

登り五拾道三り

一、藤森迄

壹り式拾町

一、米子迄

三り

御本社西向

社領三千石

小雨降続

壹万石、荒尾近江守様御城あり、山城

此間下り道、雪ありて道分す難義仕候

三月廿八日泊り

〔^(宋書)〇〕

谷屋善四郎

二、能町也、能町也、名物かすり嶋あ

御本坊 天台 清染院^(西)

一、湯原迄

式り余

り、日本一^(耕)かすりなり、在々ニもあ

横下り

此処湯治場也、我等ハ泊りて式・三度

ツ、入湯仕候

〔休〕^{〔宋書〕}

五十丁道也

一、間賀迄^{〔真〕}

貳り

此処湯治場也

天気よし

〔〇〕杉屋善助^{〔宋書〕}

三月廿九日泊り 五十丁道 よし

一、勝山迄

貳り余

貳万三千石

三浦志摩守様御城あり

此町中程右かわ^{〔側〕}貳町入

玉雲大権現御立あり

是ハ下野国那須の原殺生石、げん^{〔源〕}お^{〔翁〕}ふ

おしやうわり^{〔和〕}候節かけ石飛来ると也、

此町る備前国岡山迄拾八り

川船あり、船賃定り壹人貳百文ツ、也、

我等ハ乗り下り申候、朝日川といふ也、^{〔地〕}

船道筋記ス

一、久世迄

貳り

此所方も船出ル也

一、落合迄

貳り

一、福渡迄

貳り

此所川番所あり

作州・備前国境あり

一、金川迄

六り

夕方小雨降

〔〇〕小倉や庄吉^{〔宋書〕}

四月朔日泊り

あしく

此所松平内蔵頭様御家老御陳屋あり^{〔陣〕}

〔休〕^{〔宋書〕}

三文渡しといふ川あり

一、岡山迄

六り

三拾五万石、松平内蔵頭様御城あり

此所能町也、壹り半之町続也

一、備前吉備津迄

壹り

此所吉備津社あり

備中国

一、吉備津迄

拾八町

御本社北向宮立結構也

貳百八間かいろ^{〔回廊〕}ふ作り也

一、庭瀬迄

壹り

二万石、板倉撰津守様御陳屋あり^{〔陣〕}

〔休〕^{〔宋書〕}

一、早嶋迄

貳り

此宿出口、右ハ本道、左ハ近道あり、

三文渡しといふ川あり

一、あまき迄^{〔天城〕}

近道壹り半

天気あしく

四月二日泊り

〔〇〕扇子や徳右衛門^{〔宋書〕}

百町

一、ゆうか山迄^{〔由加〕}

百町

御前坂拾八町登
ゆうか山大権現宮立結構也

一、持吉村迄 五拾町

一、八浜迄 壹り六町

此所船付にて能町也、我等爰る新田
はん迄船乗り申候、船賃者四人にて
百文也

一、壹番迄 海上弐り

〔休〕

一、四番迄 壹り

此処沖田大明神宮立結構也
新田拾壹ヶ村之惣慎守と也

一、西大寺迄 壹り

此処本尊十一面観音御立あり

観音院西大寺

此間あした川、船賃三文ツ、川渡り
て左へ行、堤ヲ行てよし、長船と云所
にて本道江出る也

天気よし

四月三日泊り 一〇〔万屋良三郎〕

一、香登村迄 三り

此処間宿也、次二いんべ村、名産徳利
焼出す所也

一、片上迄 壹り半

此処船付にて能町也

一、八木山村迄 弐り

一、三ツ石迄 弐拾五町

此間船坂あり、峠二備前・播摩国堺あり

〔休〕

一、なし原迄 壹り
此間有ね峠五町登り、西有ね迄長下り

一、西有ね迄 壹り

一、東有ね迄 壹り

此間ちくさ川、船ちん拾弐文ツ、
一、鶴亀迄 弐り

此処鶴や千蔵・亀屋万蔵とて能茶屋あり、泊り屋ハなし

一〇〔花屋庄左衛門〕

天気よし 四月四日泊り 上々吉

一、片嶋迄 壹り半

一、正條迄 拾八町

正條川舟賃八文ツ、

一、いかる迄 壹り

此間川あり、^(徒)かち越八文ツ、

一、山田迄 五拾町
此間小坂あり

一、青山迄 壹り

此町西入口を左へ書写山道あり、細道也、次二川あり、^(橋)はし代三文ツ、

一、坂本迄 壹り余

此所茶屋多分あり、爰ニ荷物預てよし、又是迄戻る也

^(朱書)「休」 登り

一、書写山迄 拾八町

西国第貳拾七^(番)はん

^(如)女意輪観音

本堂九間四面南向

奥院弁慶学問所、弁慶姿見井戸、三

堂大^(伽藍)からん也

天気よし 福中町

四月五日泊り ^(朱書)「〇」和泉屋九市郎

一、姫路迄 貳り 吉

拾五万石、酒井雅楽頭様御城あり 能町也、革類多分御座候

次二川あり、船^(賃)ちん拾貳文ツ、

五拾丁道也

一、春日野迄 壹り

是方段々間村々ニ泊り屋有

一、大釜村迄 三拾町

一、大畑迄 同貳り

此所宿屋多分あり

^(朱書)「休」

一、法花寺迄 拾町

西国第貳拾六^(番)はん

十一面観音 天台

寺領百廿石 法^(華)花山一乘院^(寺)

諸堂多し、能々参詣いたすべし

一、坂本迄 八町

一、^(鶉)うつら野迄 同壹り

此間青野ヶ原也、左右ニ池あり

一、^(播州)ばんじやう迄 貳拾五町

此辺青野ヶ原也

一、青野高岡迄 同壹り

此所能家あり、次ニ瀧川、船賃八文ツ、

昼方雷鳴

小雨降

四月六日泊り

一、社迄 同壹り よし ^(朱書)「〇」広屋儀兵衛

此所佐保大明神社あり、能町也

四月七日泊り

一、市原迄

下り三拾六町

一、市嶋迄

三拾町

一、三草迄

壹り

壹万石、丹羽式部様御陣屋あり

一、古市迄

貳り

一、竹田迄

拾町

一、加茂迄

壹り

一、あじま迄(味間)

壹り半

一、大森迄

拾八町

一、馬瀬迄

壹り

一、大山迄

壹り

一、才田迄

拾貳町

〔休(朱書)〕

一、坂本迄

拾八町

〔休(朱書)〕

一、追入迄

壹り半

天氣よし

一、清水迄

登り拾八町

此間追入坂登り八町、下り四拾町、四

四月八日泊り

〔休(朱書)〕

一〇松本や助右衛門

西国第貳拾五(番)はん

拾八(曲)まかり

一、湯口迄

壹り半

千手観音御嶽山清水寺

一、こくりう迄(国領)

壹り半

一、福知山迄

拾八町

奥院へ少々登り十一面観音御立あり、

一、大たり迄(多利)

壹り

三万五千石

朽木雲太郎様御城あり

摂津・播摩(巻)・丹波三ヶ国境あり

一、小たり迄(多利)

八町

能町也、此所(河守)かう森迄船有、川船二

寒風吹

〔休(朱書)〕一〇松屋伝右衛門

一、小たり迄(多利)

八町

て来てよし、我等八乗合無之二付陸行

申候

此間登り下り難所也、峠方大江山見へ
る也

〔宋書〕

一、きれ戸迄

拾八町

一、あます迄〔阿良須カ〕

壹り半

文殊菩薩御立あり

此所〔鬼ヶケ〕おにか城見へる也

一、がんど〔岩戸カ〕う茶屋迄

壹り

二重之塔あり、龍宮方上り候〔香妒〕かうろ・
わに〔鰯〕口あり、門前〔才覚田樂〕二茶屋あり、爰二名物
ち〔智慧〕いの餅・才学〔思案〕てんかく・し〔天橋立〕わん酒あ
り、夫方又船二乗り、あまのはし〔際〕だて
の〔際〕きわを乗り申候、船賃之外六文ツ、
出し申候、橋建并木三拾六町、橋建大
明神御立あり、扱てく景地也、此嶋
をしやくしやうがしまと云也、嶋の元
を〔江尻〕いじり村と云、い尻村〔江〕にて船方上り、
此所〔受カ〕豊毛太神宮御社あり
弥陀堂あり、夫方坂二掛り

次二丹波・丹後国境あり

此間者下り計也

一、公庄迄〔ケ〕

壹り

よし

四月九日泊り

一、かう森迄〔河守〕

拾八町

一、宮津迄

壹り半

〔宋書〕
一〇「北野屋嘉兵衛

〔宋書〕

七万石

一、外宮迄

拾町

松平伯耆守様御城あり

此所外宮太神宮社あり、并未社あり、

能町也、紗綾・縮緬多分織所也

かけ越行也

爰成相寺迄船あり、乗りてよし、小
船〔艘〕壹双〔艘〕式百文ツ、也、入海〔二〕て心安し、

一、内宮迄

式拾五町

船八上下也、町浦方乗り出候、行道筋
二名所あり、大師行返り石龍燈之松

此所内宮太神宮御立あり、并八拾末社、

夫方天の岩戸へかけ越しなり、難所也

都こへしき片枝之松あり、何れも左方
陸二あり

一、中ノ茶屋迄

壹り半

一、成相寺迄

登り拾八町

一、成相麓迄

海上三拾六町

此処茶屋あり、爰登道筋〔橋立〕にて、天
のは〔橋立〕したて、大江山見〔景〕はらしけい地也

西国第貳拾八(番)はん

本尊正観音

是方又宮津迄歸る也

四月十日 (宋書)「〇」井筒屋平助

一、中山迄 壹り半

此間大船峠と言坂あり

下り

一、三ツ松迄 (三松) 五拾町

一、高浜迄 四拾町

(宋書)「休」

一、宮津迄 歸り貳り

此間少々坂あり

一、田辺迄 貳り
三万五千石 牧野佐渡守様御城あり

一、和田村迄 拾八町

(小)此所方尾浜迄四り之間船あり、乗りてよし、内海にて心安く

一、郡田迄 (樂) 壹り

此所る松尾寺迄船あり、不可乘、(荒)あら

海にて殊之外あしく、此間少々之坂七

ツあり、(安寿)あんしゆ姫・(厨子)つし王丸芝かり

候処あり、次二不動松、三庄太夫首引

之松あり

一、市場迄 貳り半

(宋書)「休」

一、松尾迄 貳り

御前坂拾貳町登り

西国第貳拾九(番)はん

馬頭観音

一、由良迄 壹り半

此所方貳拾町計行、三庄太夫屋敷跡あり、次中山川、船賃四文ツ、

丹後 国堺也、是方かけ越

若狭 此間道あしく

此間かも峠、次瀬坂とて貳ツ坂あり
(小)尾浜方壹町計前二八百姫社・拾貳社・
権現社あり、神主之宅ニ宝物数々あり、
爰にて二月堂之守出る也、其外いろ
く守出る也、夫方御城下へかけぬけ
也

五十町道也

よし

一、尾浜迄

三り

一、山中迄

壹り

千手観音

拾貳万石

酒井修理太夫様御城あり

此所下ニ御番所あり、笠取通るへし、
此間も高石ニて道あしく

弁才(財)神社、宝物数々あり

能町也

一、保坂迄

壹り

夫方船ニ乗り候処、風あしく成り、長
浜へ船不向、竹生嶋之東之方、今西村
江上り泊り、夫方陸ヲ行申候

〔此間ニて休〕
(朱書)

同

此間道あしく

一、今西村迄

海上壹り半計

一、おにう迄
(遠敷)

壹り

一、おい分迄
(追)

三拾町

昼方小雨降

〔〇〕百姓屋
(朱書)

同

一、ひかさ迄
(日笠)

壹り

一、うみ迄
(生見)

六町

四月十三日泊り

与右衛門

終日雨降

〔〇〕木綿屋佐重郎
(朱書)

四月十三日若昼着、直船乗ル

四月十二日泊り

同

一、今津迄

貳り八町

〔休〕
(朱書)

一、熊河迄
(川)

貳り

此所泊り・休共町入口よし、爰方竹生

一、長浜迄

三り

貳拾五町

此所能町也、町出口ニ御番所あり、笠

嶋・長浜迄船ニ乗る所也、船賃七拾五
文ツ、口銭拾八文ツ、也、我等者壹
人九拾文ツ、ニて乗申候

此間観音坂あり、登り八町

取通るべし

一、春照迄

三り

次二七・八町行、若狭・近江国境あり

此辺伊吹山之麓を通る也

一、竹生嶋迄

船道三り

是方三十六町

西国第三拾番

宝巖寺

一、藤川迄

壹り半

此間近江・美濃国堺あり

雲り小雨降

四月十四日泊り「〇」江戸屋五郎右衛門

よし

一、関ヶ原迄

壹り半

此所中仙道也

一、樽井迄

壹り半

此町出て右ハ東海道、左ハ中仙道也、

谷汲道也、少々行青野ヶ原へ出

右之方ニ熊坂長半物見之松、次ニあし(墓)はかといふ在所入口ニ照(手)て姫の清水あり、そはに松あり、爰ニ小寺あり、爰

ニ照(手)て姫御影あり、庭ニ源氏よし竹義朝公御ひやう所あり

「休」(朱書)

一、赤坂迄

壹り半

此宿入口(虚空)をこくう蔵山道案内石あり、

是を登りてよし、かけ越ニ谷汲道へ出

る也、(虚空)こくう蔵菩薩御立あり、岩山ニ

てけい山也(景)

次ニくせ川、船賃拾六文ツ、

次ニくせ川、

五拾町道

一、白石迄

三り

此間いひ坂、登り下り九町

次ニ念仏池あり

「休」(朱書)

同

一、谷汲迄

貳り

西国第三拾三はん(番)

十一面観音 谷汲寺

札納(壇)拵(成)ニてくわへたん廻り致所也、御

堂之内江入、十念ヲ請る也、此料十三

文ツ、おいすり納代三拾三文

一、長瀬迄

壹り

此所泊り屋なし、長瀬川舟ちん拾六文

ツ、

天気よし

四月十五日泊

「〇」武蔵や佐兵衛

一、山口村迄

壹り

爰も宿屋なし、百姓屋へ泊り申候

五拾町道

一、あミ(阿弥陀)たい寺迄

壹り拾町

次ニ川あり、船賃拾貳文ツ、

次ニ川あり、船ちん(賃)貳拾文ツ、

「休」(朱書)

同

一、きふ迄(岐阜)

貳り貳拾町

此所能町也、かし(鍛冶屋)や多分あり

一、加納迄

拾八町

三万八千石

長井山城守様御城あり

是乃中仙道也

次二青野ヶ原也

此間二壱り拾一町除地あり

本道

一、^(鶯沼)うぬま迄

四り八町

五り拾九丁あり

此町入口左方尾州様御家老成瀬隼人正

様御城あり

次二木曾川之端を行、^(鏡)かゝ見岩、観音

岩屋之内二御立あり、景地也

よし

四月十六日泊り ^(宋書)「〇」坂本や庄助

一、太田迄

式り

町出て木曾川、船賃三拾式文ツ、天

気あしき時者川越て泊るへし

一、今渡迄

八町

此処間宿なり

一、^(伏見)ふしみ迄

式り

^(宋書)「休」

一、^(御高)みたけ迄

壱り五町

此宿出て拾八町行、江尻村二立石あり、

爰右へ入、月吉道也、細道にてあし

く

五拾町道也

一、月吉迄

三り余

此所月休石と立石有り、此立石の浦之^(裏)

山二月の御下りあり、我等拾申候、社

ハなし

同

一、日吉社迄

壱り余

此所至て小社なり、御下りハなし、何

れ茂月輪日輪之御休足所にて名所也

爰右細久手・大久手^(湫)之間真中程へ出ル

也、本道迄拾町計

よし

四月十七日泊り

^(宋書)「〇」^(伊勢)いせ屋半七

よし

一、^(湫)大久手迄

壱り余

此間三り程行、左方山上二西行之塚あ

り、次二伊勢山田へ近道あり、此間を

木曾の十三峠といふ也、大井入口二大

井川板はし也^(橋)

一、大井迄

三り拾八町

此間中^(津)つ川はし也^(橋)

^(宋書)「休」

一、中津迄

式り半

此町家作りよし

一、落合迄

壱り五町

町出て猿はし^(橋)あり、此川美濃・信濃国

境也、次二拾石峠登りて薬師女来御立
あり

此間寄り九丁行、立町と云間宿あり

一、宮越迄 寄り半

一、馬(鹿)ごめ迄 寄り五町

一、荻原迄 寄り九町

此間左方木曾殿城跡あり

此間山道にて道あしく

爰六町行、右之方小野瀧あり、高さ
五丈、爰二茶屋あり、是を拾町行、寝
覚之茶屋名物そばあり、此茶屋中を寄
町左方臨川寺といふ寺あり、此寺の西
ノ方浦嶋太郎古跡あり、立寄一見して
よし

一、やぶ原迄 寄り
〔休〕
此所者櫛多分あり、調べてよし

天気よし 御本陣

夜二入大雷雨 〔○〕嶋崎与治右衛門

四月十八日泊り よし

一、上ヶ松迄 寄り
此間木曾のかけはし名所也、今ハはし
無し

一、奈良井迄 寄り半
此所重箱・硯(蓋)ふた多分有、調べてよし、
拾八町行、平沢と云村あり、爰二も多
分あり

一、津馬籠迄 寄り

此間左方木曾殿城跡あり

爰を拾三里木曾川二付て行

一、上ヶ松迄 寄り

一、奈良井迄 寄り半

一、三との迄 寄り半

小雨降

一、にい川迄 寄り半
此所木曾名物そばあり、随分あんばい
よし、町出て御番所あり、笠取通るべ
し

一、野尻迄 寄り半

此間猿はしあり

昼方よし 〔○〕
四月十九日泊り 亀子孫太夫吉

一、にい川迄 寄り半

一、福嶋迄 寄り半
此処能町也、樽・曲物名物あり、町出
て御番所あり、笠取通べし

〔休〕

一、須原迄 寄り

て御番所あり、笠取通べし

一、にい川迄 寄り半

よし
〔〇〕三沢屋太吉

四月廿日泊り
大あしく

一、本山迄
貳り

一、瀬場迄〔洗馬〕
壹り

此所右ハ中仙道、左ハ善光寺道、爰〔厩〕方
追分迄荷物廻シ問屋あれ共必無用也

一、郷原迄
壹り半

此辺松本平といふ也

一、村井迄
壹り半

一、出川迄
壹り

〔休〕〔宋書〕

一、松本迄
拾貳町

七万石、松平丹波守様御城あり、能町
也、長サ壹り余町続と也、爰〔厩〕上田迄

荷物廻シ問屋あり、廻してよし、手拭
地買候ハ、此町にて買へし、下直也、
随分直段おして買へし

一、岡田迄
壹り拾貳町

此間〔仇〕あた坂登り下り、壹り余也

一、かり屋原迄〔刈谷〕
壹り廿八丁

一、会田迄
壹り八町

此間立峠、登り三拾町、下り壹り六町、
峠〔戸〕隠山見へる也

一、御手洗橋迄〔乱カ〕
貳り

此所問宿なり、次ニ小豆坂、登り下り
八町計

一、西條迄〔桑〕
三拾町

此所も問宿成り、泊り屋多分あり

よし
〔〇〕御本陳〔種〕

四月廿一日泊り
問屋八郎右衛門
上々吉

一、青柳迄
壹り

一、おみ迄〔麻績〕
壹り拾町

此間〔ケ馬場〕猿かばんば坂あり、登り拾八町、
下り壹り、峠ニ池あり、登り口名物柏
餅あり、下りても名物あり、爰〔姥〕うは
捨山廻り

よし

一、中原迄
間宿なり
貳り

一、桑原迄
間宿なり
拾八町

〔休〕〔宋書〕

一、稲荷山迄
拾八町

此所能町也

一、篠の井迄 忝り

善光寺江参詣仕、爰迄歸る也、上田道
ハ中程より左へ入

一、丹波嶋迄 忝り

町出て丹波川船渡あり、船賃忝人三拾
九文ツ、

天氣よし

夕方を雲り

〔^(朱書)〇〕藤屋平五郎

四月廿二日着

よし

一、善光寺迄

忝り拾貳町

義光・義輔八代位前

左ハ如来

毎朝日出ノ開帳也、かへだん廻りとて、

いん(緑)の下江入、三べん廻る也、入口ニ

て六文ツ、出又也、小札六文ツ、御

判物いたゞく二者十貳文ツ、也、御

けち(血脈)ミやくハ別当所る出る也、紙壹状

ツ、差上候而いたゞく也、本願寺宮様
よりも御けち(血脈)ミやく出ル也、是も同断

也、夫方廿三日昼方戸隠山江行申候

一、宝光院宮迄 四り

戸隠大権現御立あり

一、中院宮迄 拾貳町

右同断

一、奥院宮迄 三拾町

戸隠大権現 御立あり

九頭龍大権現

本地弁才天、夫方中隠(院)迄歸りて泊り

夕方を雲り

四月廿三日泊り 〔^(朱書)〇〕妙智院

一、中院迄 三拾町

廿四日大雨降、昼飯後ニ出立仕候

歸り

一、善光寺迄 四里十貳町

此間才川(屋)あり、丹波川共云

一、丹波嶋迄 忝り拾貳町

よし 〔^(朱書)〇〕樽屋甚右衛門

四月廿四日泊 忝り よし

一、篠野井迄 忝り

此処追分也、上田道ハ中程方左へ入

行へし、次二ちくま川(千曲)、船賃三拾貳文

ツ、此川方丹波(島)しま迄を川中嶋とい

ふなり

一、矢代(屋)迄 忝り

一、下戸倉迄 忝り半

此所能町也

一、坂木^(城)迄 壹り半

壹万五千石

牧野内膳正様御城あり

るへし、爰^(巻)を拾八町行妙儀道案内石あり、是^(巻)を右へ入細道にてあしく

一、鼠宿迄 壹り半

此所能町也、町長サ三拾町

よし

^(宋書)「休」

一、追分迄 三り拾八町

四月廿六日

^(宋書)「一〇」萩原権左衛門

一、上田迄 壹り半

此所中仙道・加賀道追分也

一、妙儀山迄 三り半

五万八千石

松平伊賀守様御城あり

^(宋書)「休」

此間川あり、はし^(橋)代式文ツ、

此所能町也

一、くつか^(香掛)け迄 壹り三町

一、安中迄 三り

此所八幡宮大社なり

此間川あり、はし^(橋)代八文ツ、

一、海野迄 三り

一、軽井沢迄 壹り五町

次二又^(橋)はし代八文ツ

一、田中迄 拾八町

此間^(碓氷)白井峠登り拾町

一、板鼻迄 三拾町

此間右方布引観音山之上二見へる、此

峠二熊野三社権現

此間川あり、はし^(橋)代八文ツ、

山のかみに布引之岩見へる也

白井^(碓氷)大明神

次二又^(橋)はし代八文ツ、

御本^(陣)陳

此所信濃・上野国境あり、峠を榛名山見へる也、夫を下り三り半難所あり

よし

^(宋書)「一〇」上田宇源治

一、高崎迄 三り

四月廿五日泊

よし

一、坂本迄 三り

三り

一、小諸迄

三り

此町を拾五町行、横川御関所、笠取通

一、倉ヶ野迄 壹り拾八町

此間岩鼻渡し拾文ツ、

一、新町迄 壱り式拾壱町

天気よし ^(宋書)「〇」諸井七兵衛

四月廿七日泊り よし

一、本庄迄 弐り四町

天気よし 日数百九日

四月廿八日五ツ時過着仕候

一、妻沼迄 五り

一、宿本迄 三拾町

一、丸亀 三月十二日

一、宮嶋 三月十六日

一、大社 三月廿三日

一、姫路 四月五日

一、谷汲 四月十五日

一、善光寺 四月廿二日

一、歸村 四月廿八日

以上

日数百九日

右之通日々廻国之次第相印申候、尤文字

かな違ひ等御座候へ共御推察之上、御覽

可被下候、以上

天保十一庚子年

正月九日出立

大嶋 鉄三郎

弁才^(財)村

大嶋栄左衛門

右同行四人にて相廻、何茂丈夫ニ御座候

口上

為念此所へ印置申候、我等義右之通り相

順候得とも、出雲の国江心掛ヶ候御方者

播摩名所札所共御廻り被成、其上下村方

御出船可被成候、我等共之様ニ順り候而

者四・五日之損ニ御座候間、此段印置申

候、以上

葛和田村^(葛)

日数百九日

舞原 千代松

内廿三日逗留休日

同所

道里数三十六町二積り

江利川 貞吉

海陸共

同所

八百七拾弐り二成

一、山田 正月廿八日着

一、高野 二月十四日

一、大坂 二月十七日

一、京都 二月晦日

逗留日引

残り八十六日二割

一日二十り五丁七間

式尺三寸六分三厘余

〔裏表紙〕
弁財村

大嶋栄左衛門

源正興(花押) ㄥ

(弁財 大嶋家文書一七)

三 嘉永二年(一八四九)長崎順り道中記(写)

〔表紙〕

嘉永二年己酉四月日

熊谷宿亀屋伊兵衛殿を借用写申候

長崎順り道中記

大嶋栄左衛門

清雄

周防国岩国迄者
外帳ニ委敷記申候

防州岩国錦帯橋

次ニ小所ト云所塩場也

次ニ八代嶋見ゆる、小松嶋、家数三千

軒ト云

此所長者三軒あり

磯部 矢田部 阿部

是ヲ三部之長者ト云、防州之内也

又三り程行、仙場ヶ嶽ト云高山有

八ツ代之脇ニ大畑ケト云瀬戸有、日本

三ツの瀬戸也、夫方少々行テ

一、室津 上の関 宮嶋方 十八里

海上

一、シヒレ嶋江 同 八・九り位

此処を左り之方へ豊前国彦山かすかに
見ゆる也

一、中関 此処ニ而者 女郎ヲおごと云

次ニ山口ト云所ニ吉岡一味斎之墓有

一、長府

右之方ニかんしゆまんしゆの嶋有、左

りハ豊前へ崎之鼻、此所ニ瀬戸有

夫方めかりの明神、平家一盃水、此水

初メ一盃ハ真水也、二度めニ吞ハ塩水

也

高社八幡ト云有、神功皇后甲ヲ祭候ト也、

此処ハ下の関ト細大寺ト向合、細大寺

ハ安徳天王之菩提所也、平家一門之墓
有、此脇向之方段之浦ト云

夫方少々行、岸柳嶋、宮本武蔵仕合の
場所也

夫方行テ明石与治兵衛の墓あり

宮本武蔵之子孫、小倉城主御藩中ニ有、
高二千百、宮本左織ト云ナリ

一、下の関

此処取つきニて平家一門之墓見ゆる
也、能町也、家数五千軒

遊女町・稲荷町、大坂屋・ともや、油

屋嶋八、是等何れも大見世也、平家落

人時分の家ハともやト也

豊前国

一、内裡

此処上り口ニ番所有、手形入用式百文
ニて頼、夫を小倉迄一り半浜辺通り、
左りハ高山、右ハ大海、波甚(荒)タあらし
小倉入口大見付あり

一、小倉町

小笠原様御城あり、能町也
此町出て一り半程行

豊前小倉領 国堺立石あり
筑前国

一、黒崎

上の原村・石坂町・木屋野(瀬)出口ニ川有
八文渡し

一、植木宿

此処を二り程東南ニ当り洩丸と云処を
もゆる石出ル也、諸国へ舟ニて積出ス

也

一、長谷宿(永)

此処紙漉多分有、少々行猿田峠あり

一、赤間

黒崎・赤間之間ニ孝子正助の碑有
此間春町ト云所、松名木あり

一、疇町(唯)

一、青柳

一、目白(和)

此処通り之内井戸有、太閤井戸ト云

一、香椎宮 神功皇后ヲ祭ル
此処左右ニ大ソテツ(蘇鉄)有、下り坂下ニ大

杉老木有、夫を在へ出、少々山越致本
道松原江出る

一、名嶋 金吾中納言秀秋の城跡也

小高き山也、本丸之跡弁才天社有、平
地一丁四方有之、廻りハかま(構)へ堀ト見
へて巾十間余之堀也、山高サ壹丁計、
三方海也、次ニ帆杭石あり、廻り八尺・

長六尺、式本、五尺・式尺、都合八本
ニ成テ有

神功皇后三漢を歸り、櫓之帆杭を捨置
ト也、次舟渡しし老人五文ツ、

一、箱崎八幡宮(宮)

此処大社也、一鳥居・二鳥居、外ニ品々
見処多分有

一、博多 此処銀壹匁六拾文也

此処能町也、家数一万軒、博多織名物
ナリ、織屋ト云テ拾軒大家あり

一、ざつ(雑餉隈)所の熊ト云町、又三ツ木ト云町

一、天拝山

木々繁り之山、格別高山ニ而ハ無之、
近辺之行場ト云無程

一、^(宇美)産八幡宮

山内広し、楠大木有、左り方十三から
い、右の方十一からい、其外楠大木多
分あり、右の方二

めいの浜、次二姪乃浜、家数式百軒、
住吉大明神社あり、出口二長二十間之
石橋あり
姪塩浜塩焼多分御座候

一、太宰府天満宮 坊数五十六軒

一鳥居、二鳥居、三鳥居、太鼓橋式ツ、
二重塔、水茶屋多分あり、左右石灯籠
多分、山門入テ石橋

留主職座主壹軒○誕生寺

留主職庭二名石多分有、半分木、半分
石あり、入口右ハ仲哀天皇・神功皇后
左り裏産水有、参詣仕舞、博多江帰り
博多出立、大橋式ツ有、長サ五十間ニ
六十間也

一、^(生)いきの松原

長十町余り之能町也、通り中程二左へ
少々入さ^(逆)かさ松有之、夫方出海辺通り
白砂也

一、御本社 右角 飛梅
左角 助梅

南向四方廻廊、額多分御座候、其外筆
紙二難及候、夫方壱り半行坂有、登り
五十丁

一、福岡

城主黒田筑前守様
能町也、能々見物致スへし

一、^(垂)長島山

高山にて見はらし無程

一、^(龍門)かまど山^(金)空満寺 山の上廿五坊あ
り

^(壱)登り難所也、筑前第一高山、海手ヲ見
はらし、景宜敷、夫方下り

一、^(金)からくミ川、砂川ニて飛石也、夫方
少々行、又大川有

一、^(金)諸実川、板橋ニて長七十五間、此処

一、桑原 桜井入口、桜井峠有り、玄
^(界)海灘、此浜古今荒海也

一、芥屋村^(ヲノド)大門岩屋

此岩屋前ハ大海、後ハ芥屋村、古今無
双之岩屋なり、不殘黒鉄之如し、中一
尺角位、長二丈ハ三丈位、立並段々寄
掛り居る也、穴高十丈位、奥行三十間
位、間口六十間位、奥の広き五・六間、
水中壺丈五・六尺、清水ニテそこ迄能
見ゆる也

外ニ又壺尺角之岩を積し如く五・六丈

高二而不殘尺角位ト見へ申候、舟ニ

て一見致し、芥屋村へ歸る

一、^(岐志)きし村

花掛大明神社あり

此処ハ唐津迄船を頼、海上八り、賃壺

分一朱也、大坂迄百八十里ト云、無程

筑前・肥前之国堺也、海中ニ高嶋・大

嶋・飛嶋ト云有

肥前国松浦郡

一、唐津 城主小笠原主殿守様

当城ハ朝鮮陣之時、太閤秀吉為在陳築^(陣)
也、入口ニ船番所あり、夫ハ城下迄十
町計の渡場有、舟賃六文ツ、
御城海中へ築出し、小やぐら^(櫓)十四・五
相見へ、景地也

一、^(領中振)ひれふる山

此処鏡大明神社有、裏ニ寺沢志摩守様
御墓有り

一、呼子 此処遊女町也、沖ニかべ嶋^(加部)

ト云有、此山に松浦佐夜姫の石アリ、
人間のふしたる如し、松浦川

一、端嶋 一、徳水峠有、次ニ又駒鳴峠

有

一、駒鳴村 大川野村 桃川村 此所領

分堺也

一、本部 川古村

一、^(武雄)竹尾 湯治場也

能処也、町裏岩之高山有、其脇ハ湯わ
き出る也、湯場番所有、木戸口ニテ湯
錢ヲ取、三文湯・五文湯・十文湯有之
夫ハ淵の尾峠下りテ右へ十丁計入、弓
の山、此処瀬戸物ヲ焼所、見物してよ
し

一、嬉野

此処も入湯場有、茶名物ニテ沢山出来
る也、夫ハ平野俵坂下り番所有、次ニ
領分堺立石アリ

一、二の瀬村ニ楠大木あり、廻り十八広
ト也

一、^(彼杵)その木 入口御陳屋あり

此処ハ長崎之舟出ル、時津迄十り、乗

合次第、百廿四文を百五十文位也

一、時津江上り、此処家数百軒計、魚安し

一、浦上

此辺坂多シ、石にて段付候坂多分にて
午馬難義也(牛)

夫々少々行、○中野 ○平野、皆町続
なり、石坂数知れず

一、長崎

引地町

紙屋藤吉泊り

当所之義者、絵図面御座候

唐船見物いたし、夫々鬼界嶋へ渡る

△鬼界嶋 此嶋長耆り半・巾耆り位、

家七・八十軒

小寺有

俊寛僧都之墓あり、脇ニ碑文有

岩之千疊敷一見いたし、浜辺江出る

○丸山寄合町

遊女町也

花月楼
引田屋

長崎町々ニ丸立石・休足石と彫付あり

又橋ハ多分目鏡橋也

石にて組立候、大石橋也



町数七拾八丁、阿蘭陀屋敷ハ海手ニ
有唐人屋敷ハ元か(本籠)こ町の脇也

△いち林ト云処江参り、此処亀山ト云、

瀬戸物出来る

町々目下二見へ景宜し

△東朋山興福寺

禅宗也

門入テ右之方本堂、庭古今きれい町

家を目下二見へ、庭不残敷石也

寄合町之脇ニ

大徳寺 唐人の祈願所

門入て石坂上り、左へ上り、右へ上

り、三本立之大灯笼、石之(灯笼)とうろう

の脇ニ実風之門あり

唐人之祈願所故拜見ならず、(庫裏)くり之

脇ニ

梅香崎天神

△螺堂

此堂の下らん(欄間)ま杭通りニ

弘法大師一代の絵、極(彩)さい色にて古

今見事也、前ニ唐門有

△諏訪大明神

一の鳥居唐金也、二鳥居石也、三鳥

居石、左右石灯笼あり、其外色々筆

紙難尽、次ニ唐人之寺

△聖福寺

禅宗也

門ニ布袋之大像有り

△松月院ト云アリ、

此処四方見はらし(晴)

景宜敷御座候

△福濟寺

入口石坂上り、山門入テ石坂上り石

唐門、又廻廊門、外ニ諸堂数々あり

龜山并丸山の脇ニ宗福寺ト云大寺あり

り

△宗福寺(崇)

此処堂社多し、唐人之普請にて美

れいなる事、筆紙ニ難申尽(麗)

長崎出立にて南の方ニ当り、高山式

ツ越て行

四方諸国見はらし、野馬所々ニ居申候(晴)

長岡内膳様御屋敷有

一、嶋原 松平主殿守様御城下也

町入口ニ江東寺ト云有、寺中ニ

板倉内膳様石碑アリ

一、茂木 此間山越ニ而道あしく

此処方肥後熊本ハ卯辰之方ニ当り、海

上七リト云共、十里余も有之由、順風

ニて肥後国大嶋へ上り、此処より壱リ

行

一、山鹿宿

金浜ト云所江上り

入湯場也、能町也、家千軒也、湯場も

一、高橋

宜敷候、夫を壱り行、目鏡(橋)はし有(眼)

一、金浜 此処方嶋原城下迄七リ也

此辺唐からすト云鳥居る、少し小ふり

三り行て

ニて背中ニ蛇の目形有、朝鮮を清正ニ

付来ト云

一、山鹿手水 鍋田村 熊本札辻方 七リト立石有

一、温泉山小地獄

此間坂あり、腹切坂ト云

此処湯わき出る入湯場也、湯者濁り居

一、清正公大神祇

る

入口ニ下馬札、石ニて建て有

西南ニ当り地獄廻りとゆふ有、古今珍

諸堂多し、能々拝スへし

敷候

一、小永宿 家数四・五十軒(肥猪)

夫を行て芝山の高き所有、凡四・五里

一、槇崎村

一、南関

坂あり、上り下り五ツ

入口二目鏡(堰)はし有、御関所あり、手形無之候而者通し不申、ぬけ道有

一、湯屋村(谷)

柳川出立式り半行、○十間橋、又半り行て、○小犬塚村、次ニ○吹上村、次ニ

一、高良山
参詣所、見物所多あり
清水観世音を左り方登りて

瀬の下

一、(芭蕉)は七を翁靈神

一、青の町

一、水天宮

尼御前

脇ニ大碑有

町出て二・三丁行、国堺也
夫方道筋杉並木也

入口茶や二荷物預てよし、参詣して戻る也、是より段々町続也

此所別ニ丸き山也、夫方下りて地藏尊有、灌之脇へ出る、夫方段々登り、高良山大門通り也

筑後国

一、久留米

一、柳川 城主立花左近将監様

城主有馬玄番頭様(巻)

一、六丁目大岩屋有、七丁目地藏堂、左

御領分米にて万事売買通用、手拭壺筋米三升、扇子壺本八合ト云、壺升四十文ニ当る

能町也、段々見物致し、出口ニ大社有

一、八丁目堂有、十二丁目座主、堂塔大

一、柳川城外新宮

大社ニて境内諸堂多、池其外見物所多分あり

物ニて、きれいな
夫方登り道也、名所多し

大社なり、参詣スへし

一、府中

一、高良山一音院

一、住吉大明神

此処高良山江登り難所也

御本社

其外町々宜敷出口く大見付有

参詣して下り、十五丁目石の五十塔有

一、善道寺^(導)

此処諸堂多し、はせを^(芭蕉)の碑有

一、楨村

此辺すつぽん安し

一、吉井

吉井出て熊の川上、夫を行て国堺有、

此間谷川渡る事二十四度也、道甚あし

一、金の鳥居^(銅)

爰六十丁程登り左りへ入、少し町家有

^(英脱)彦山中段町家あり

一、大堂

石手洗水石大サ式間四面也

三十四丁目、三丈計、鉄のくさり^(鎖)にて

登る

三十五丁目、弁才天、四十三丁目鬼神堂有

五十六丁目、行者堂有
六十二丁目

一、本堂^(英脱) 彦山

豊前・豊後・肥前三ヶ国持合と也
参詣いたし、帰り道

一、豊前坊

獅々の岩屋・石玉垣・小堂・拝殿、其外之見処多分あり

此処を芥屋村六助旧跡迄式り半也、今ハ墓所計成、丑寅ノ方ニ当る也

一、蔵持山・求菩提山・犬ヶ嶽^(岳)

此三山何しも高山也、此山之脇を段々下り道筋難所也、景地八ヶ所有、夫在所へ出る

一、河内村・天神村・草元村^(本)

豊前坊を草元村迄四り半下り道、谷川段々重り大川となりて古今之景地有、川中百二・三十間之川、岩を岩へ土橋ヲ掛ケ、其数多分ニして珍しき風景也

一、吉野村・平野村^(小脱)・宇曾村

此辺左右高山中二川、彦山^(英脱)の谷川段々落重り、大川ニ成り

一、仲摩村^(中)・宮^(國)その村

取付左右の岩石高山川中迄出張候故、道なく岩山江穴を切抜往來いたす也、老村ニ式ヶ所切通し有、古今珍らしき往來也

一、ことも村・宮番堀村舟渡し有、八文

ツ、

一、落合村・跡田村

此辺道あしく

豊前国下毛郡跡田村

一、羅漢寺

此処登る道々名所多く参詣シテ、登り

口之茶屋迄歸り

此辺山坂ニテ難所也

一、下あ八村^(麻生)

一、四日市

次二村あり、大川有、橋ニテ渡る

一、宇佐村入口立石有

一の鳥居入テ谷川の流ニ橋有

呉橋中二間、長サ十三間、羽^(破風)ふ屋根有

一、宇佐八幡

参詣いたし四日市迄歸る、夫方立出中

津へ四り、道あしく

一、中津

奥平大膳太夫様御城有

能町也、見物してよし

中津方一り西之方^(舟)うの嶋ト云所方舟ニ

乗、芸州花の御手洗迄六人ニテ

船賃三分式朱也

飯料七貫式百文

是方末者外帳ニ有之候

(弁財 大嶋家文書一六)

熊谷市史編さん関係者一覧（平成二八年度・敬称略）

熊谷市史編さん委員会委員

委員 長 飯塚 好（民俗研究者）

副委員長 柿沼 幹夫（国土舘大学非常勤講師）

委員 閑野 高広（熊谷市議会議員）

松本 富男（熊谷市議会議員）

小野美代子（熊谷市文化財保護審議会委員）

北村 行遠（立正大学教授）

宮瀧 交二（大東文化大学教授）

村田 安穂（早稲田大学名誉教授）

平井加余子（熊谷市郷土文化会）

細田 茂（熊谷市自治会連合会）

鶴田 幸子（公募委員）

事務局

熊谷市教育委員会

教 育 長

教 育 次 長

社会教育課長

市史編さん室

担当副参事

副課長兼室長

主 査

嘱 託

臨時職員

野原 晃

米澤ひろみ

山崎 実

森田 安彦

新井 端

蛭間 健悟

栗原 健一

小林久美子

水品 洋介

井出英美子

高井 直美

滝沢きよ子

時田 史子

松葉 弘美

持田 郁子

望月 潤一

熊谷市史編さん近世専門部会

専門委員 北村 行遠

専門調査員 石山 秀和

齊藤 司

高橋 伸拓

細野健太郎

特別調査員 藤井 明広

頁・段	訪問地	現在地	寺社・名所・名物等
90 下	吉野村 平小野村 宇曾村	大分県中津市	英彦山よりの谷川、大川に
90 下	中摩村 宮園村	大分県中津市	道なく岩山へ穴を切り抜き往来、切通し、古今珍しい往来
90 下	ことも村 宮番堀村		舟渡
90 下	落合村 跡田村	大分県中津市	
91 上	羅漢寺	大分県中津市	登る道々名所多い、口之茶屋
91 上	下麻生村	大分県宇佐市	
91 上	四日市	大分県宇佐市	
91 上	宇佐村	大分県宇佐市	立石、一の鳥居、呉橋、破風屋根
91 上	宇佐八幡	大分県宇佐市	
91 中	中津	大分県中津市	奥平大膳太夫様御城、宇の嶋より舟に乗る、芸州花の御手洗まで

頁・段	訪問地	現在地	寺社・名所・名物等
87 上	鬼界ヶ島	長崎県長崎市	家数 70～80 軒、小寺、俊寛僧都の墓、岩の千畳敷
87 中	丸山寄合町	長崎県長崎市	花月楼、遊女町、引田屋、長崎町々に丸立石・休足石、橋は眼鏡橋、町数 78、阿蘭陀屋敷は海手、唐人屋敷は本籠町の脇
87 中	伊良林	長崎県長崎市	亀山、瀬戸物出来る
87 中	東朋山興福寺	長崎県長崎市	禅宗、本堂、庭敷石
87 中	大徳寺	長崎県長崎市	唐人の祈願所、三本立ての大灯籠、拝見ならず
87 下	梅香崎天神	長崎県長崎市	
87 下	螺堂	長崎県長崎市	弘法大師一代の絵、唐門
87 下	諏訪大明神	長崎県長崎市	一の鳥居は唐金、二の鳥居は石、三の鳥居は石、左右に灯籠
87 下	聖福寺	長崎県長崎市	唐人の寺、禅宗、門に布袋の大像
87 下	松月院	長崎県長崎市	四方見晴らし
87 下	福濟寺	長崎県長崎市	山門、石唐門、廻廊門、諸堂数々
87 下	崇福寺	長崎県長崎市	亀山・丸山の脇、堂社多い、唐門の普請美麗
88 上	茂木	長崎県長崎市	
88 上	阿波		
88 上	金浜	長崎県雲仙市	
88 上	温泉山小地獄	長崎県雲仙市	入湯場(濁り湯)、地獄廻り、野馬
88 中	島原	長崎県島原市	松平主殿守様御城下、江東寺、板倉内膳石碑
88 中	高橋		唐がらすという鳥いる、朝鮮より清正についてきたという
88 中	清正公大神祇	熊本県熊本市	下馬札、諸堂多い
88 中	檳崎村	熊本県熊本市	長岡内膳屋敷
88 下	熊本	熊本県熊本市	城主細川越中守様
88 下	植木宿	熊本県熊本市	味取新町宿、広町
88 下	山鹿宿	熊本県山鹿市	入湯場、家 1000 軒、眼鏡橋
88 下	山鹿手水	熊本県山鹿市	熊本札辻より 7 里という立石、腹切坂
88 下	肥猪宿	熊本県南関町	家数 40～50 軒
88 下	南関	熊本県南関町	眼鏡橋、関所
89 上	湯谷村	熊本県南関町	
89 上	青の町		国境、杉並木
89 上	柳川	福岡県柳川市	城主立花左近将監様
89 上	柳川城外新宮	福岡県柳川市	大社
89 上	住吉大明神	福岡県柳川市	大見付
89 中	水天宮	福岡県久留米市	尼御前、茶屋
89 中	久留米	福岡県久留米市	城主有馬玄蕃頭様、大社
89 中	五穀神	福岡県久留米市	大社、境内諸堂多い、見物所多い
89 中	府中	福岡県久留米市	
89 下	高良山	福岡県久留米市	参詣所、見物所多い、清水観世音
89 下	芭蕉翁霊神	福岡県久留米市	大碑、地藏尊、高良山大門通り
89 下	大岩屋	福岡県久留米市	6 丁目
89 下	地藏堂	福岡県久留米市	7 丁目
89 下	堂	福岡県久留米市	8 丁目
89 下	座主堂塔	福岡県久留米市	11 丁目、名所多い
89 下	高良山一音院	福岡県久留米市	本社、15 丁目に石の五重塔
90 上	善導寺	福岡県久留米市	諸堂多い、芭蕉の碑
90 上	檳村	福岡県	すっぽん安い
90 上	吉井	福岡県うきは市	吉井出て熊の川上、国境
90 上	銅の鳥居	福岡県添田町	少し町家、英彦山中段町家
90 上	大堂	福岡県添田町	石手洗、水石、弁才天、鬼神堂、行者堂
90 中	本堂英彦山	福岡県添田町	豊前・豊後・肥前 3 カ国持合い
90 中	豊前坊	福岡県添田町	獅子の岩屋、石玉垣、小堂、拝殿、その他見所多い、毛谷村六助旧跡
90 中	蔵持山 求菩提山 犬ヶ岳	福岡県みやこ町・豊前市	いずれも高山、景地 8 カ所
90 下	河内村 天神村 草本村	大分県中津市	古今の景地、岩から岩へ土橋多い、珍しい風景

三 嘉永2年「長崎順り道中記」(写)

頁・段	訪問地	現在地	寺社・名所・名物等
83上	岩国	山口県岩国市	錦帯橋、塩場、長者3軒、仙場ヶ嶽、大畑ヶ(日本三瀬戸)
83中	室津	山口県上関町	
83中	シヒレ(マ マ)嶋	山口県	豊前国英彦山かすかに見える
83中	中関	山口県防府市	山口という所に吉岡一味斎の墓
83中	長府	山口県下関市	干珠満珠の島、和布刈の明神、平家一盃水
83下	高社八幡	山口県下関市	壇ノ浦、巖流島、宮本武蔵仕合の場所、明石と治兵衛の墓、宮本武蔵の子孫宮本左織(小倉藩土2100石)
83下	下関	山口県下関市	平家一門之墓
84上	内裡	福岡県北九州市	番所、小倉入口、大見付
84上	小倉町	福岡県北九州市	小笠原様御城、豊前小倉領・筑前国境立石
84上	黒崎	福岡県北九州市	
84上	植木宿	福岡県直方市	湊丸という所に燃える石出る
84中	永谷宿	福岡県鞍手町	紙漉多い、猿田峠
84中	赤間	福岡県宗像市	黒崎・赤間の間に孝子正助の碑
84中	畦町	福岡県福津市	
84中	青柳	福岡県古賀市	
84中	和白	福岡県福岡市	太閤井戸
84中	香椎宮	福岡県福岡市	
84下	名島	福岡県福岡市	金吾中納言秀秋の城跡、本丸跡に弁財天社、帆杭石
84下	筥崎八幡宮	福岡県福岡市	大社、一鳥居、二鳥居、見所多い
84下	博多	福岡県福岡市	家数1万軒、名物博多織、織屋という10軒の大家
84下	雑餉隈	福岡県大野城市 ・福岡市	
84下	三ツ木	福岡県大野城市	
85上	天拝山	福岡県筑紫野市	
85上	太宰府天満宮	福岡県太宰府市	坊数56軒、一鳥居、二鳥居、三鳥居、太鼓橋2つ、二重の塔、水茶屋多い、左右に石灯籠多い、山門入って石橋
85上	御本社	福岡県太宰府市	四方廻廊、額多い
85上	竈門山宝満寺	福岡県太宰府市	山の上25坊、筑前第一の高山
85中	宇美八幡宮	福岡県宇美町	留守職・座主1軒誕生寺、留守職庭に名石多い、仲哀天皇・神功皇后産水
85中	福岡	福岡県福岡市	城主黒田筑前守様
85中	金屑川	福岡県福岡市	砂川、飛石
85中	室見川	福岡県福岡市	板橋、姪浜家数200軒、住吉大明神社、石橋、姪塩浜塩焼多い
85下	生の松原	福岡県福岡市	長さ10町余、白砂
85下	長垂山	福岡県福岡市	高山
85下	今宿	福岡県福岡市	2ヵ所町家
85下	桑原	福岡県福岡市	桜井峠、玄界灘(荒海)
85下	芥屋村大門 岩屋	福岡県糸島市	古今無双の岩屋、残らず黒鉄のごとし(玄武岩・柱状節理)、舟にて一見
86上	岐志村	福岡県糸島市	花掛大明神社、筑前・肥前国境、高嶋、大嶋、飛嶋
86上	唐津	佐賀県唐津市	城主小笠原主殿守様、朝鮮出兵の時に太閤秀吉在陣、船番所、小櫓
86中	領巾振山	佐賀県唐津市	鏡大明神社、寺沢志摩守様の墓
86中	呼子	佐賀県唐津市	加部島、松浦佐用姫の石
86中	端嶋		
86中	徳水峠		
86中	駒鳴峠	佐賀県伊万里市	
86中	駒鳴村	佐賀県伊万里市	大川野村、桃川村、この所領分境
86下	本部	佐賀県武雄市	川古村
86下	武雄	佐賀県武雄市	湯治場、湯場番所、湯銭、弓の山、瀬戸物焼く所
86下	嬉野	佐賀県嬉野市	入湯場、平野俵坂下り番所、領分境に立石
86下	二の瀬村	佐賀県有田町	
86下	彼杵	長崎県東彼杵町	陣屋、ここより長崎へ舟出る
87上	時津	長崎県時津町	家数100軒ばかり
87上	浦上	長崎県長崎市	石段多く牛馬は難義
87上	長崎	長崎県長崎市	引地町紙屋藤吉泊り、絵図面あり、唐船見物

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
77上		須原	長野県大桑村	<休>
77中		萩原	長野県上松町	小野瀧、寢覚の茶屋、臨川寺、浦島太郎古跡
77中		上松	長野県上松町	名所木曾のかけ橋(今はなし)
77中		福島	長野県木曾町	<泊> 亀子孫太夫、名物樽・曲物、御番所
77下	4/20	宮越	長野県木曾町	木曾殿城跡
77下		藪原	長野県木祖村	<休>、櫛多い、鳥居峠
77下		奈良井	長野県塩尻市	重箱・硯蓋多い、平沢村にもあり
77下		贄川	長野県塩尻市	<休>、御番所
78上		本山	長野県塩尻市	<泊> 三沢屋太吉
78上	4/21	洗馬	長野県塩尻市	右は中仙道、左は善光寺道
78上		郷原	長野県塩尻市	この辺を松本平という
78上		村井	長野県松本市	
78上		出川	長野県松本市	
78上		松本	長野県松本市	<休>、7万石松平丹波守様御城、手拭地
78中		岡田	長野県松本市	仇坂
78中		刈谷原	長野県松本市	
78中		会田	長野県松本市	峠より戸隠山見える
78中		乱橋	長野県筑北村	小豆坂
78中		西条	長野県筑北村	<泊> 御本陣問屋八郎右衛門
78下	4/22	青柳	長野県筑北村	
78下		麻績	長野県麻績村	猿ヶ馬場坂、姥捨山廻り
78下		中原	長野県千曲市	
78下		桑原	長野県千曲市	
78下		稲荷山	長野県千曲市	<休>
79上		篠ノ井	長野県長野市	
79上		丹波島	長野県長野市	丹波川船渡
79上	4/23	善光寺	長野県長野市	<泊> 藤屋平五郎、善光寺、義光・義輔八代位前、毎朝日出ノ開帳、戒壇廻り
79中		宝光院宮	長野県長野市	戸隠大権現
79中		中院宮	長野県長野市	戸隠大権現
79中		奥院宮	長野県長野市	戸隠大権現、九頭龍大権現、弁財天
79中		中院	長野県長野市	<泊> 妙智院
79下	4/24	善光寺	長野県長野市	犀川(丹波川)
79下		丹波島	長野県長野市	
79下		篠ノ井	長野県長野市	<泊> 樽屋甚右衛門、追分、千曲川、川中島
79下	4/25	屋代	長野県千曲市	
79下		下戸倉	長野県千曲市	
80上		坂城	長野県坂城町	
80上		鼠宿	長野県坂城町	
80上		上田	長野県上田市	<休>、5万8000石松平伊賀守様御城
80上		海野	長野県東御市	
80上		田中	長野県東御市	布引観音山の上に見える、山の上に布引の岩見える
80上		小諸	長野県小諸市	<泊> 御本陣上田宇源治、1万5000石牧野内膳正様御城
80中	4/26	追分	長野県軽井沢町	中仙道・加賀道追分
80中		沓掛	長野県軽井沢町	<休>、八幡宮大社
80中		軽井沢	長野県軽井沢町	碓氷峠、熊野三社権現、碓氷大明神、信濃・上野国境、峠より榛名山見える
80中		坂本	群馬県安中市	横川御関所、妙義道案内石
80下		妙義山	群馬県安中市・富岡市・下仁田町	<泊> 萩原権左衛門
80下	4/27	安中	群馬県安中市	
80下		板鼻	群馬県安中市	
80下		高崎	群馬県高崎市	<休>
80下		倉賀野	群馬県高崎市	岩鼻渡し
81上		新町	群馬県高崎市	
81上		本庄	埼玉県本庄市	<泊> 諸井七兵衛
81上	4/28	妻沼	埼玉県熊谷市	
81上		宿本	埼玉県熊谷市	

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
72下		成相麓	京都府宮津市	茶屋、ここより登る道筋で天橋立・大江山見晴らし景地
72下		成相寺	京都府宮津市	西国第二十八番、本尊正観音
73上		宮津	京都府宮津市	<休>
73上		栗田	京都府宮津市	安寿姫・厨子王丸の芝刈りした所
73上		由良	京都府宮津市	三椒太夫屋敷跡、中山川
73中		中山	京都府舞鶴市	<泊>井筒屋平助、大船峠
73中	4/11	田辺	京都府舞鶴市	3万5000石牧野佐渡守様御城
73中		市場	京都府舞鶴市	
73下		松尾	京都府舞鶴市	<休>、西国第二十九番青葉山松尾寺、馬頭観音、丹後・若狭国境
73下		三松	福井県高浜町	
73下		高浜	福井県高浜町	
73下		和田	福井県高浜町	
73下		本郷	福井県おおい町	<泊>松屋甚五兵衛、かも峠、瀬坂、八百姫社、拾貳社、権現社、神主の宅に宝物数々、二月堂の守、その他いろいろの守
74上	4/12	小浜	福井県小浜市	12万石酒井修理太夫様御城
74上		遠敷	福井県小浜市	<休>
74上		日笠	福井県若狭町	
74上		熊川	福井県若狭町	<泊>木綿屋佐重郎、御番所、若狭・近江国境
74中	4/13	山中	滋賀県大津市	御番所
74中		保坂	滋賀県高島市	
74中		追分	滋賀県大津市	
74中		生見	滋賀県高島市	
74中		今津	滋賀県高島市	ここより竹生島・長浜まで船に乗る
74中		竹生島	滋賀県長浜市	西国第三十番宝巖寺、千手観音、弁財天社、宝物数々
74下		今西村	滋賀県長浜市	<泊>百姓屋与右衛門
74下	4/14	長浜	滋賀県長浜市	<休>、観音坂
74下		春照	滋賀県米原市	伊吹山の麓
74下		藤川	滋賀県米原市	近江・美濃国境
75上		関ヶ原	岐阜県関ヶ原町	<泊>江戸屋五郎右衛門、中仙道
75上	4/15	垂井	岐阜県垂井町	青墓という在所入口に照手姫の清水、小寺、照手姫御影、庭に源氏よし竹義朝公御廟所
75上		赤坂	岐阜県大垣市	<休>、虚空蔵菩薩、岩山にて景山
75中		白石	岐阜県養老町	いひ坂、念仏池
75中		谷汲	岐阜県揖斐川町	<休>、西国第三十三番谷汲寺、十一面観音、札納弘にて戒壇廻り
75中		長瀬	岐阜県揖斐川町	長瀬川
75下		山口	岐阜県本巣市	<泊>武蔵屋佐兵衛
75下	4/16	阿弥陀寺	岐阜県岐阜市	
75下		岐阜	岐阜県岐阜市	<休>、鍛冶屋多い
75下		加納	岐阜県岐阜市	3万8000石長井山城守様御城、中仙道、青野ヶ原
76上		鶉沼	岐阜県各務原市	尾州様御家老成瀬隼人正様御城、鏡岩、観音岩屋の内に御立あり、景地
76上		太田	岐阜県美濃加茂市	<泊>坂本屋庄助、木曾川
76上	4/17	今渡	岐阜県可児市	
76中		伏見	岐阜県御嵩町	
76中		御嵩	岐阜県御嵩町	<休>、江尻村に立石
76中		月吉	岐阜県瑞浪市	月休石の立石
76中		日吉社	岐阜県瑞浪市	小社、月輪・日輪の御休息所にて名所
76下		大湫	岐阜県瑞浪市	<泊>伊勢屋半七、西行の塚、木曾の十三峠、大井川板橋
76下	4/18	大井	岐阜県恵那市	中津川
76下		中津	岐阜県中津川市	<休>
76下		落合	岐阜県中津川市	猿橋、美濃・信濃国境、十曲峠、薬師如来
77上		馬籠	岐阜県中津川市	<泊>御本陣嶋崎与治右衛門
77上	4/19	妻籠	長野県南木曾町	木曾殿(木曾義仲)城跡、木曾川
77上		三留野	長野県南木曾町	
77上		野尻	長野県大桑村	猿橋

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
69 中		三石	岡山県備前市	峠に備前・播磨国境
69 下		梨ヶ原	兵庫県上郡町	<休>
69 下		西有年	兵庫県赤穂市	
69 下		東有年	兵庫県赤穂市	千種川
69 下		鶴亀	兵庫県相生市	鶴屋千蔵、亀屋万蔵という茶屋
69 下		片嶋	兵庫県たつの市	<泊>花屋庄左衛門
69 下	4/5	正條	兵庫県たつの市	正條川
69 下		鱈	兵庫県太子町	
70 上		山田	兵庫県太子町	
70 上		青山	兵庫県姫路市	
70 上		坂元	兵庫県姫路市	茶屋多い
70 上		書写山	兵庫県姫路市	<休>、西国第二十七番※書写山円教寺、如意輪観音、本堂、奥院、弁慶学問所、弁慶姿見井戸、三堂大伽藍
70 中		姫路	兵庫県姫路市	<泊>福中町和泉屋九市郎、15 万石酒井雅楽頭様御城、革類多い
70 中	4/6	春日野	兵庫県高砂市	
70 中		大釜村	兵庫県姫路市	
70 中		小原	兵庫県姫路市	宿屋多い
70 中		法華寺	兵庫県加西市	<休>、西国第二十六番天台法華山一乗寺、十一面観音、諸堂多い
70 下		坂本	兵庫県加西市	
70 下		鶉野	兵庫県加西市	青野ヶ原
70 下		播州	兵庫県加西市	青野ヶ原
70 下		青野高岡	兵庫県加東市	瀧川
70 下		社	兵庫県加東市	<泊>広屋儀兵衛、佐保大明神
71 上	4/7	三草	兵庫県加東市	1 万石丹羽式部様御陣屋
71 上		加茂	兵庫県加東市	
71 上		馬瀬	兵庫県加東市	
71 上		坂本	兵庫県西脇市	<休>
71 上		清水	兵庫県加東市	<泊>松屋伝右衛門、西国第二十五番御嶽山清水寺千手観音、奥院、十一面観音、御堂は左甚五郎作、摂津・播磨・丹波三ヶ国境
71 中		市原	兵庫県西脇市	<泊>
71 中	4/8	古市	兵庫県篠山市	
71 中		味間	兵庫県篠山市	一の瀬川
71 中		大山	兵庫県篠山市	
71 中		追入	兵庫県篠山市	<休>
71 中		国領	兵庫県丹波市	
71 中		大多利	兵庫県丹波市	
71 中		小多利	兵庫県丹波市	
71 下		市島	兵庫県丹波市	
71 下		竹田	兵庫県丹波市	
71 下		大森	兵庫県丹波市	
71 下		才田	兵庫県丹波市	
71 下		湯口		<泊>松本屋助右衛門
71 下	4/9	福知山	京都府福知山市	3 万 5000 石朽木雲太郎様御城
72 上		阿良須	京都府福知山市	鬼ヶ城見える、丹波・丹後国境
72 上		公庄	京都府福知山市	
72 上		河守	京都府福知山市	
72 上		外宮	京都府福知山市	<休>、外宮太神宮社(豊受大神社)・末社
72 上		内宮	京都府福知山市	内宮太神宮・80 末社、天の岩戸
72 上		中ノ茶屋	京都府福知山市	峠より大江山見える
72 中		天岩戸茶屋	京都府福知山市	
72 中		宮津	京都府宮津市	<泊>北野屋嘉兵衛、7 万石松平伯耆守様御城、紗綾・縮緬多く織る所、大師行返り石
72 下	4/10	切戸	京都府宮津市	<休>、文殊菩薩、二重塔、龍宮より上った香炉・鰐口、天橋立、橋立大明神、江尻村、豊受太神宮、弥陀堂

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
65 中		可部	広島県広島市	<泊>とのや栄次
65 中	3/21	本地	広島県北広島町	
65 中		中山	広島県北広島町	<休>、山間の道、銀山道、岩戸村末に亀谷坂、峠に芸州・石州国境
65 中		下亀谷	島根県邑南町	<泊>山根勝平
65 下	3/22	出羽	島根県邑南町	
65 下		高見	島根県邑南町	
65 下		八色石	島根県邑南町	48 瀬飛石にて渡る
65 下		川本	島根県川本町	<休>
65 下		祖式	島根県大田市	石見銀山をみて麓を通る、大森入口に岩山、五百羅漢
66 上		大森	島根県大田市	<泊>駒足町角たまる屋泰助、金堀役所
66 上	3/23	久利	島根県大田市	
66 上		大田	島根県大田市	
66 上		波根	島根県大田市	<休>、海端、石州・雲州境
66 中		多伎	島根県出雲市	
66 中		久村	島根県出雲市	
66 中	3/24	杵築町	島根県出雲市	<泊>大鳥居町大嶋屋幸兵衛、大社大國主太神宮、御本浦八雲山、右八鶴山、左八亀山、国祖様 2 軒、家老の類 10 軒ずつ、他に坊中 300 軒、知行 3000 石
66 下	3/25	平田	島根県出雲市	布崎川
67 下		松江	島根県松江市	18 万 6000 石松平出羽守様御城
67 上		出雲郷	島根県松江市	<泊>中屋彦市
67 上	3/26	揖屋	島根県松江市	殺生場
67 上		意東	島根県松江市	
67 上		安来	島根県安来市	出雲・伯耆国境
67 上		米子	鳥取県米子市	1 万石荒尾近江守様御城、緋縞、日本一の緋
67 中		尾高	鳥取県米子市	<泊>角屋藤藏
67 中	3/27	大山	鳥取県大山町	大智明大権現、<泊>とうふ屋源太郎、御本社、御本坊天台西楽院、坊中 42 軒
67 下	3/28	御机	鳥取県江府町	伯州・作州国境
67 下		下蚊屋	鳥取県江府町	<休>
67 下		延助	岡山県真庭市	
67 下		郷原	岡山県真庭市	
67 下		藤森	岡山県真庭市	
67 下		湯原	岡山県真庭市	<泊>谷屋善四郎、湯治場
68 上	3/29	真賀	岡山県真庭市	<休>、湯治場
68 上		勝山	岡山県真庭市	<泊>杉屋善助、2 万 3000 石三浦志摩守様御城、玉雲大権現、旭川
68 中	4/ 朔	久世	岡山県真庭市	
68 中		落合	岡山県真庭市	
68 中		福渡	岡山県岡山市	川番所、作州・備前国境
68 中		金川	岡山県岡山市	<泊>小倉屋庄吉、松平内蔵頭様家老御陣屋
68 中	4/2	岡山	岡山県岡山市	<休>、35 万石松平内蔵頭様御城
68 中		備前吉備津	岡山県岡山市	吉備津社
68 下		吉備津	岡山県岡山市	御本社、回廊作り
68 下		庭瀬	岡山県岡山市	2 万石板倉撰津守様御陣屋
68 下		早島	岡山県早島町	<休>
68 下		天城	岡山県倉敷市	
68 下		由加山	岡山県倉敷市	<泊>扇子屋徳右衛門、由加山大権現
69 上	4/3	用吉村	岡山県玉野市	
69 上		八浜	岡山県玉野市	船付
69 上		壺番	岡山県岡山市	
69 上		四番	岡山県岡山市	<休>、沖田大明神
69 上		西大寺	岡山県岡山市	観音院西大寺、本尊十一面観音
69 中		香登村	岡山県備前市	<泊>万屋良三郎、名産徳利焼出す（備前焼）
69 中	4/4	片上	岡山県備前市	船付
69 中		八木山村	岡山県備前市	

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
60下		郡山	大阪府茨木市	<休>、西海道
60下		勝尾寺	大阪府箕面市	西国第二十三番、千手観音
61上		箕面	大阪府箕面市	日本2番の瀧、弁財天
61上		新稲村	大阪府箕面市	
61上		池田宿	大阪府池田市	<休>、名まり沢、黒岩山、白岩山
61上		船坂	兵庫県西宮市	山中に男女わかめ姿の所、有馬入口、円通寺、日暮の庭、立石(日本第一神霊泉)、有馬湯場、鼓ヶ滝、名所・古跡、仏母摩那山
61下		中山寺	兵庫県宝塚市	<泊>大国屋六右衛門、西国第二十四番、千手観音
61下	3/8	小浜	兵庫県宝塚市	
61下		西ノ宮	兵庫県西宮市	<泊>十文字屋勘兵衛、西ノ宮大神、開帳、別当延福寺
61下	3/9	住吉	大阪府大阪市	住吉大明神4社
61下		摩那山	兵庫県神戸市	<休>、天上寺、十一面観音、夫人堂
62上		布引	兵庫県神戸市	男滝・女滝
62上		生田森	兵庫県神戸市	生田大明神、梶原の井戸、神功皇后の釣竿
62上		神戸	兵庫県神戸市	楠殿石塔、湊川は楠殿の討死した川
62中		兵庫	兵庫県神戸市	清盛が築立の時に松王小兒人柱となる、築嶋寺に御影石塔、その他宝物、開帳、清盛石塔
62中		須磨寺	兵庫県神戸市	<休>、本尊正観音、宝物数々、開帳、神功皇后釣竿、一の谷へかけ越、鶴越、城跡大内跡、敦盛石塔
62下		塩屋	兵庫県神戸市	摂津・播磨国境
62下		垂水	兵庫県神戸市	淡路島・四国見える、舞子浜(明石までの海辺)
62下		明石	兵庫県明石市	<泊>大倉谷町石屋文四郎、6万石松平佐兵衛督様、忠度石塔、人丸社
63上	3/10	大久保	兵庫県明石市	
63上		長池	兵庫県明石市	右は加古川道、左は播磨名所道
63上		二子	兵庫県播磨町	
63上		別府	兵庫県加古川市	住吉社、見崎の天神社
63上		尾上	兵庫県加古川市	<休>、尾上鐘住吉社
63中		高砂	兵庫県高砂市	<泊>つり屋伊七郎
63中		石宝殿	兵庫県高砂市	生石大明神
63中		曾根	兵庫県高砂市	天神社
63中		高砂	兵庫県高砂市	ここより四国金毘羅・芸州宮島まで片道船乗り
63下	3/11	網干浦	兵庫県姫路市	
63下	3/12	神崎浦	岡山県岡山市	
63下		丸亀	香川県丸亀市	<泊>佃屋金十郎、5万3000石京極長門守様御城、本陣見付屋勘左衛門の庭
64上	3/13	鴨	香川県多度津町	四国第七十七番※桑多山道隆寺、薬師如来
64上		多度津	香川県多度津町	京極様分家1万石城
64上		弥谷	香川県三豊市	四国第七十一番弥谷寺、神仏数多、石に切付あり
64上		曼荼羅寺	香川県普通寺市	四国第七十二番、大日如来
64上		普通寺	香川県普通寺市	四国第七十五番、薬師如来
64中		金毘羅	香川県琴平町	<休>、金刀比羅大権現
64中	3/14	丸亀	香川県丸亀市	<泊>佃屋金十郎
64中	3/15	蒲刈の島	広島県呉市	
64中	3/16	音戸の瀬戸	広島県呉市	
64中	3/17	宮島	広島県廿日市市	<泊>伊与屋久兵衛、弁財天、惣廻廊作り、五重塔、その他諸堂多い、日本二番の景地、白糸ノ滝、奥院、虚空像、弥山三鬼神末社、38末社、その他名所多い、弘法大師飛不動
64下	3/18	麻里布湊	山口県岩国市	
64下		岩国町	山口県岩国市	<休>、吉川様御城、日本一ノ錦帯橋
65上		麻里布	山口県岩国市	塩焼多い
65上	3/19	宮島	広島県廿日市市	
65上	3/20	広島	広島県広島市	42万6000石松平安芸守様御城、御船蔵の場、太田川

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
56上		瀬田	滋賀県大津市	<休>、依藤太の宮
56上		草津	滋賀県草津市	右は東海道、左は中仙道、追分
56上		守山	滋賀県守山市	<泊>山田屋徳右衛門、長命寺、観音寺、長命寺より大津まで船
56上	2/28	鏡	滋賀県竜王町	百足山の麓を通る川
56中		武佐	滋賀県近江八幡市	
56中		観音正寺	滋賀県近江八幡市	西国第三十二番、千手観音、佐々木殿御城跡
56中		常楽寺	滋賀県湖南市	ここより長命寺まで船
56中		八幡	滋賀県近江八幡市	<休>、八幡宮社
56下		長命寺	滋賀県近江八幡市	西国第三十一番、千手観音、ここより大津まで船
56下		八幡	滋賀県近江八幡市	
56下		牧村		
56下		田中	滋賀県竜王町	
56下		守山	滋賀県守山市	<泊>山田屋へ帰り泊り
57上	2/29	草津	滋賀県草津市	<休>
57上		矢橋	滋賀県草津市	ここより大津まで船
57上		大津	滋賀県大津市	日本三津、諸大名方御蔵
57上		三井寺	滋賀県大津市	西国第十四番、如意輪観音、奥院、三井の鐘、三井の井戸
57中		唐崎	滋賀県大津市	<休>
57中		坂本	滋賀県大津市	東照宮社、日本一石橋、日吉山王二十一社、八王子社、亀井の井、夢石
57中		比叡山	滋賀県大津市	延暦寺(本尊薬師)、根本中堂、釈迦堂、弁慶行致候所、伝教大師御廟所、金の相輪櫓、坊 130 坊
57下		黒谷	滋賀県高島市	法然上人開基念仏堂
57下		八瀬	京都府京都市	<泊>豆腐屋長左衛門
57下	2/晦	大原	京都府京都市	
57下		鞍馬	京都府京都市	焼跡ばかり、義経背比べ石、不動堂、義経兵法を習った所
58上		貴船	京都府京都市	貴船大明神社、<休>梶本村
58上		野中	京都府京都市	
58上		市原	京都府京都市	小野小町古跡、深泥池、糺の明神
58上		上賀茂	京都府京都市	
58上		下賀茂	京都府京都市	御普請白木作
58上		京都	京都府京都市	<泊>筑前屋治郎左衛門、六角堂、3月朔日昼より大雨降り、2日大雨降り続き休み、3日御鶏合拜見、西国第十八番六角堂、西国第十九番一条草堂、御龍八社拜見、稲荷社、日本始まり稲荷、黒谷極楽寺、三重塔、熊谷殿御影、敦盛公御影、本山黒谷寺、本尊円光大師、妙見菩薩、大本山知恩院、日本一釣鐘、祇園牛頭天王、八坂塔、西国十六番音羽山清水寺、田村將軍守本尊、三重塔、その他諸堂多い、西国第十七番陀洛山六波羅蜜寺、十一面観音空也上人開基、西国第十五番東山今熊寺、十一面観音(弘法大師作)、三十三間堂、大仏焼跡、東本願寺、西本願寺、東寺、東福寺、大内御鶏合拜見、紫宸殿・清涼殿、朝日御門、神泉苑神池、二条城、北野天神、平野明神、金閣寺、妙心寺、御室御所、五重塔、その他諸堂多い、硯石多い、嵯峨釈迦、清瀧町茶屋多い
59中		愛宕山	京都府京都市	本地將軍地藏、山城・丹後国境
59下		保津	京都府亀岡市	<泊>絵馬屋新蔵
59下	3/6	亀山	京都府亀岡市	5万石、松平紀伊守様御城
59下		穴太寺	京都府亀岡市	西国第二十一番、正観音
60上		化野	京都府京都市	都の熊野路
60上		善峯	京都府京都市	<休>、西国第二十番※西山善峯寺、千手観音(弘法大師作)、二重塔、六角堂、長岡天神社
60上		山崎	京都府大山崎町	観音寺という木食寺、東照宮、薬師堂、宝寺、延命小袋、打手小槌、その他宝物、開帳、八幡宮、三重塔
60中		橋本	京都府八幡市	
60中		八幡	京都府八幡市	八幡宮、御拜のうちに黄金の樋
60中		橋本	京都府八幡市	<泊>木綿屋利右衛門
60中	3/7	楠葉	大阪府枚方市	河内・山城・摂津3ヵ国境
60下		芥川	大阪府高槻市	
60下		総持寺	大阪府茨木市	西国第二十二番、千手観音

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
51 下		古市村	大阪府羽曳野市	<泊> 酢屋定七、坪井村に八幡宮、源頼義・義家の石塔
52 上	2/20	上太子	大阪府羽曳野市	聖徳太子石塔、廻りの斎垣 800 本(弘法大師作という)、御影堂、九社明神、追分地藏尊、岩屋、中将姫糸とり候所、腰掛石、河内・大和国境
52 上		染寺	奈良県葛城市	中将姫蓮糸を染めた所、庭に染の井戸
52 上		当麻	奈良県葛城市	<休>、当麻寺、御庭は全砂子、中将姫の古跡、その他諸堂・名所多い
52 中		新庄	奈良県葛城市	八幡宮
52 中		御所	奈良県御所市	
52 中		土佐	奈良県高取町	<泊> 紙屋佐兵衛、2 万 5000 石植村駿河守様御城、城を高取という
52 中	2/21	壺阪	奈良県高取町	西国第六番法華寺、奥院
52 下		越部	奈良県大淀町	吉野川
52 下		六田	奈良県吉野町	権現様、峯ノ薬師
52 下		吉野	奈良県吉野町	<休>、蔵王大権現三軀、開帳、本社、吉水院、名所・古跡・宝物多い、陀羅尼助
53 上		飯貝	奈良県吉野町	吉野川
53 上		上市	奈良県吉野町	妹背山、卒塔婆峠
53 上		滝畑	奈良県吉野町	<泊> 森川屋儀兵衛
53 上	2/22	多武峰	奈良県桜井市	藤原氏の曾祖、宮数 7 社、十三重塔、天台妙楽寺、他 40 カ寺
53 中		岡寺	奈良県明日香村	<休>、西国第七番、如意輪観音(弘法大師作)、奥院
53 中		阿倍	奈良県桜井市	日本三大文殊
53 中		桜井	奈良県桜井市	
53 中		追分	奈良県桜井市	鍛冶屋
53 下		長谷寺	奈良県桜井市	<泊> 上田屋吉右衛門、西国第八番、十一面観音(太神宮作)、春日真言長谷寺、二王門・本堂・廻廊造り
53 下	2/23	追分	奈良県桜井市	
53 下		三輪	奈良県桜井市	<休>、三輪明神
54 上		田原本	奈良県田原本町	竜田川橋
54 上		法隆寺	奈良県斑鳩町	七堂大伽藍、五重塔、その他諸堂多い、峯の薬師、法華法隆寺
54 上		龍田	奈良県斑鳩町	龍田太神
54 上		小泉	奈良県大和郡山市	1 万石片桐市正様御城
54 中		郡山	奈良県大和郡山市	<泊> 花内屋忠兵衛、15 万石松平甲斐守様御城
54 中	2/24	西ノ京	奈良県奈良市	八幡宮社、薬師大伽藍、六重塔、釈迦如来足跡、釣鐘
54 中		唐招提寺	奈良県奈良市	大門の跡
54 中		菅原	奈良県奈良市	天満宮
54 中		西大寺	奈良県奈良市	御無双豊心丹という薬
54 下	2/25	南都	奈良県奈良市	<泊> 小刀屋善助、西国第九番、南円堂、興福寺、諸堂多い、名所は猿沢池、文殊四郎鍛冶屋、墨師、元興寺塔、春日大明神、五重塔、その他諸堂多い、石灯籠数知れず、三笠山、二月堂、大釣鐘、大仏殿、回廊、作御庭に金の灯籠、その他名所・古跡多い、25 日大雨にて逗留
54 下	2/26	木津	京都府木津川市	木津川
55 上		玉水	京都府井手町	
55 上		長池	京都府城陽市	
55 上		宇治	京都府宇治市	<休>、平等院、宝物数々、宇治川
55 上		三室戸	京都府宇治市	西国第十番、本尊千手観音
55 上		黄檗山	京都府宇治市	万福寺、大伽藍、古跡多い
55 中		六地藏	京都府宇治市	
55 中		下醍醐	京都府京都市	<泊> 八幡屋平四郎、三宝院宮様、五重塔、その他諸堂多い、都の熊野路、これより山城国
55 中	2/27	上醍醐	京都府京都市	西国第十一番醍醐寺、三面八臂観音、山城・近江国境
55 下		笠取	京都府宇治市	
55 下		岩間寺	滋賀県大津市	西国第十二番天台宗正法寺、千手観音
55 下		石山	滋賀県大津市	西国第十三番石山寺、如意輪観音、御庭によふから石

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
47 中		岩代	和歌山県みなべ町	
47 中		切目	和歌山県印南町	<休>、切目王子社
47 中		印南	和歌山県印南町	野島村に清姫草履塚
47 中		塩屋	和歌山県御坊市	日高川
47 中		道成寺	和歌山県日高川町	三重塔、他古跡、延長6年8月清姫この寺で鐘巻、庭につり鐘塚、安珍塚、宝物開帳、蛇塚、八幡宮社
47 下		原谷	和歌山県日高町	<泊>中屋新吉、鹿ヶ瀬峠
47 下	2/12	井関	和歌山県広川町	
47 下		湯浅	和歌山県湯浅町	方津戸峠、糸我峠、雲雀山、中将姫由来宝物、有田川
48 上		宮原	和歌山県有田市	<休>、蕪坂、弘法大師岩へ爪で彫った地藏尊・阿弥陀あり
48 上		加茂谷	和歌山県海南市	藤白峠、地藏堂、茶屋、「金岡筆捨松図」硯石、藤白権現社
48 上		藤白	和歌山県海南市	
48 上		日方	和歌山県海南市	紀州椀出来る所
48 中		紀三井寺	和歌山県和歌山市	<泊>兵庫屋弥四郎、西国第二番、十一面観音、本堂、龍宮より上り候釣鐘、紀州様茶屋
48 中	2/13	和歌浦	和歌山県和歌山市	家康公御袋様御霊屋、二重塔、玉津島明神、ねんねこ山、奠供山、片男波、天満宮、東照宮、三重塔
48 下		和歌山	和歌山県和歌山市	紀伊守様御在城
48 下		八軒家	和歌山県和歌山市	<休>、右は岩出道、左は根来山
48 下		川辺	和歌山県和歌山市	
48 下		坂本	和歌山県野上町	宿屋多い
49 上		根来山	和歌山県岩出市	不動尊(※一乗山根来寺)、大塔、他の諸堂多い
49 上		粉河	和歌山県紀の川市	<泊>金屋茂兵衛、西国第三番粉河寺
49 上	2/14	麻生津	和歌山県紀の川市	
49 中		花坂	和歌山県高野町	<休>、山田屋与七郎
49 中	2/15	高野山	和歌山県高野町	<泊>宿坊大楽院、高野山金剛峯寺、弘法大師御開基、三国一の霊場之地、名所・古跡多い、大御堂、大塔、御影堂、式社明神、他の諸堂多い、寺数1000軒余、町家も多い、奥院、天子様石塔、将軍・大名・旗本方石塔、曾我兄弟・熊谷・敦盛・四十七騎・明智石塔、蛇柳姿見の井戸、汗かき地藏、大師御入定所、木食上人寺、女人堂、不動堂、四寸岩
50 上	2/16	神谷	和歌山県高野町	難所小坂
50 上		九度山	和歌山県九度山町	
50 上		慈尊院	和歌山県九度山町	<休>、大師御母公弥勒仏と祀り、大師直筆之御影、仏具、開帳、二重塔、高野明神五社、紀の川
50 中		大畑	和歌山県かつらぎ町	大師加持水、大師作の観音、蛇尾峠、紀州・泉州の境、槇尾山奥院、宝物、開帳、二重塔
50 中		滝畑	大阪府河内長野市	桧原峠
50 中		槇尾	大阪府和泉市	<泊>梅中坊、西国第四番、十一面観音(弘法大師作)、天台槇尾山施福寺、宿坊73カ寺、中雲院(大師御剃髪の寺)
50 下	2/17	横山	大阪府和泉市	上野の原
50 下		山田	大阪府太子町	
50 下		大鳥	大阪府堺市	大鳥大明神、和泉国一ノ宮、五重塔
50 下		堺	大阪府堺市	<休>、紗・綾・縮縮織出す所、住吉三社明神、和泉・河内・摂津3カ国境、三村明神、妙国寺、鉄砲・刃物等を打出す鍛冶屋多い、大和川、天下茶屋
51 上		住吉	大阪府大阪市	住吉太神宮、120末社
51 上	2/18	大坂	大阪府大阪市	<泊>平野屋佐吉、生玉社、高津宮、東照宮、御城、天満宮、津村社、天満橋、東本願寺、西本願寺、座摩宮、阿弥陀ヶ池、道頓堀
51 中	2/19	天王寺	大阪府大阪市	天王寺、聖徳太子建立大伽藍、西門に石鳥居の額
51 中		平野	大阪府柏原市	<休>、念仏寺という大寺、本尊阿弥陀如来、摂津・河内国境、大和川
51 下		藤井寺	大阪府藤井寺市	西国第五番、千手観音(春日作)、本堂、真言宗藤井山剛林寺、道明寺、誉田八幡宮

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
42 中		磯部	三重県志摩市	磯部大神宮
42 中	2/2	田丸	三重県玉城町	<休>、たばこ入多い、紀州様家老御城、牧野々原
42 下		原の大辻	三重県玉城町	媿峠、右は高野道、左は八鬼山道
42 下		相鹿瀬	三重県多気町	
42 下		栃原	三重県大台町	<泊>神坂屋平蔵
42 下	2/3	粟生	三重県大台町	
42 下		三瀬	三重県大台町	三瀬川、三瀬坂
42 下		野尻	三重県大紀町	<休>、笄太神宮・瀧原太神宮・猿田彦太神・長生宮古跡、名木 12 本、長者野、はふ坂
43 上		阿曾	三重県大紀町	川 2 瀬
43 中		駒村	三重県大紀町	<泊>井筒屋半兵衛
43 中	2/4	間弓	三重県大紀町	
43 中		梅ヶ谷	三重県大紀町	伊勢・紀伊国境
43 中		長島	三重県紀北町	石坂、馬坂
43 下		三浦	三重県紀北町	<休>、始神坂
43 下		馬瀬	三重県紀北町	
43 下		引本	三重県紀北町	馬越坂
43 下		尾鷲	三重県尾鷲市	<泊>新宮屋仁右衛門、海端に船付、八鬼山日輪寺
44 上	2/5	三木里	三重県尾鷲市	海端にて家多い、曾根まで舟
44 上		曾根	三重県尾鷲市	<休>、曾根次郎・曾根太郎坂
44 上		二木島	三重県熊野市	逢川、逢神坂
44 上		新鹿	三重県熊野市	難所
44 中		波田須	三重県熊野市	大吹峠難所、十一面観音、茶屋、田村將軍守本尊千手観音、鬼が岩屋、清滝
44 中		大泊	三重県熊野市	<泊>角屋孫右衛門、海端
44 下	2/6	木本	三重県熊野市	親知らずというあり、有馬入口に大般若経を納めた岩山
44 下		有馬	三重県熊野市	池辺松原
44 下		市木	三重県御浜町	市木川
44 下		阿田和	三重県御浜町	<休>、石砂、小坂
45 上		井田	三重県紀宝町	川前に役所
45 上		新宮	和歌山県新宮市	御本社熊野権現、拾式社権現、本地薬師如来、清盛公の鋳らせた釜、経堂・宝蔵、紀州様家老 3 万 7000 石水野下野守様御城、神之蔵社、御手洗の浜、御手洗の坂
45 中		三輪崎	和歌山県新宮市	<休><泊>角屋慶助、熊野鯨取る所、那智黒碁石多い、こいの尼石塔、孔島見える
45 中	2/7	宇久井	和歌山県那智勝浦町	小狗子峠・大狗子峠
45 中		浜の宮	和歌山県那智勝浦町	浜宮大明神 3 社、千手観音、別当天台宗補陀洛寺、金山
45 下		那智山	和歌山県那智勝浦町	<泊>仙瀧院、西国第一番那智山青岸渡寺（如意輪観音）、熊野社 12 社、日本一の瀧
45 下	2/8	小口	和歌山県新宮市	<休>、小口川、小雲取坂
46 上		請川	和歌山県田辺市	<泊>小瀬屋常蔵
46 上	2/9	本宮	和歌山県田辺市	熊野大権現 12 社、弁財天・大黒天、地主権現・音無天神・白河法皇の石塔、和泉式部の石塔、町中に武蔵・相模御師尾崎太夫、峠に小栗判官が召された車塚
46 中		湯峰	和歌山県田辺市	<休>、伊勢屋又三郎、薬師如来、二重の塔、薬師法便の湯、湯峰峠
46 中		湯川	和歌山県田辺市	鍋割坂、夫婦坂、子宝坂
46 中		野中	和歌山県田辺市	
46 中		近露	和歌山県田辺市	<泊>丸屋藤次郎、大坂峠、十丈峠
46 下	2/10	十丈村	和歌山県田辺市	
46 下		高原	和歌山県田辺市	
46 下		芝村	和歌山県田辺市	広野坂、潮見峠、茶屋
46 下		上三栖	和歌山県田辺市	<休>、地藏堂、善光寺如来・覚鑿上人石塔、蓬萊山牛頭天王
47 上		田辺	和歌山県田辺市	<泊>昔き屋角右衛門、紀州様家老 3 万 5000 石安藤帯刀様御城、町内に弁慶の産湯、海端に牛かはなという岩
47 上	2/11	南部	和歌山県みなべ町	南部坂、片倉坂

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
37中	正/19	丸子	静岡県静岡市	
37中		岡部	静岡県藤枝市	朝比奈川
37下		藤枝	静岡県藤枝市	<休>、4万石本多備中守様御城、瀬戸川
37下		島田	静岡県島田市	大井川越
37下		金谷	静岡県島田市	<泊>山田屋治三郎、夜泣き石、無見寺の鐘、孕み女石塔
38上	正/20	日坂	静岡県掛川市	八幡宮
38上		掛川	静岡県掛川市	<休>、5万石太田備中守様御城、土橋、秋葉山大鳥居
38上		森町	静岡県森町	<泊>江戸和泉屋喜右衛門
38中	正/21	市の瀬	静岡県	
38中		犬居	静岡県浜松市	
38中		麓	静岡県浜松市	<休>
38中		秋葉山	静岡県浜松市	秋葉大権現、正面正観音、別当禅宗大登山秋葉寺、鳳来寺道
38下		戸倉	静岡県浜松市	天竜川
38下		石打	静岡県浜松市	<泊>山形屋八左衛門
38下	正/22	熊村	静岡県浜松市	遠江・三河国境
39上		大平	静岡県浜松市	
39上		巢山	愛知県新城市	
39上		大野	愛知県新城市	<休>、平地、行者戻しという難所
39上		鳳来寺	愛知県新城市	東照大権現、薬師如来、三社明神、御朱印 1500 石焼岩山鳳来寺、岩本院に宝物開帳
39中		門谷	愛知県新城市	<泊>柏屋与七、瀧川
39中	正/23	信玄村	愛知県新城市	甲斐信玄・家康公戦の時に陣取した所、信玄太刀洗の池
39中		新城	愛知県新城市	<休>、8000 石菅沼亀丸様御陣屋
39中		大木	愛知県豊川市	<休>
39下		御油	愛知県豊川市	<休>
39下		赤坂	愛知県豊川市	宝蔵寺、家康公御手習された寺
39下		藤川	愛知県岡崎市	大平川、大岡越前守様御陣屋
39下		岡崎	愛知県岡崎市	<泊>大津屋勘助、5万石本多中務少輔様御城、矢作橋、浄瑠璃御前屋敷跡、義経・浄瑠璃御前石塔、業平作観音
40上	正/24	池鯉鮒	愛知県知立市	糸川茶屋という公方様茶屋、三河・尾張国境
40上		鳴海	愛知県名古屋	<休>、名物絞り染、笠寺観音
40上		宮	愛知県名古屋	熱田大明神・八剣明神、社領 1 万石、大社
40中		名古屋	愛知県名古屋	<泊>丸屋治兵衛、尾張様御城
40中	正/25	甚目寺	愛知県あま市	真言宗甚目寺、御朱印 300 石、日本三尊の観音、御堂、三重塔、その他七堂伽藍、田中に小森
40下		津島	愛知県津島市	<休>、牛頭天王
40下		佐屋	愛知県愛西市	<休>
41上		桑名	三重県桑名市	<泊>堺屋三右衛門、11 万石松平越中守様御城、春日大明神
41上	正/26	四日市	三重県四日市市	<休>
41上		追分	三重県四日市市	右は京道、左は伊勢道
41上		神戸	三重県鈴鹿市	
41上		白子	三重県鈴鹿市	子安観音
41中		上野	三重県鈴鹿市	<泊>万屋源四郎
41中	正/27	津	三重県津市	35 万石藤堂和泉守様御城、船付、阿弥陀、正面観音、阿弥陀堂、開帳
41中		雲出	三重県津市	<休>、雲出川
41中		六軒	三重県松阪市	
41下		松坂	三重県松阪市	
41下		櫛田	三重県松阪市	<泊>紅葉屋九兵衛、櫛田川
41下	正/28	明星	三重県明和町	祓川、明野ヶ原
41下		小俣	三重県伊勢市	宮川船渡し、川上って茶屋
41下		山田	三重県伊勢市	
42上		宇治	三重県伊勢市	<泊>御師上野館太夫
42上	正/29	内宮	三重県伊勢市	他に 80 末社
42上		朝熊	三重県伊勢市	本尊虚空蔵、その他諸堂多い、宝物数々、門前に万金丹妙薬
42上	正/晦	二見	三重県伊勢市	建石大明神の海中行場、二見杵本松、伊勢三郎屋敷跡
42中	2/1	外宮	三重県伊勢市	<泊>御師三日市太夫次郎、天の岩戸、高天原

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
30 中	7/25	今市	栃木県日光市	
30 中		大沢	栃木県日光市	
30 中		鹿沼	栃木県鹿沼市	
30 中		合戦場	栃木県栃木市	
30 中		栃木	栃木県栃木市	<泊>羽生屋伊左衛門
30 下	7/26	大平山	栃木県栃木市	
30 下		岩船山	栃木県栃木市	
30 下		佐野	栃木県佐野市	
30 下		館林	群馬県館林市	
30 下		赤岩	群馬県千代田町	<泊>仙台屋長八
30 下	7/27			婦村

二 天保 11 年「道中袖日記」

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
33 上	正 /9	行田	埼玉県行田市	<休>
33 上		鴻巣	埼玉県鴻巣市	
33 上		桶川	埼玉県桶川市	<泊>穀屋幸三郎
33 上	正 /10	上尾	埼玉県上尾市	
33 中		大宮	埼玉県さいたま市	当国一ノ宮氷川大明神
33 中		浦和	埼玉県さいたま市	
33 中		蕨	埼玉県蕨市	<休>
33 中		板橋	東京都板橋区	<休>
33 中	正 /11	江戸	東京都	<泊>馬喰丁 4 丁目伊勢屋久兵衛、11 日大雨にて逗留
33 中	正 /12	品川	東京都品川区	<休>、羽田ノ渡し
33 下		大師河原	神奈川県川崎市	厄除大師、<泊>朝日屋武左衛門
33 下	正 /13	川崎	神奈川県川崎市	
33 下		神奈川	神奈川県横浜市	
33 下		保土ヶ谷	神奈川県横浜市	武蔵・相模国境
34 上		戸塚	神奈川県横浜市	<休>
34 上		鎌倉	神奈川県鎌倉市	<泊>八幡前小池新太夫、円覚寺、矢柄の地藏尊、長寿寺、杉ヶ谷弁財天、建長寺、荒井閻魔、鶴岡八幡宮、光明寺、皇井大仏、日輪上人岩屋弁財天、権五郎大明神、長谷寺観音、綱引地藏、岩不動尊
35 上	正 /14	江ノ島	神奈川県藤沢市	<休>、三社弁財天
35 上		藤沢	神奈川県藤沢市	<泊>煙草屋庄右衛門、藤沢寺、小栗石塔、横山屋敷跡
35 中	正 /15	平塚	神奈川県平塚市	
35 中		大磯	神奈川県大磯町	<休>、虎御石、西行の御影・杖、虎御前御影
35 下		小田原	神奈川県小田原市	<泊>小清水伊兵衛、11 万石大久保加賀守様御城
35 下	正 /16	台		
35 下		畑	神奈川県箱根町	<休>茗荷屋畑右衛門
35 下		箱根大権現	神奈川県箱根町	一の鳥居の脇に釜 2 つ、御うたせ、別当の庭に五郎十郎宮、宝物開帳
36 上		関所	神奈川県箱根町	
36 上		箱根	神奈川県箱根町	<休>、相州・豆州国境
36 上		三島	静岡県三島市	<泊>金屋義右衛門、三島大明神、木瀬川、豆州・駿州国境
36 中	正 /17	沼津	静岡県沼津市	3 万石水野出羽守様御城、山王権現社
36 中		原	静岡県沼津市	<休>、浮島ヶ原、田子浦、吹上浜
36 中		吉原	静岡県富士市	富士川
36 下		岩淵	静岡県富士市	<休>
36 下		蒲原	静岡県静岡市	<泊>木瓜屋忠兵衛
36 下	正 /18	由比	静岡県静岡市	親知らず子知らずという坂、興津川
36 下		興津	静岡県静岡市	<休>、清見寺、富士山を見はらし景地
37 上		三保の松原	静岡県静岡市	三保大明神
37 上		久能山	静岡県静岡市	<休>、東照大権現、五重塔、その他諸堂多い
37 中		府中	静岡県静岡市	<泊>万屋清三郎、御番城、浅間社、石灯笼多い、家康公鎧、町数 96、安倍川

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
27下	7/15	矢本	宮城県東松島市	<泊>桜井利三太
27下	7/16	松島	宮城県松島町	<休>
27下		国分町	宮城県仙台市	<泊>清水野屋甚右衛門
27下	7/17	国分町	宮城県仙台市	<泊>清水野屋甚右衛門
27下	7/18	長町	宮城県仙台市	
27下		中田	宮城県仙台市	
28上		増田	宮城県名取市	
28上		岩沼	宮城県岩沼市	御家老様御城
28上		槻木	宮城県柴田町	
28上		舟迫カ	宮城県柴田町	
28上		大河原	宮城県大河原町	
28上		金ヶ瀬	宮城県大河原町	
28上		宮	宮城県蔵王町	
28上		白石	宮城県白石市	<泊>最上屋市郎兵衛、3万石片倉小十郎様御城
28上	7/19	斉川	宮城県白石市	
28中		越河	宮城県白石市	関所、伊達の大木戸、
28中		貝田	福島県国見町	
28中		藤田	福島県国見町	
28中		桑折	福島県桑折町	寺西十次郎様御陣屋
28中		瀬上	福島県福島市	木下宮内少輔領分
28中		福島	福島県福島市	3万石板倉甲斐守御城下
28下		根子町	福島県福島市	
28下		八丁目	福島県福島市	二本柳という間宿
28下		二本松	福島県二本松市	10万700石丹羽加賀守様御城下、<泊>油屋伊兵衛
28下	7/20	杉田	福島県二本松市	
28下		本宮	福島県本宮市	
28下		高倉	福島県郡山市	
28下		日和田	福島県郡山市	
28下		福原	福島県郡山市	
29上		郡山	福島県郡山市	
29上		小原田	福島県郡山市	泊り家なし
29上		日出山	福島県郡山市	泊り家なし
29上		笹川	福島県郡山市	泊り家なし
29上		須賀川	福島県須賀川市	
29上		笠石	福島県鏡石町	泊り家なし
29上		久来石	福島県鏡石町	泊り家なし
29中		矢吹	福島県矢吹町	<泊>冬木屋六右衛門
29中	7/21	新田	福島県矢吹町	泊り家なし
29中		大和久	福島県矢吹町	泊り家なし
29中		踏瀬	福島県泉崎村	泊り家なし
29中		太田川	福島県泉崎村	泊り家4・5軒
29中		小田川	福島県白河市	
29下		根田	福島県白河市	泊り家なし
29下		白河	福島県白河市	10万石阿部飛騨守様御城下
29下		白坂	福島県白河市	国境、よい泊り家
29下		芦野	栃木県那須町	芦野様御陣屋
29下		越堀	栃木県那須塩原市	
29下		鍋掛	栃木県那須塩原市	<泊>吉野屋栄助
30上	7/22	大田原	栃木県大田原市	1万石大田原下総守様御城、これより那須ヶ原
30上		沢村	栃木県矢板市	
30上		矢板	栃木県矢板市	
30上		高うち	栃木県	
30上		玉生	栃木県塩谷町	
30上		船生	栃木県塩谷町	
30上		大渡	栃木県日光市	<泊>福田屋忠蔵
30中	7/23	今市	栃木県日光市	
30中		日光	栃木県日光市	<泊>鉢石町高野貞三郎
30中	7/24	日光	栃木県日光市	<泊>鉢石町高野貞三郎、諸所参詣休息

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
23 下	7/5	猿沢	新潟県村上市	これより上杉様領分
23 下		塩野	新潟県村上市	
23 下		蒲萄	新潟県村上市	矢葺大明神、大沢村泊屋 3 軒
23 下		中村	新潟県村上市	
23 下		荒川	新潟県村上市	
23 下		中継	新潟県村上市	
24 上		小俣	新潟県村上市	
24 上		小名部	山形県鶴岡市	出羽国関所
24 上		小国	山形県小国町	
24 上		木野俣	山形県鶴岡市	<泊>五十嵐日向守
24 上	7/6	温海川	山形県鶴岡市	
24 上		菅野代カ	山形県鶴岡市	
24 中		坂野下	山形県鶴岡市	
24 中		町田川	山形県鶴岡市	
24 中		湯田川	山形県鶴岡市	湯場
24 中		鶴岡	山形県鶴岡市	15 万石酒井左衛門様、定芝居、景地
24 中		羽黒町	山形県鶴岡市	坊 330、中奈良村の坊長学坊へ、酒・そうめん・馳走、本坊、 <泊>長学坊、羽黒大権現開帳
24 下	7/7・8	月山	山形県鶴岡市・西川町	月山大権現、茶屋、<泊>かじ小屋(大雨にて2夜泊り)
24 下	7/9	湯殿山	山形県鶴岡市	湯殿山大権現、荒神、笹小屋 3 軒
25 上		志津	山形県西川町	泊り屋
25 上		本道寺	山形県西川町	湯殿山本別当
25 上		湯殿山正別当	山形県西川町	真言宗、町内坊中多い、泊り屋
25 上		入間村	山形県西川町	
25 中		貫見	山形県大江町	<泊>山伏地藏院、坂 2 つ難所
25 中	7/10	大沼山	山形県朝日町	大沼山大行院山伏、名所大沼
25 中		大谷	山形県朝日町	
25 中		中沢	山形県朝日町	
25 下		左沢町	山形県大江町	長休にて餅・飯・そうめん喰う
25 下		山寺	山形県山形市	<泊>藤屋惣右衛門、山寺、奥州境
25 下	7/11	二口	山形県山形市	茶屋
25 下		野尻	宮城県仙台市	仙台様関所、茶屋、足軽久蔵様
26 上		馬場	宮城県仙台市	
26 上		白沢村	宮城県仙台市	<泊>左藤孫兵衛、茶屋 2 軒
26 上	7/12	愛子	宮城県仙台市	八幡宮大社
26 上		国分町	宮城県仙台市	仙台城下、<泊>清水野屋甚右衛門
26 中	7/13	原町	宮城県仙台市	
26 中		青麻	宮城県仙台市	青麻岩戸三光宮、中気の御守り、神主鈴木対馬頭
26 中		塩釜	宮城県塩竈市	左宮・右宮・別宮で三社、塩釜 4 つ、釜宮神主、休糸びす藤蔵
26 下		松島	宮城県松島町	瑞巖寺、仙台様菩提所、茶屋は松屋五郎左衛門よい、五大明王開帳
26 下		高城	宮城県松島町	
26 下		小野	宮城県東松島市	<泊>丁字屋忠七
26 下	7/14	矢本	宮城県東松島市	
27 上		石巻	宮城県石巻市	大湊、御蔵多い、大船付所
27 上		渡波	宮城県石巻市	阿部屋次三郎、金華山
27 上		祝田	宮城県石巻市	
27 上		蛤浜	宮城県石巻市	
27 上		桃浦	宮城県石巻市	
27 上		荻浜	宮城県石巻市	
27 上		小積	宮城県石巻市	
27 中		小網倉	宮城県石巻市	
27 中		大原	宮城県石巻市	
27 中		給分	宮城県石巻市	
27 中		十八成	宮城県石巻市	
27 中		鮎川	宮城県石巻市	
27 中		鳶渡シ		
27 中		金華山	宮城県石巻市	<泊>大金寺、弁財天奥院、龍蔵大権現、愛宕山

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
20 上	閏 6/21	滑川	富山県滑川市	
20 上		上市	富山県上市町	
20 上		岩峯	富山県立山町	<泊>明星坊、立山大権現、他 23 坊
20 上	閏 6/22	芦峯	富山県立山町	立山大権現、坊中 36 軒、藤橋
20 上		桑谷	富山県立山町	大難所
20 上		室堂	富山県立山町	立山、浄土山、別山、八大地獄、<泊>
20 中	閏 6/23	桑谷	富山県立山町	<泊>
20 中	閏 6/24	上市	富山県上市町	
20 中		滑川	富山県滑川市	
20 中		魚津	富山県魚津市	<泊>印田屋七左衛門
20 下	閏 6/25	三日市	富山県黒部市	
20 下		入善	富山県入善町	<泊>竹内次郎三郎、勝蔵病気につき早泊まり
20 下	閏 6/26	泊	富山県朝日町	関所へ手形差し上げて出国
20 下		市振	新潟県糸魚川市	
20 下		外波	新潟県糸魚川市	
20 下		歌	新潟県糸魚川市	
21 上		青海	新潟県糸魚川市	
21 上		糸魚川	新潟県糸魚川市	
21 上		梶屋敷	新潟県糸魚川市	
21 上		能生	新潟県糸魚川市	<泊>坪屋又右衛門
21 上	閏 6/27	名立	新潟県上越市	
21 上		有間川	新潟県上越市	
21 上		長浜	新潟県上越市	
21 上		五智	新潟県上越市	塩焼多い
21 中		今町	新潟県見附市	船渡し
21 中		黒井	新潟県上越市	<泊>竹田太左衛門
21 中	閏 6/28	潟町	新潟県上越市	蓮池
21 中		米山寺村	新潟県上越市	薬師別当米山寺、泊り家
21 中		水野	新潟県上越市	泊り家 8・9 軒
21 下		米山	新潟県上越市	大難所、薬師別当米山寺(薬師如来)、食物なし
21 下		小杉	新潟県柏崎市	<泊>庄左衛門
21 下	閏 6/29	鯨波	新潟県柏崎市	瓜・西瓜下値
21 下		柏崎	新潟県柏崎市	松平越中守様御陣屋、※金砂山円光寺、閻魔堂、茶屋
22 上		荒浜	新潟県柏崎市	
22 上		宮川	新潟県柏崎市	<泊>柳屋長右衛門
22 上	7/ 朔	椎谷	新潟県柏崎市	
22 上		石地	新潟県柏崎市	
22 上		出雲崎	新潟県出雲崎町	代官野田栄吉様御陣屋、塩焼
22 中		山田	新潟県長岡市	塩焼場
22 中		寺泊	新潟県長岡市	
22 中		野積	新潟県長岡市	
22 中		弘智法印	新潟県長岡市	いろいろ不思議あり、高石
22 中		弥彦	新潟県弥彦村	弥彦大明神大社
22 中		岩室	新潟県新潟市	<泊>小松屋利右衛門
22 下	7/2	赤塚	新潟県新潟市	
22 下		内野	新潟県新潟市	新潟へ船に乗る
22 下		新潟	新潟県新潟市	白山大権現、木崎まで舟に乗る
22 下		松崎	新潟県新潟市	家不足
22 下		木崎	新潟県新潟市	<泊>渡辺新蔵
23 上	7/3	真野	新潟県聖籠町	家 2 軒、川船にて新潟へ
23 上		元町	新潟県新潟市	泊り家
23 上		築地	新潟県胎内市	赤坂屋安兵衛休、上茶できる所
23 上		乙	新潟県胎内市	※如意山乙宝寺(大日如来)、朱印 100 石、三重塔
23 中		桃崎浜	新潟県胎内市	入海
23 中		塩谷	新潟県村上市	
23 中		岩船	新潟県村上市	<泊>柏屋久四郎
23 中	7/4	村上	新潟県村上市	5 万 7000 石内藤紀伊守様、山城にて景地、<泊>佐五右衛門

旅程表

一 文政10年「湯殿山立山道中記」

頁段	月日	訪問地	現在所在地	宿泊・寺社・名所・名物等
17上	閏6/10	深谷	埼玉県深谷市	
17上		本庄	埼玉県本庄市	
17上		新町	群馬県高崎市	
17上		倉賀野	群馬県高崎市	
17上		高崎	群馬県高崎市	<泊>大黒屋九兵衛
17中	閏6/11	白岩	群馬県高崎市	坂東札所第十五番金峯山長谷寺
17中		水沢	群馬県渋川市	坂東札所(第十六番五徳山水沢寺)
17中		伊香保	群馬県渋川市	温泉
17中		榛名山	群馬県高崎市	<泊>山之坊
17中	閏6/12	松井田	群馬県安中市	
17中		妙義山	群馬県富岡市	白雲山、徒越し、関所手形上げる
17下		坂本	群馬県安中市	<泊>清水屋源吾、熊野大権現
17下	閏6/13	軽井沢	長野県軽井沢町	
17下		沓掛	長野県軽井沢町	
17下		追分	長野県軽井沢町	
17下		塩野	長野県御代田町	浅間山別当より登り、<泊>、別当真楽寺
18上	閏6/14	小諸	長野県小諸市	牧野内膳正様御城下
18上		田中	長野県東御市	
18上		海野	長野県東御市	
18上		上田	長野県上田市	<泊>小松屋太助、5万石松平伊賀守様
18上	閏6/15	鼠	長野県東御市	
18上		坂城	長野県坂城町	
18上		下戸倉	長野県千曲市	
18上		屋代	長野県千曲市	増田屋久左衛門休
18中		篠ノ井	長野県長野市	
18中		丹波島	長野県長野市	
18中		善光寺	長野県長野市	<泊>藤屋平五郎
18中	閏6/16	荒安	長野県長野市	
18中		宝光院	長野県長野市	戸隠大権現
18中		中院	長野県長野市	戸隠大権現
18中		奥院	長野県長野市	戸隠大権現、九頭龍大権現、御手洗池、<泊>妙智院
18下	閏6/17	野尻	長野県信濃町	
18下		関川	新潟県関川村	越後国関所
18下		田切	新潟県妙高市	
18下		二俣	新潟県妙高市	
18下		関山	新潟県妙高市	
18下		二本木	新潟県新潟市	<泊>竹内与五右衛門
18下	閏6/18	新井	新潟県妙高市	
19上		高田	新潟県上越市	15万石榊原遠江守様
19上		五智	新潟県上越市	※安国山五智国分寺(釈迦如来、他4体)
19上		長浜	新潟県上越市	
19上		有間川	新潟県上越市	
19中		名立	新潟県上越市	<泊>塚田屋又右衛門
19中	閏6/19	能生	新潟県糸魚川市	
19中		梶屋敷	新潟県糸魚川市	木島屋四郎左衛門休
19中		糸魚川	新潟県糸魚川市	1万石松平日向守様、姫川
19中		青海	新潟県糸魚川市	駒帰り
19中		歌	新潟県糸魚川市	親知らず子知らずという難所
19中		外波	新潟県糸魚川市	
19下		市振	新潟県糸魚川市	<泊>車屋平兵衛、榊原様関所、加賀守様関所
19下	閏6/20	泊	富山県朝日町	
19下		入善	富山県入善町	黒瀬川
19下		三日市	富山県黒部市	
19下		魚津	富山県魚津市	<泊>古川屋作兵衛、御陣屋

熊谷市史料集 4 近世道中記

平成 29 年（2017）3 月 24 日 発行

編集・発行 熊谷市教育委員会 社会教育課市史編さん室
〒360-0202 熊谷市妻沼東1-1（妻沼展示館内）
電話 048-567-0355

印 刷 大屋印刷株式会社
